

**東かがわ市**  
**男女共同参画に関する市民意識調査**  
**結果報告書**



トラッピー

ハートラ

(東かがわ市人権キャラクター)

**令和2年度**

**東かがわ市**

# 目 次

## I 調査概要

1 調査目的	2
2 調査設計	2
3 報告書の見方	2

## II 調査結果

あなた自身について	4
家庭生活と結婚観について	7
子育てや教育について	18
男女共同参画の視点での災害時の備えについて	20
ワーク・ライフ・バランスについて	21
就労について	27
地域・社会参加について	34
妊娠・出産について	37
男女間の暴力について	40
男女平等に関することについて	44
LGBTなど性的少数者について	59

## III 資料

ご意見・ご要望について	62
-------------	----

# I 調査概要

# I 調査概要

## 1 調査目的

平成 28 年に策定した「東かがわ市男女共同参画計画～みんなで輝くために～」の計画見直しの基礎資料とするための調査として実施しました。

## 2 調査設計

(1) 調査地域 東かがわ市

(2) 調査対象

調査種別	調査対象者	標本数
一般	市内在住の16歳以上の男女	500人

(3) 有効回収数

調査種別	有効回収数	有効回収率
一般	240	48.0%

(4) 調査方法 郵送配布一郵送回収

(5) 調査期間 令和2年 7月 13日 ~ 7月 31日

## 3 報告書見方

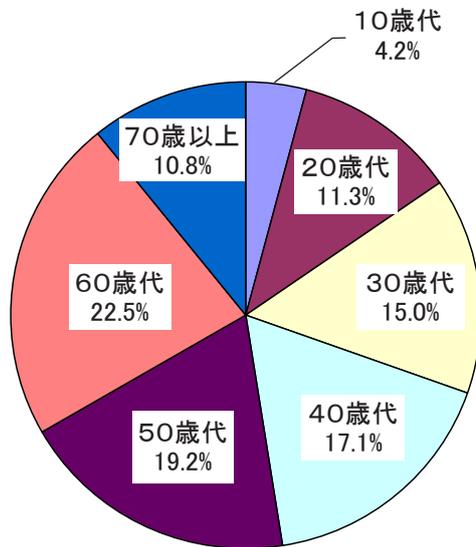
- (1) グラフ中の「N (Number of case の略)」はその質問の該当者数を表しており、回答率 (%) は、そのNを基数として算出しました。
- (2) 集計結果はすべて、小数点以下第2位を四捨五入しており、比率の数値の合計が100.0%ちょうどにならない場合があります。
- (3) 複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがあります。
- (4) 『賛成』…「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせたもの。  
『反対』…「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせたもの。

## II 調查結果

# あなた自身について

## ① 年齢

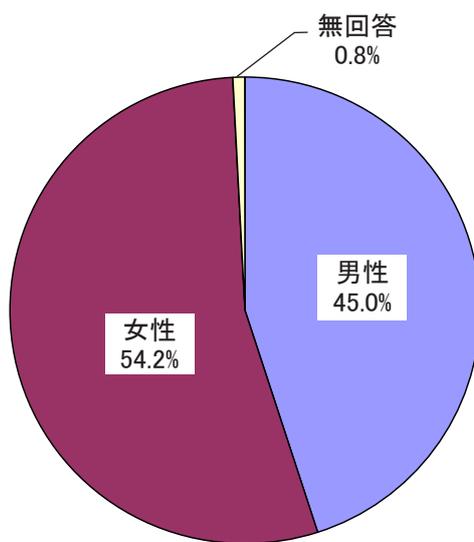
(令和2年7月1日現在)



N = 240

項目	人数	構成比
10歳代	10	4.2%
20歳代	27	11.3%
30歳代	36	15.0%
40歳代	41	17.1%
50歳代	46	19.2%
60歳代	54	22.5%
70歳以上	26	10.8%
合計	240	100.0%

## ② 自認する性別

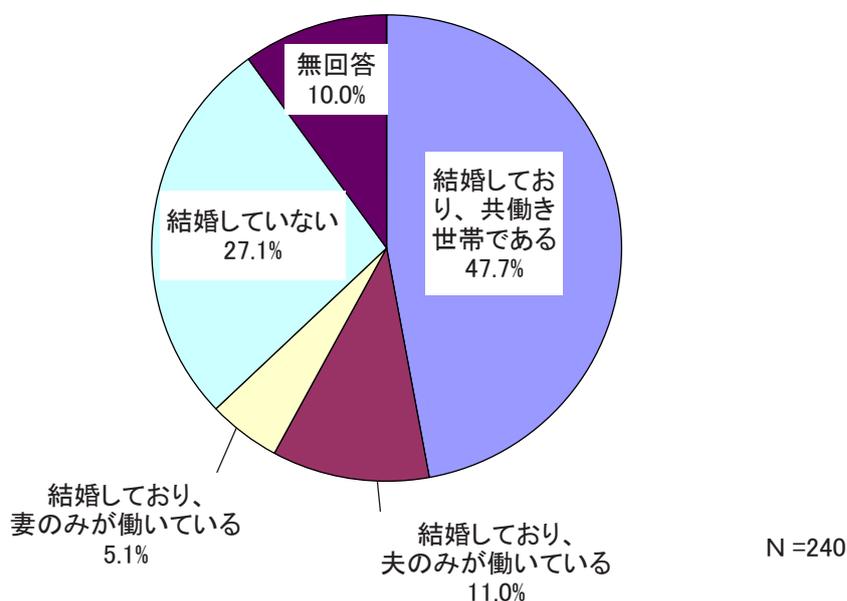


N = 240

項目	人数	構成比
男性	108	45.0%
女性	130	54.2%
無回答	2	0.8%
合計	240	100.0%

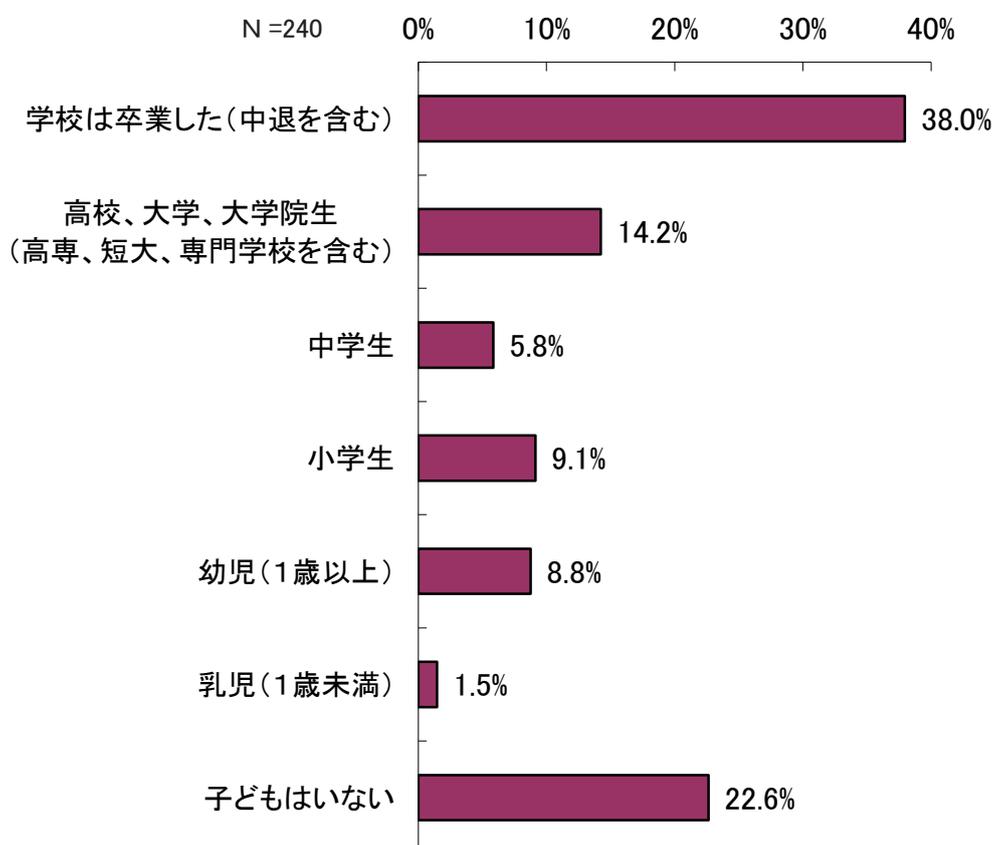
### ③ 結婚の有無

結婚については、「結婚しており、共働き世帯である」が最も高くなっており（47.7%）、次いで「結婚していない」（27.1%）となっています。

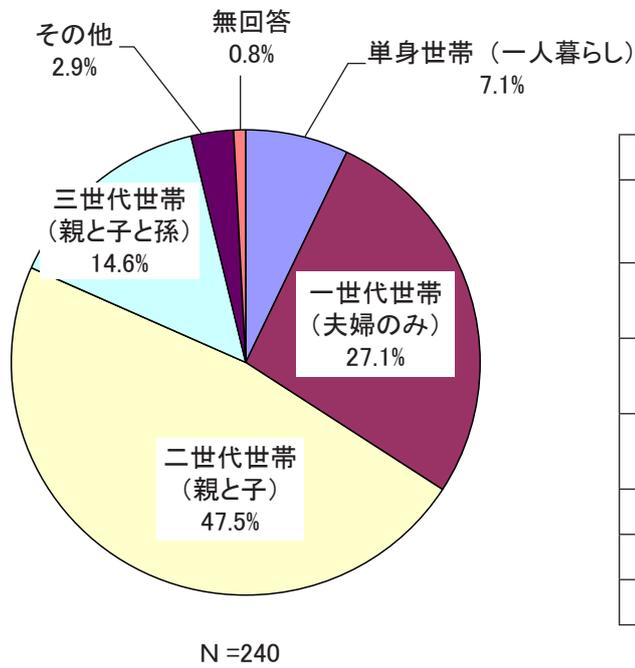


### ④ 子どもの有無

子どもの有無については、「学校は卒業した（中退を含む）」が最も高く（38.0%）、次いで「子どもはいない」（22.6%）となっています。



⑤ 世帯構成



項目	人数	構成比
単身世帯 (一人暮らし)	17	7.1%
一世代世帯 (夫婦のみ)	65	27.1%
二世帯世帯 (親と子)	114	47.5%
三世代世帯 (親と子と孫)	35	14.6%
その他	7	2.9%
無回答	2	0.8%
合計	240	100.0%

【その他】

- ・ 子のみ
- ・ 夫婦と妹
- ・ 親と祖父母

# 家庭生活と結婚観について

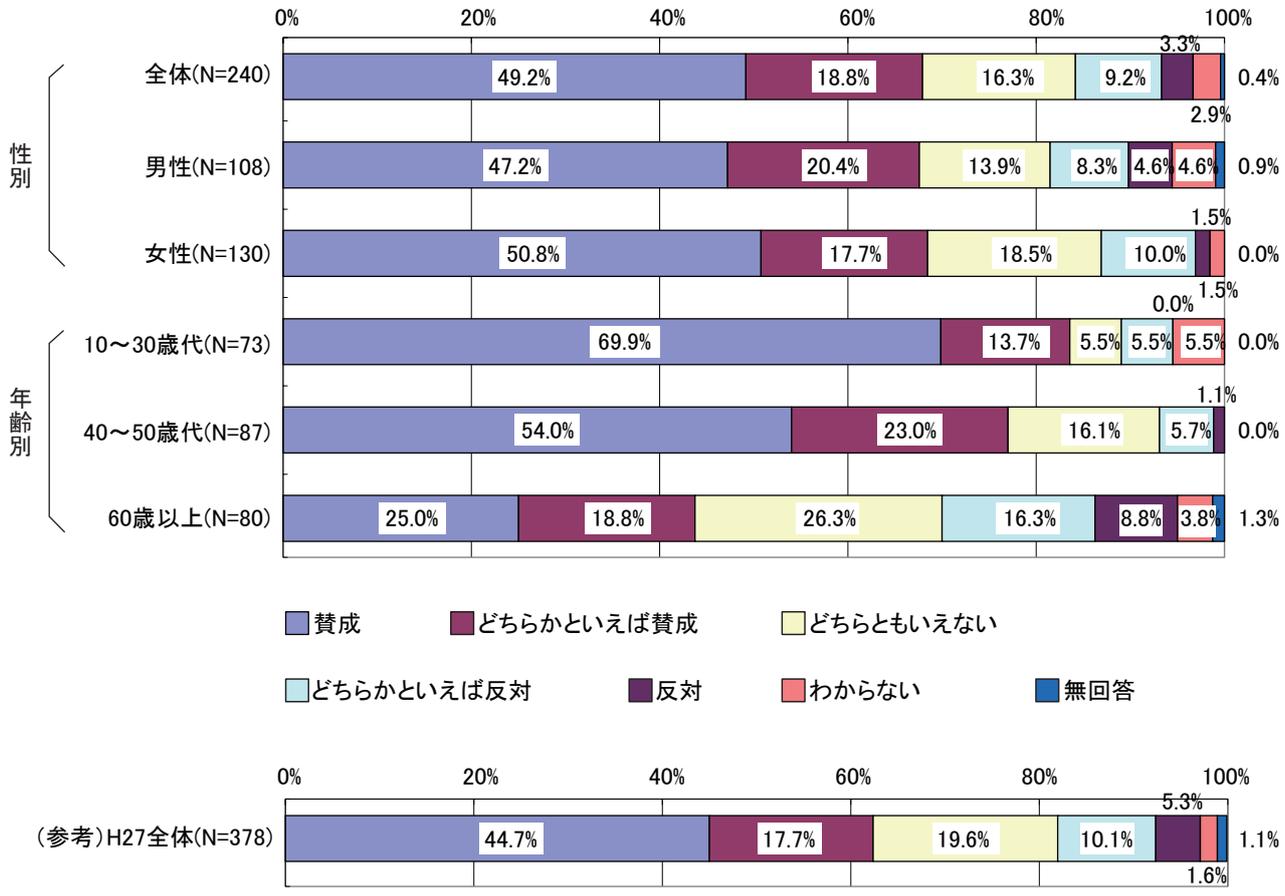
問1 結婚・離婚について、あなたはどのように思いますか。 (〇は各項目ごとに1つつ)

## 【ア 結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもどちらでもよい】

全体では、「賛成」が最も高く（49.2%）、「どちらかといえば賛成」（18.8%）を合わせると、結婚は個人の自由であるとの考えに『賛成』が7割を占めています。一方、「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた『反対』は1割となっています。

また、性別でみると、『賛成』の回答は、女性 50.8%、男性 47.2%と、女性が男性を3.6ポイント上回っています。

さらに、年齢別でみると、10～30歳代で「賛成」の回答が最も高く（69.9%）、「どちらかといえば賛成」を合わせると、『賛成』が8割以上を占めています。年齢が高くなるほど『賛成』は低くなり、『反対』の割合が高くなっています。

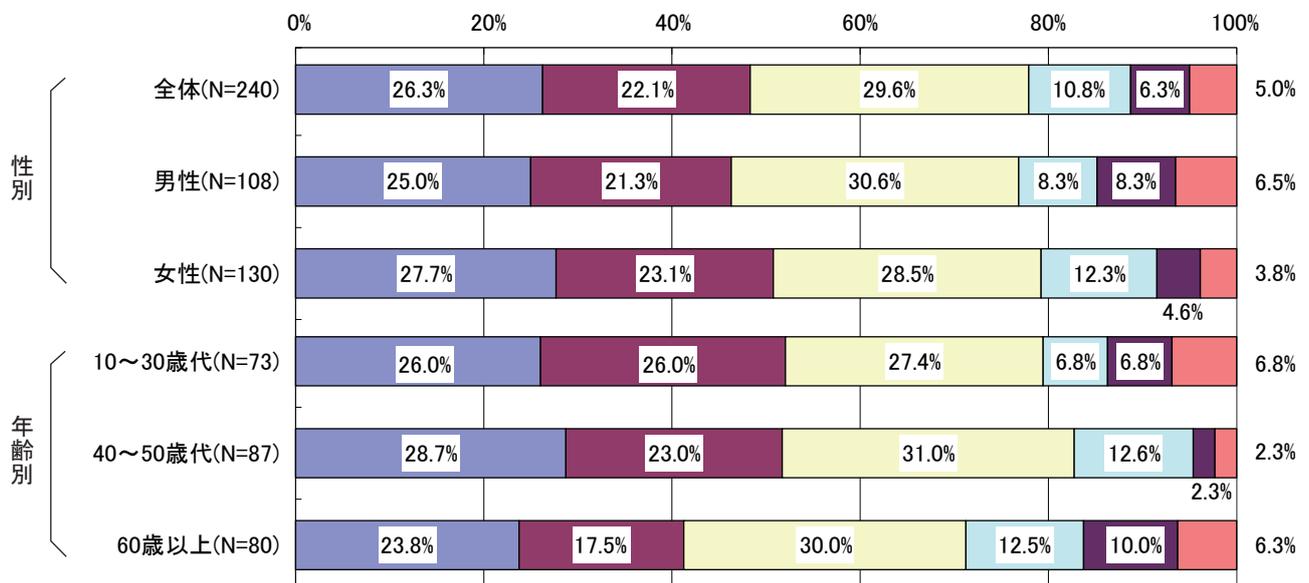


【イ 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい】

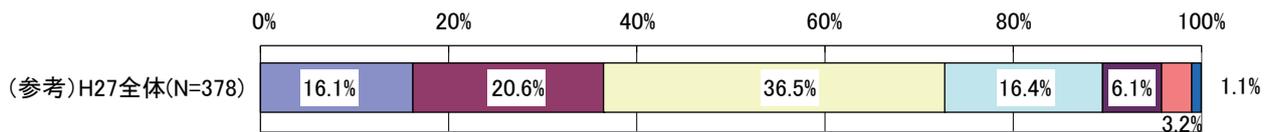
全体では、「どちらともいえない」(29.6%)が最も高いものの、「賛成」(26.3%)と「どちらかといえ  
ば賛成」(22.1%)を合わせた『賛成』が5割を占めています。一方、「反対」と「どちらかといえ  
ば反対」を合わせた『反対』は2割となっています。

また、性別でみると、「賛成」は、女性27.7%、男性25.0%と女性が男性を2.7ポイント上回っています。

さらに、年齢別でみると、どの年齢も「どちらともいえない」が最も高いものの、10～30歳代の『賛成』  
が5割を占め高くなっています。年齢が高くなるほど『賛成』は低くなっています。



■ 賛成      ■ どちらかといえば賛成      ■ どちらともいえない  
■ どちらかといえば反対      ■ 反対      ■ わからない      ■ 無回答

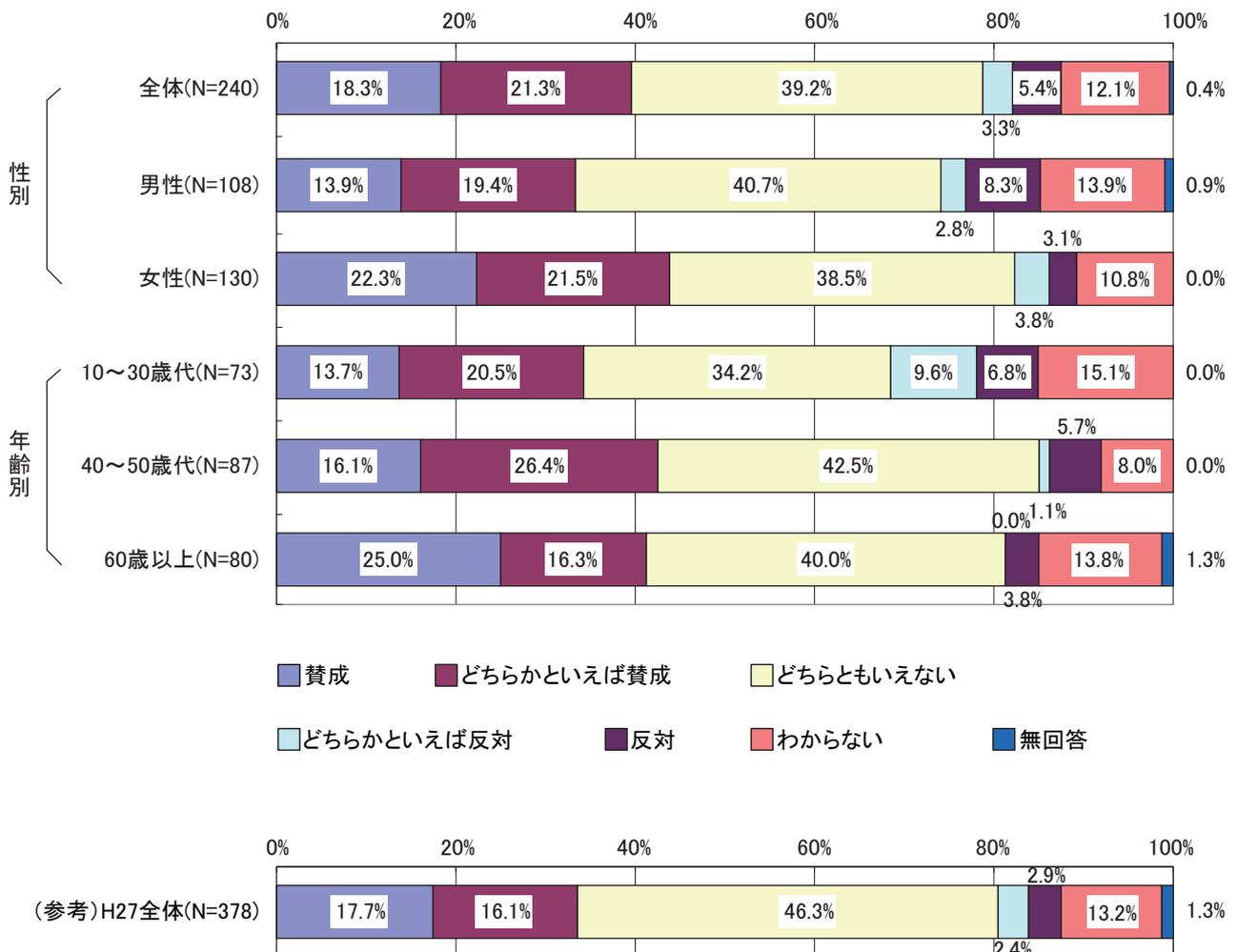


【ウ 一般的に今の社会では離婚すると女性のほうが不利である】

全体では、「どちらともいえない」(39.2%)が最も高いものの、「賛成」(18.3%)と「どちらかといえば賛成」(21.3%)を合わせた『賛成』が4割を占めています。一方、「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた『反対』は8.7%となっています。

また、性別でみると、『賛成』は、女性43.8%、男性33.3%と、女性が男性を10.5ポイント上回っています。

さらに、年齢別でみると、どの年齢も「どちらともいえない」が最も高いものの、40～50歳代は『賛成』が4割を占め高くなっています。

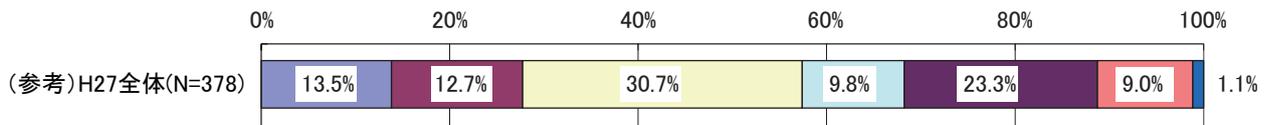
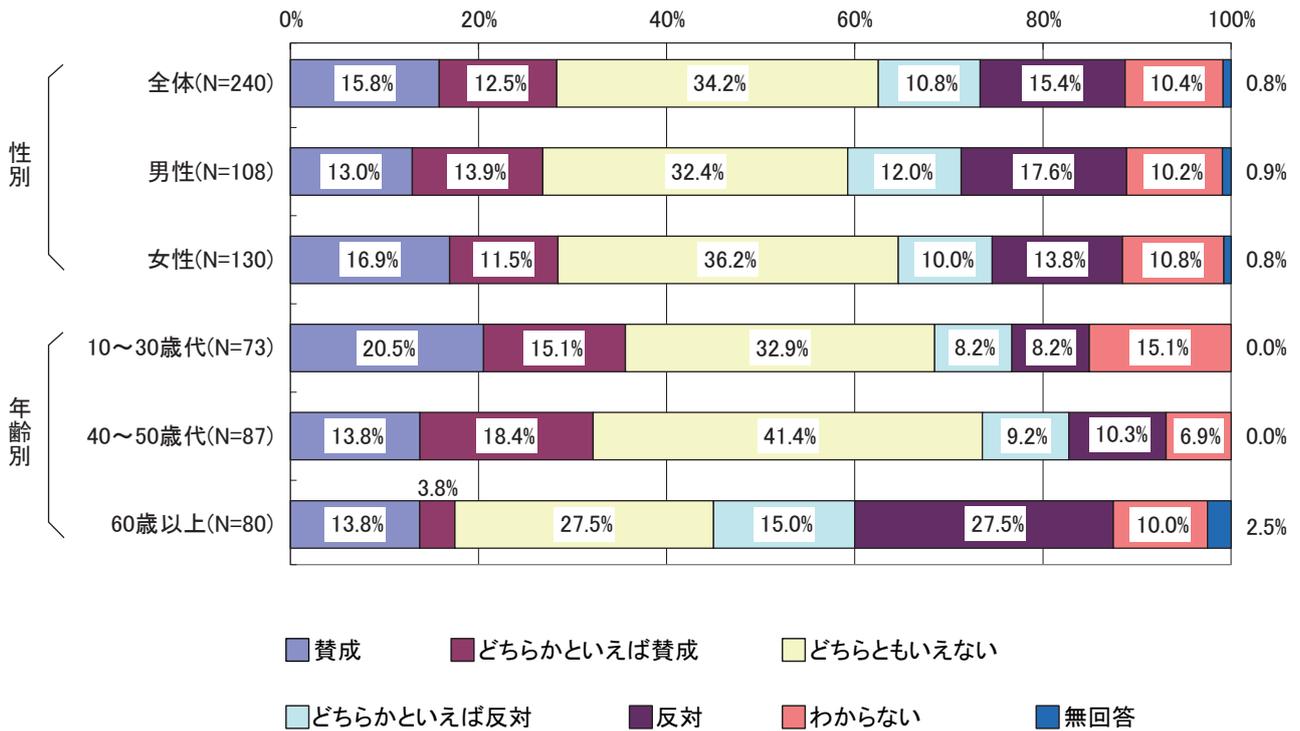


【エ 夫婦が別々の姓を選択できるようにした方がよい】

全体では、「どちらともいえない」(34.2%) が最も高いものの、「どちらかといえば反対」(10.8%) と「反対」(15.4%) を合わせた『反対』が3割を占めています。

また、性別でみると、『反対』は、男性 29.6%、女性 23.8%と、男性が女性を 5.8 ポイント上回っています。

さらに、年齢別でみると、10～50歳代は「どちらともいえない」が最も高いものの、『賛成』の割合も3割を占めています。一方、「60歳以上」は、『反対』が4割を占め高くなっています。



問2 あなたの家庭では、次のことを誰が行っていますか。 (〇は各項目ごとに1つずつ)

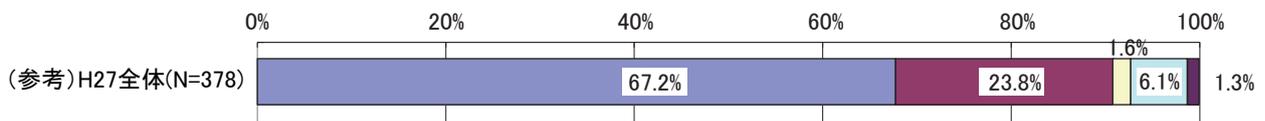
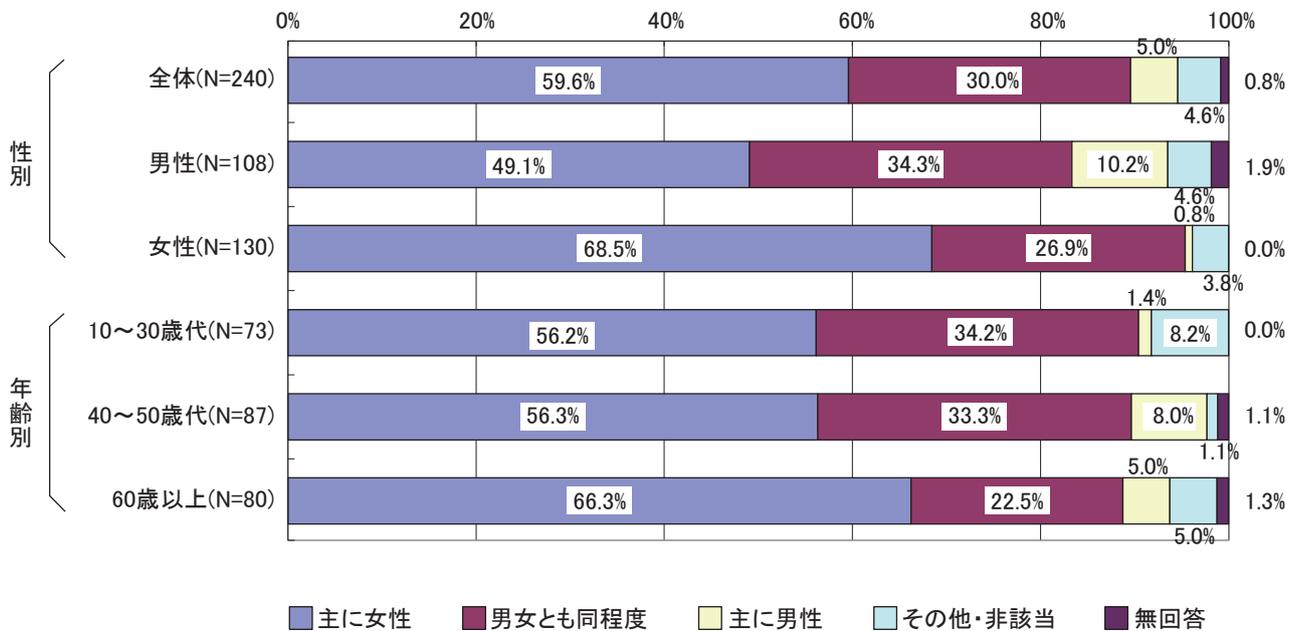
家庭の役割分担については、掃除をする、洗濯をする、食事の支度・片付けをする、日常の家計管理をする、の項目で「主に女性の役割」が6割～8割を占め高くなっています。

一方、地域活動(町内会、PTA活動、ボランティアなど)をする、は「男女とも同程度」が最も高く(35.0%)、子育ては「主に女性の役割」が40.8%、「男女とも同程度」が34.2%となっています。

【男女別】

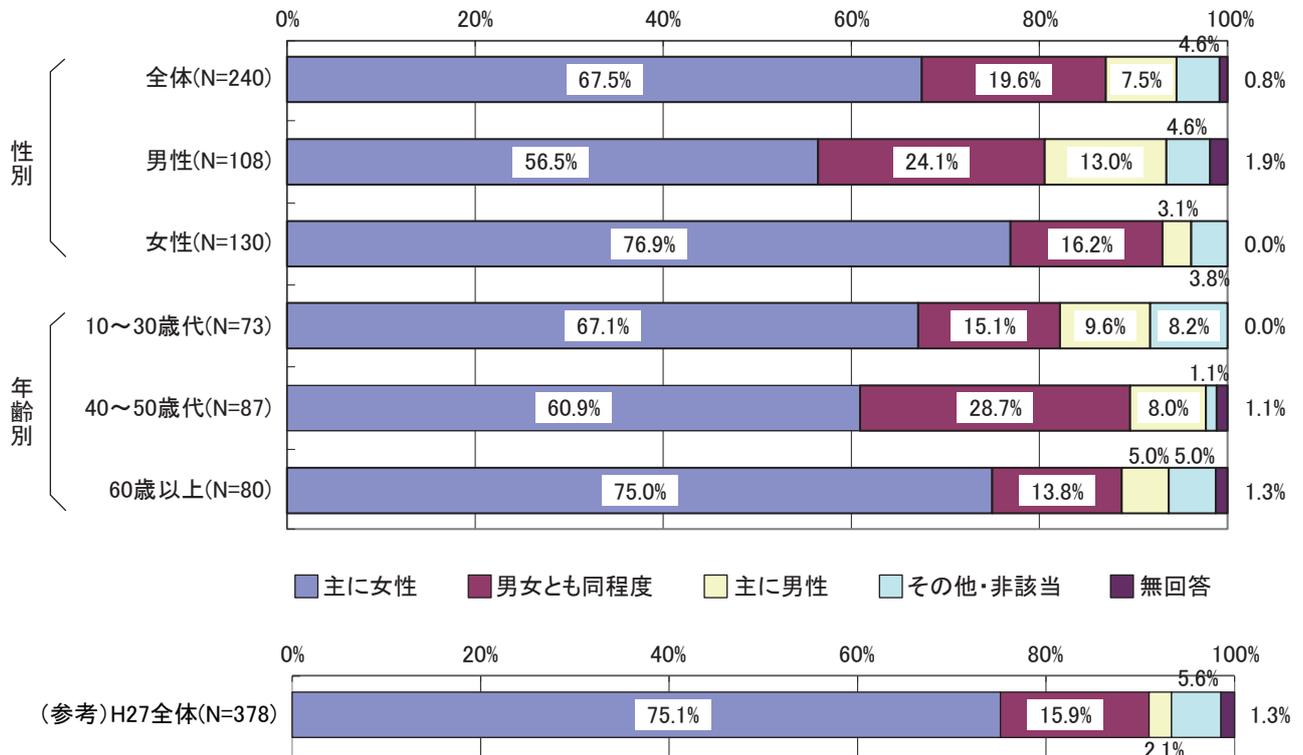
【ア 掃除をする】

男女ともに「主に女性の役割」が大半を占め(それぞれ49.1%、68.5%)、女性が男性を19.4ポイント上回っています。



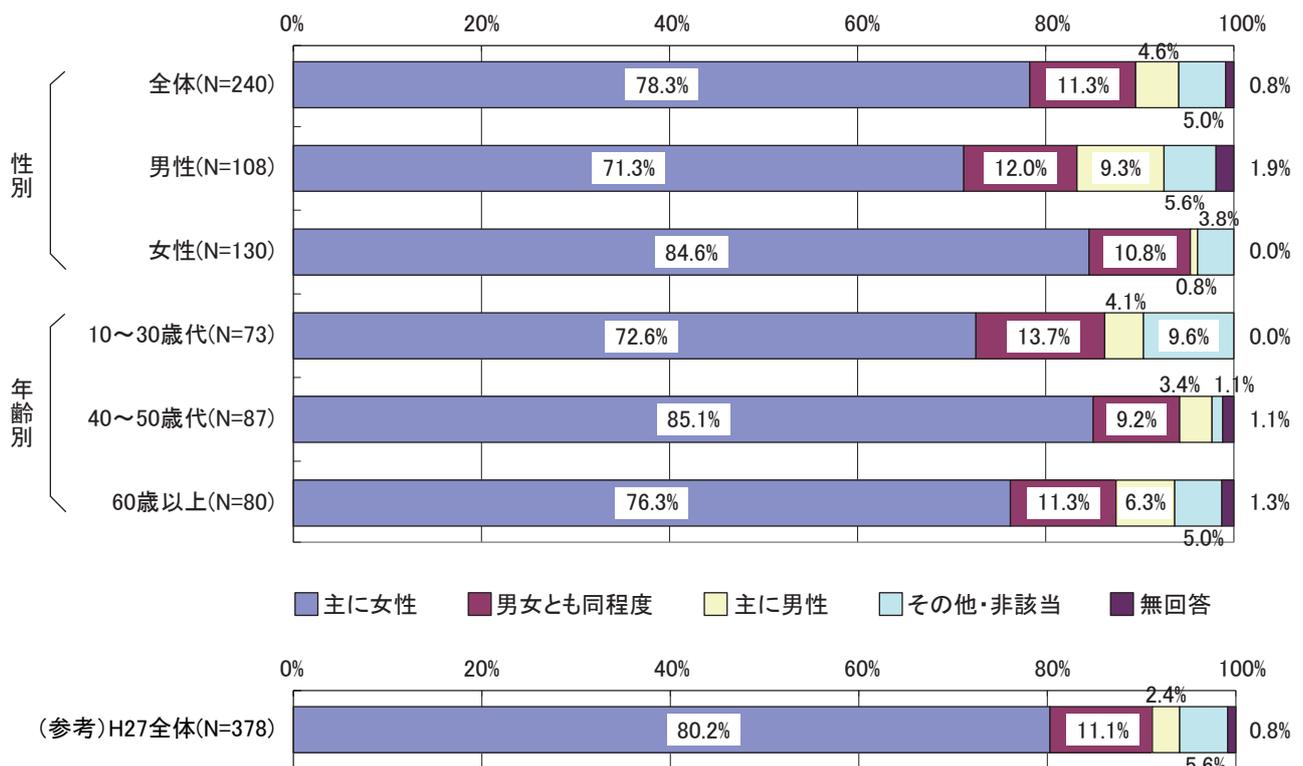
## 【イ 洗濯をする】

男女ともに「主に女性の役割」が大半を占め（それぞれ56.5%、76.9%）、女性が男性を20.4ポイント上回っています。



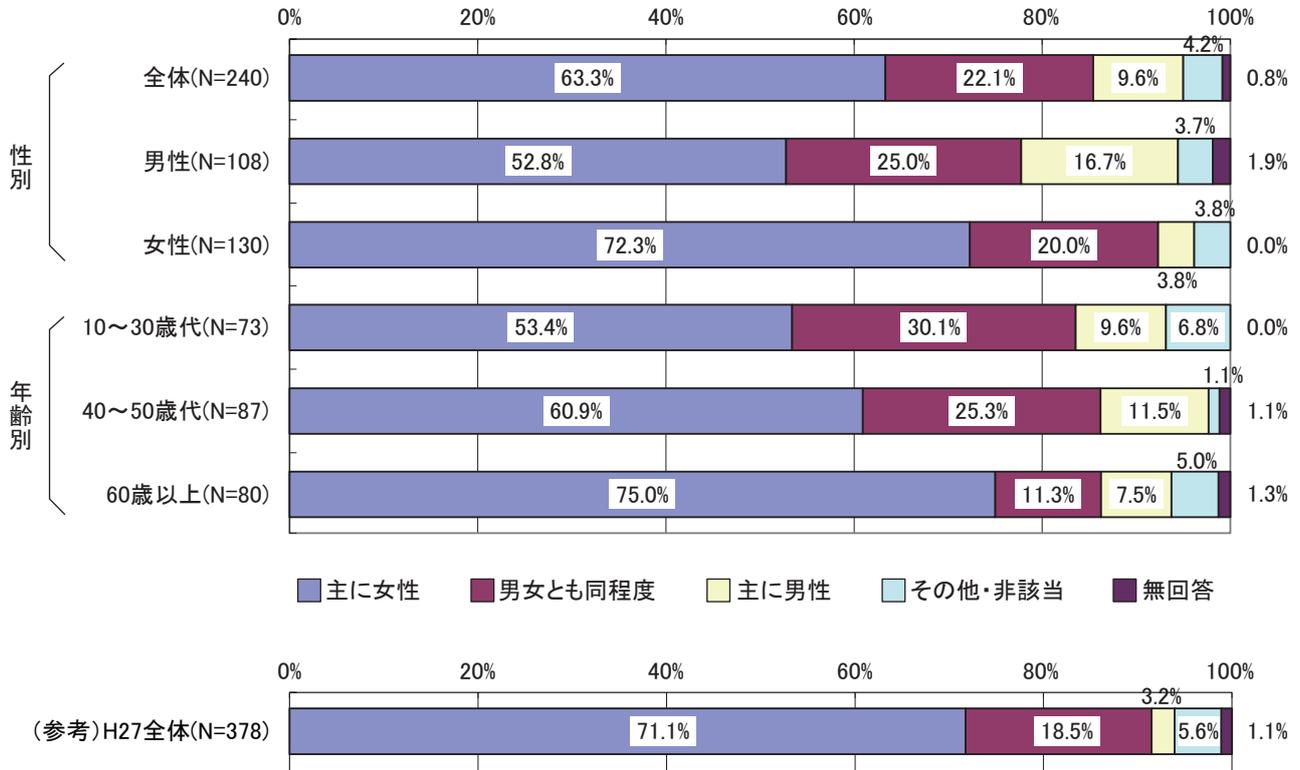
## 【ウ 食事の支度をする】

男女ともに「主に女性の役割」が大半を占め（それぞれ71.3%、84.6%）、女性が男性を13.3ポイント上回っています。



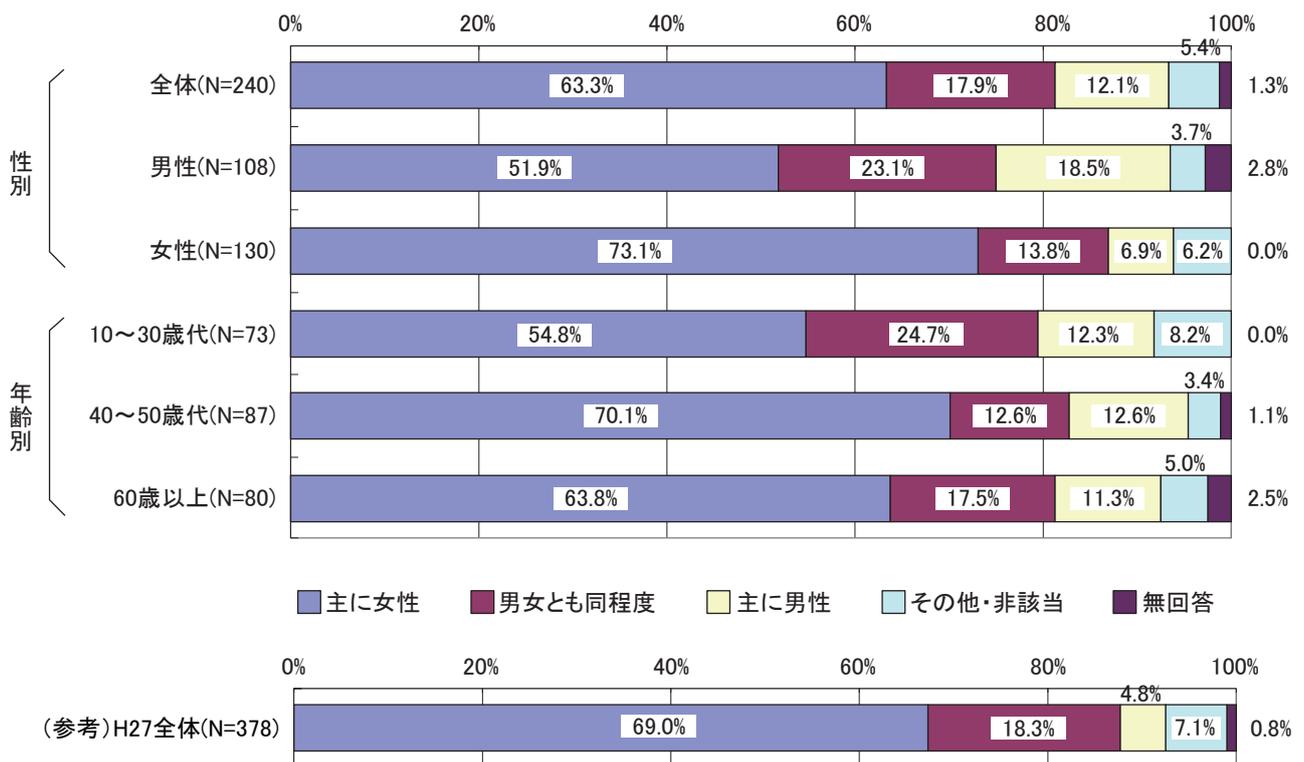
### 【エ 食事の後片付けをする】

男女ともに「主に女性の役割」が大半を占め（それぞれ52.8%、72.3%）、女性が男性を19.5ポイント上回っています。



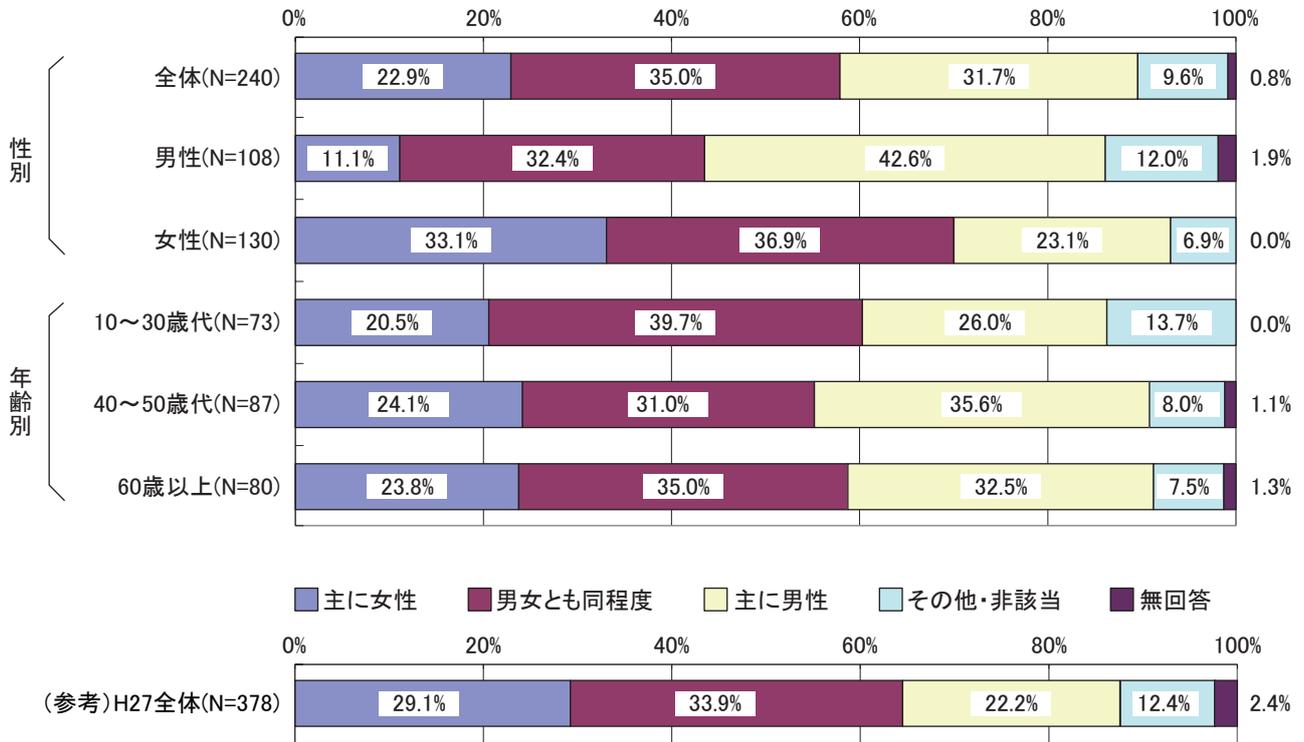
### 【オ 日常の家計の管理をする】

男女ともに「主に女性の役割」が大半を占め（それぞれ51.9%、73.1%）、女性が男性を21.2ポイント上回っています。



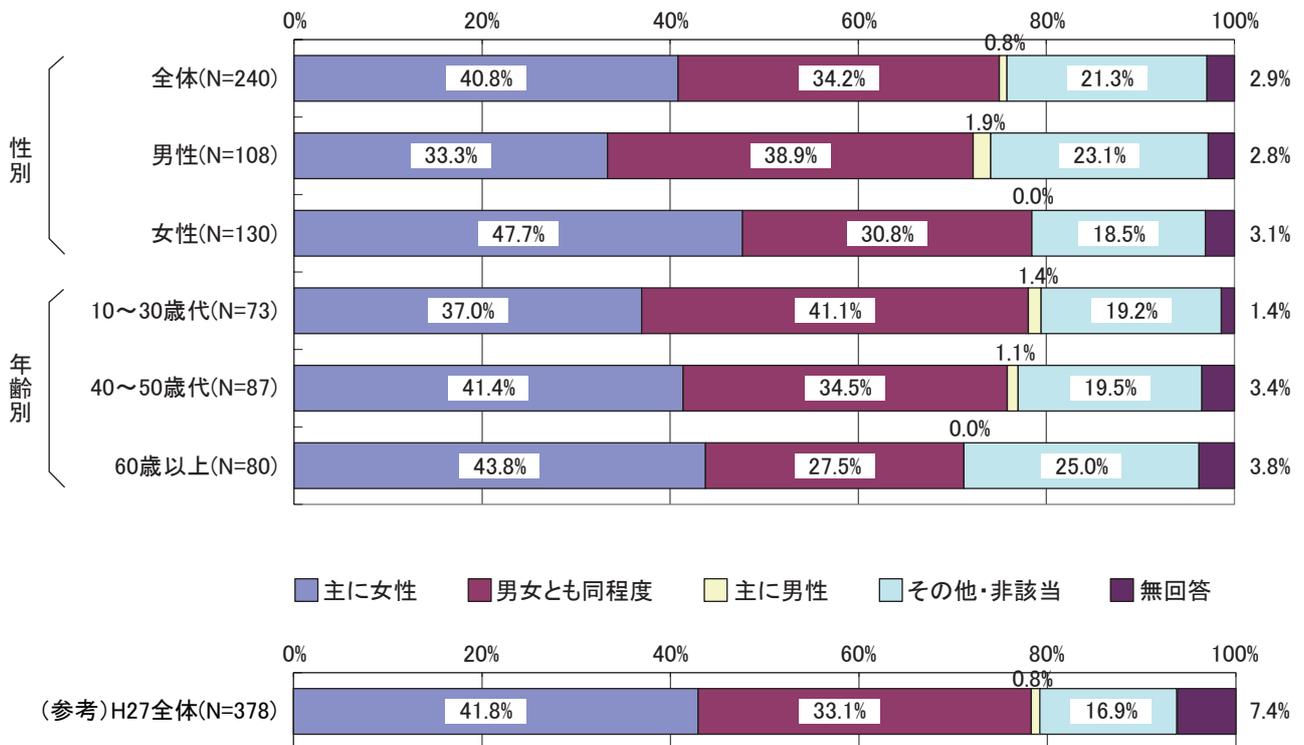
### 【カ 地域活動（町内会、PTA活動、ボランティアなど）をする】

男女ともに「男女とも同程度」が最も高くなっており（それぞれ32.4%、36.9%）、女性が男性を4.5ポイント上回っています。



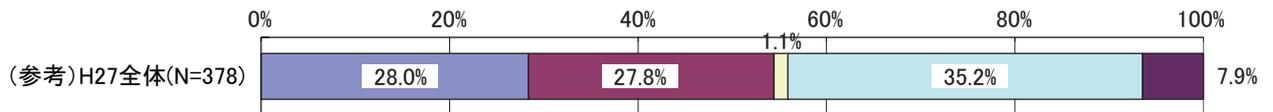
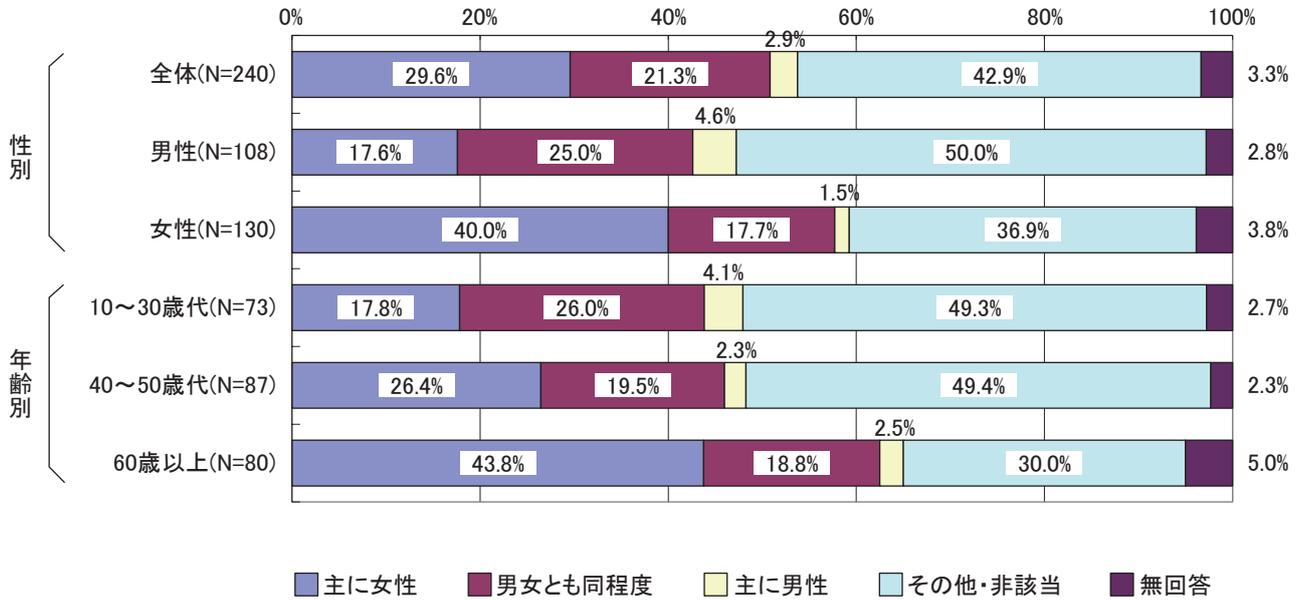
### 【キ 子育て】

男性は「男女とも同程度」が最も高く（38.9%）、女性は「主に女性の役割」が高くなっています（47.7%）。



【ク 介護】

男性は「その他・非該当」が最も高く（50.0%）、女性は「主に女性の役割」が高くなっています（40.0%）。



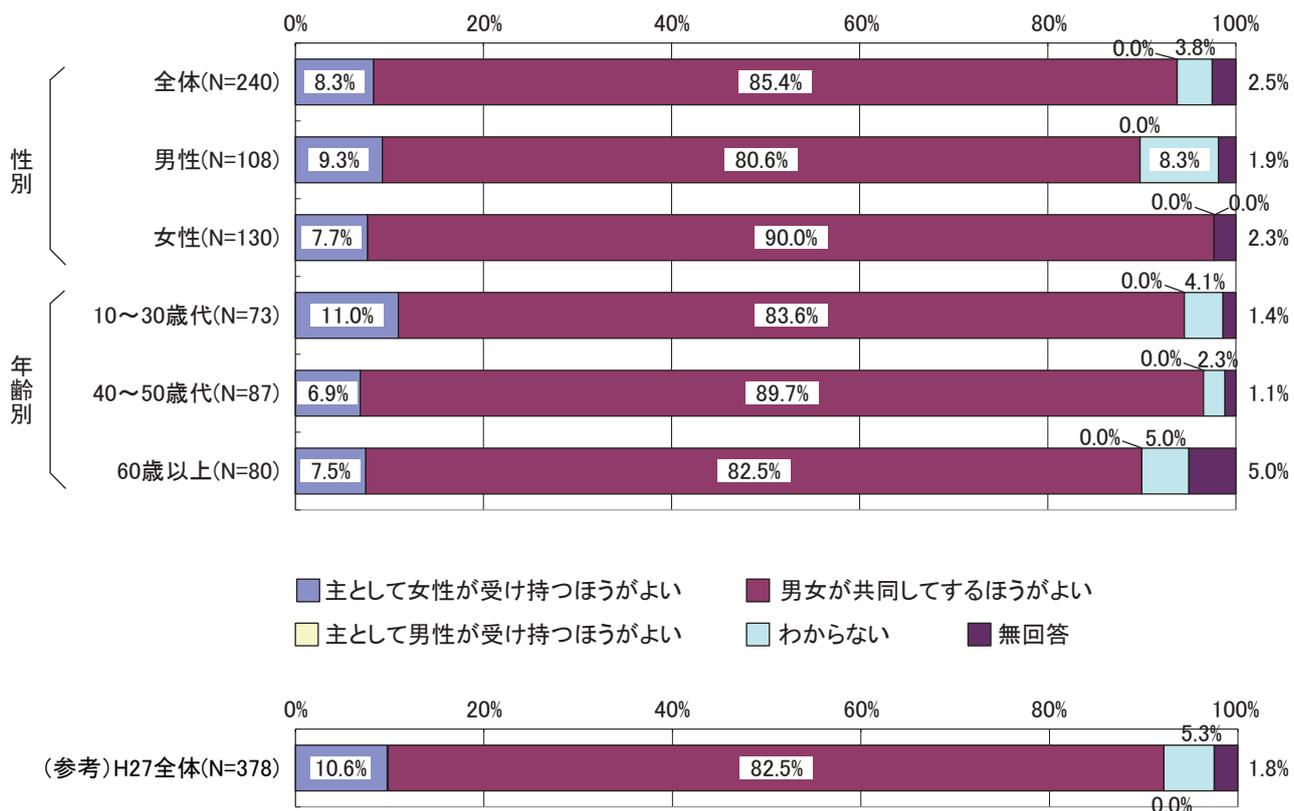
問3 家庭内での育児・介護・家事について、あなたはどのように思いますか。

(○は各項目ごとに1つずつ)

(1) 家庭内における育児・介護・家事の分担について

全体では、「男女が共同してするほうがよい」が最も高く(85.4%)、次いで、「主として女性が受け持つほうがよい」(8.3%)となっています。

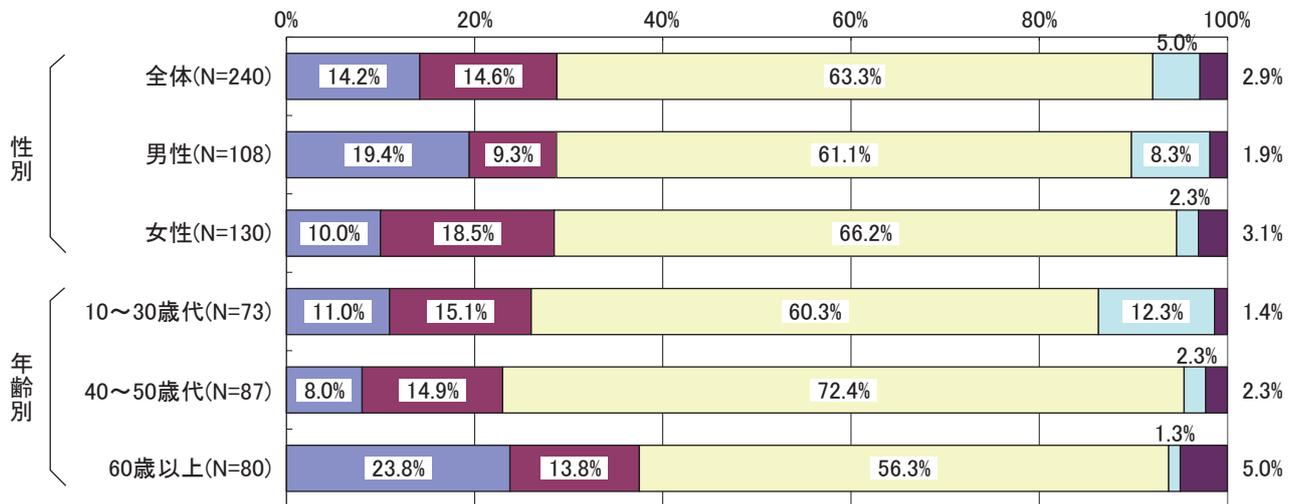
また、性別でみると、男女ともに「男女が共同してするほうがよい」が大半を占めており(それぞれ80.6%、90.0%)、女性が男性を9.4ポイント上回っています。



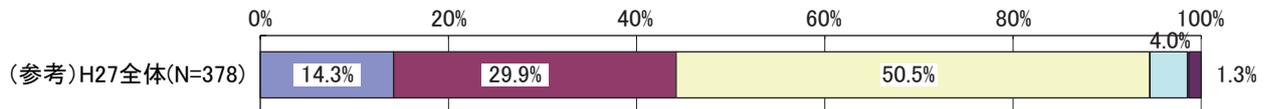
## (2) 育児・介護に関する支援

全体では、「家族だけでは過重な負担がかかるので、公的保障による支援が必要である」が最も高く（63.3%）、次いで、「家族だけでは過重な負担がかかるので、地域社会による支援が必要である」（14.6%）となっています。

また、性別でみると、男女ともに「家族だけでは過重な負担がかかるので、公的保障による支援が必要である」が最も高く、女性が男性を5.1ポイント上回っています。



- 基本的に家族が行うほうがよい
- 家族だけでは過重な負担がかかるので、地域社会による支援が必要である
- 家族だけでは過重な負担がかかるので、公的保障(就学前施設・介護施設等)による支援が必要である
- わからない
- 無回答

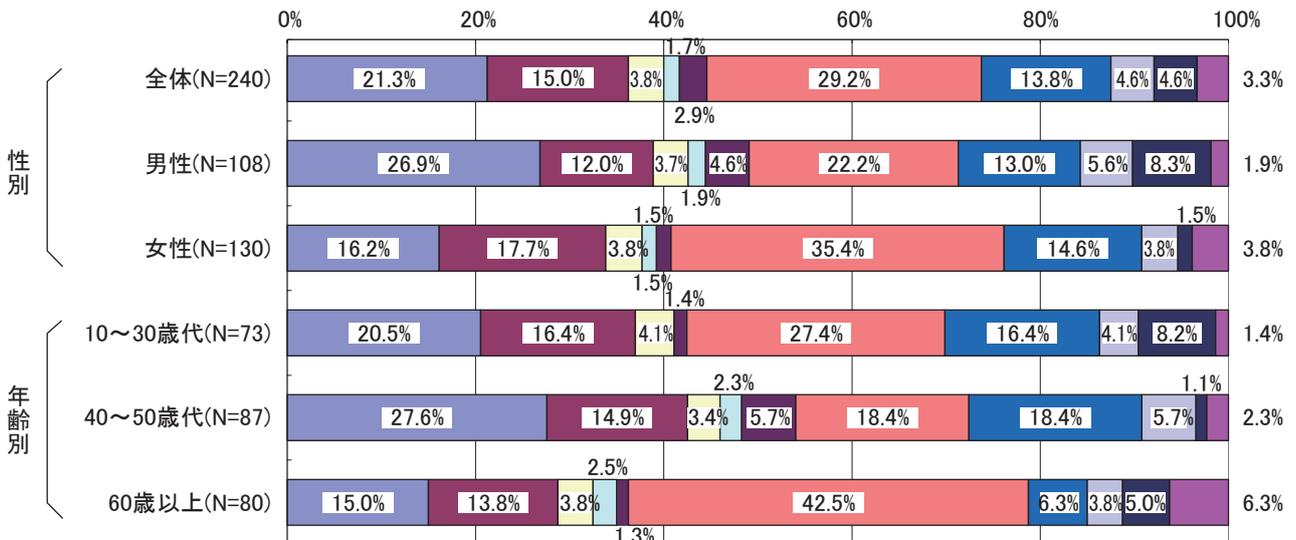


## 子育てや教育について

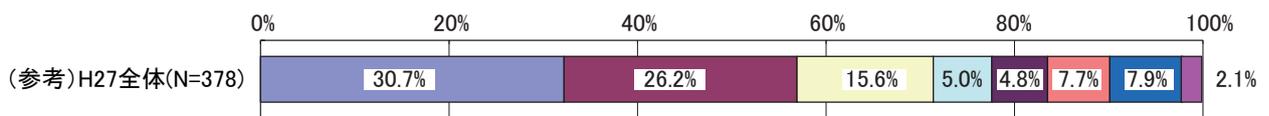
問4 近年、出生率が低下し、少子化傾向が進んでいますが、あなたはその理由は何だと思いますか。  
(○は1つ)

全体では、「結婚を選択しない人が増えたから」が最も高く(29.2%)、次いで、「子育てにかかる費用の負担が大きいから」(21.3%)となっています。

また、性別でみると、男性は「子育てにかかる費用の負担が大きいから」が最も高く26.9%で、女性は「結婚を選択しない人が増えたから」が最も高く35.4%となっています。



■ 子育てにかかる費用の負担が大きいから  
■ 子育てと仕事の両立が難しいから  
■ 子育てを支援する施設や制度が十分でないから  
■ 地域の人など、身近で子育てを支えてくれる人がいなくなったから  
■ 子育てが女性(妻)の負担になっており、男性(夫)の協力が少ないから  
■ 結婚を選択しない人が増えたから  
■ 晩婚化が進んだから  
■ その他  
■ わからない  
■ 無回答



■ 子育てにかかる費用の負担が大きいから  
■ 子育てと仕事の両立が難しいから  
■ 子育てを支援する施設や制度が十分でないから  
■ 地域の人など、身近で子育てを支えてくれる人がいなくなったから  
■ 子育てが女性(妻)の負担になっており、男性(夫)の協力が少ないから  
■ その他  
■ わからない  
■ 無回答

### 【その他】

- ・一人の方が気が楽だから。
- ・子どもを育てるのにお金がかかりすぎる時代になってしまったので。
- ・結婚することのメリットが少ないためだと思う。
- ・収入が安定しないため、結婚・出産が負担になると考える人が多いため。
- ・核家族になったから。
- ・子育てに魅力を感じなくなったから。
- ・子どもはほしいができないから。

問5 あなたは、自分の子どもには将来「どのような生き方」をしてほしいと思いますか。

(男の子、女の子それぞれの場合について、2つまで)

### (1) 男の子の場合

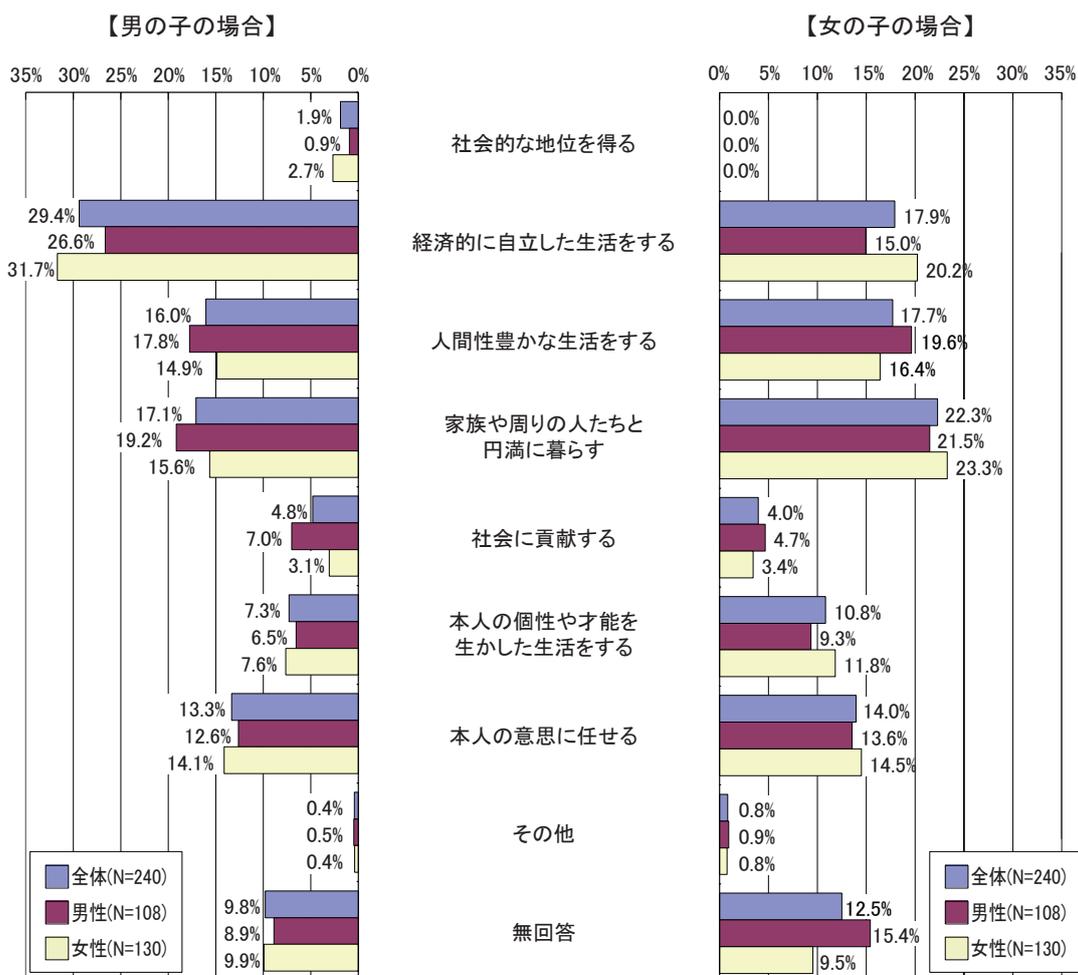
全体では「経済的に自立した生活をする」が最も高く(29.4%)、次いで、「家族や周りの人たちと円満に暮らす」(17.1%)、「人間性豊かな生活をする」(16.0%)の順となっています。

また、性別で見ると、男女ともに「経済的に自立した生活をする」が最も高く女性が男性を5.1ポイント上回っています。

### (2) 女の子の場合

全体では「家族や周りの人たちと円満に暮らす」が最も高く(22.3%)、次いで、「経済的に自立した生活をする」(17.9%)、「人間性豊かな生活をする」(17.7%)の順となっています。

また、性別で見ると、男女ともに「家族や周りの人たちと円満に暮らす」が最も高く、女性が男性を1.8ポイント上回っています。



### 【その他】

- ・他人に迷惑をかけないように責任を持って行動してほしい。

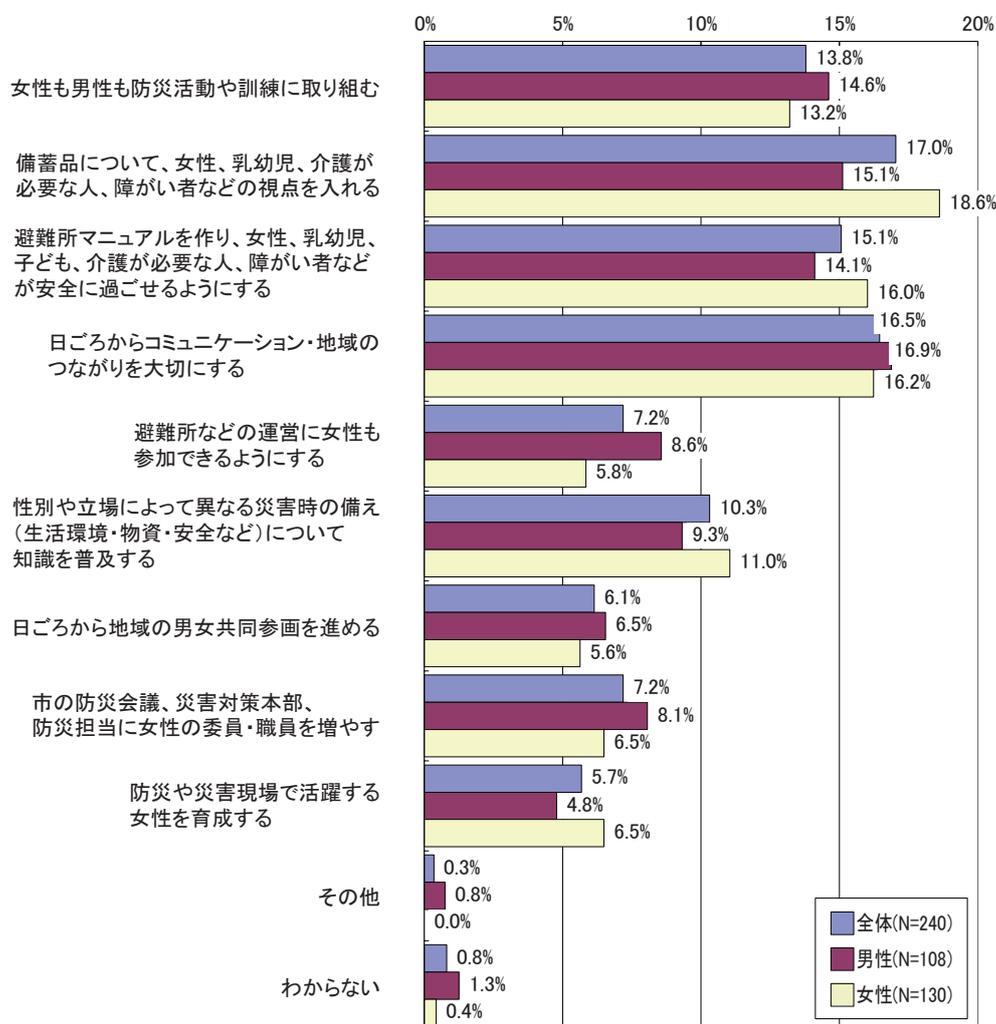
## 男女共同参画の視点での災害時の備えについて

問6 東日本大震災や熊本地震などの教訓から、平時の防災体制や災害発生後の対応にも男女共同参画の視点が必要だと指摘されています。

災害に備えるために、これからどのような施策が必要だと思いますか。 (〇はいくつでも)

全体では、「備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障がい者などの視点を入れる」が最も高く(17.0%)、次いで、「日ごろからのコミュニケーション・地域のつながりを大切にする」(16.5%)となっています。

性別で見ると、男性は、「日ごろからのコミュニケーション・地域のつながりを大切にする」が最も高く16.9%で、女性は「備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障がい者などの視点を入れる」が最も高く18.6%となっています。



### 【その他】

- ・復旧の為に資金の準備。
- ・自分達でも最低3日は生活できるだけの備えを各家庭にしてもらい、誰かがどうにかしてくれる甘い考えを持たせない。
- ・日本人以外の方にも分かりやすいマニュアルが必要。

# ワーク・ライフ・バランスについて

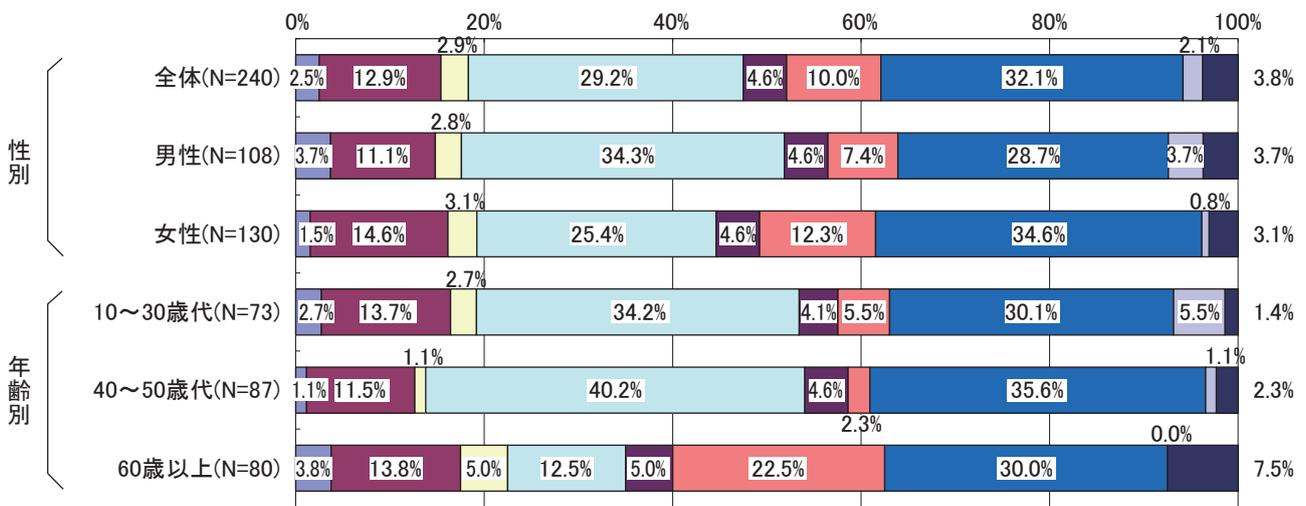
問7 次のことについて、あなたの「希望」に近いものを選んでください。

(○は1つ)

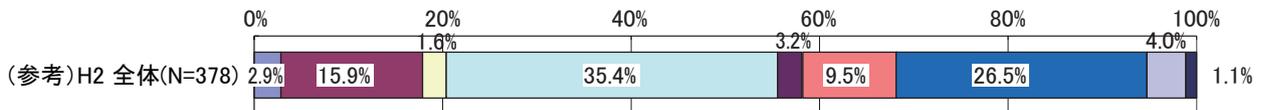
全体では、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をいづれも並立して実施したい」が最も高く（32.1%）、次いで「仕事と家庭生活をともに優先したい」となっています（29.2%）。

また、性別で見ると、男性では「仕事と家庭生活をともに優先したい」が最も高く34.3%で、女性は「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をいづれも並立して実施したい」が最も高く、34.6%となっています。

さらに、年齢別にみると、10～50歳代では「仕事と家庭生活をともに優先したい」が最も高く、60歳以上は「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をいづれも並立して実施したい」が最も高くなっています。



- 「仕事」を優先したい
- 「家庭生活」を優先したい
- 「地域・個人の生活※」を優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をいづれも並立して実施したい
- わからない
- 無回答



問8 それでは、あなたの「現実（現状）」に最も近いものを選んでください。（〇は1つ）

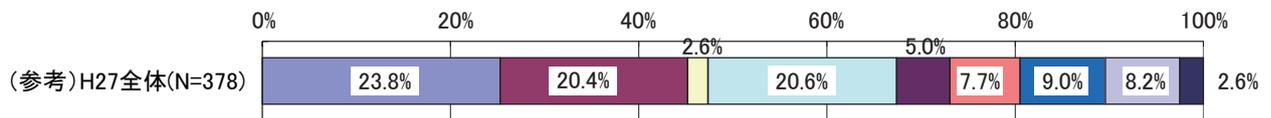
全体では、「仕事と家庭生活をともに優先している」が最も高く（30.4%）、次いで「家庭生活を最も優先している」となっています（21.7%）。

また、性別で見ると、男女ともに「仕事と家庭生活をともに優先している」が最も高く、男性が女性を3.2ポイント上回っています。

さらに、年齢別で見ると、10～50歳代は「仕事と家庭生活をともに優先している」が最も高く、10～30歳代で（28.8%）、40～50歳代は（36.8%）となっている。60歳以上は「家庭生活を最も優先している」（31.3%）が最も高くなっています。



- 「仕事」を最も優先している
- 「家庭生活」を最も優先している
- 「地域・個人の生活」を最も優先している
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をいずれも並立して実施している
- わからない
- 無回答



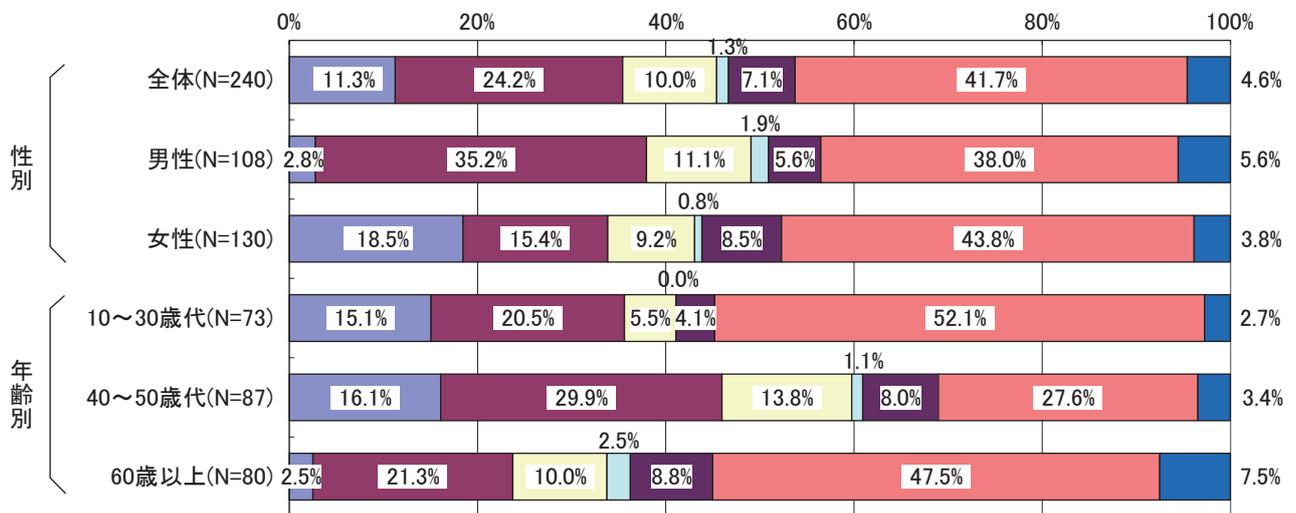
問9 あなたは、育児休業・介護休業を取得されましたか。また、今後取得する予定がありますか。  
(○は各項目ごとに1つずつ)

育児休業の取得の有無については、「該当しない」を除いて、「制度はあるが取得したことはない」が最も高く(24.2%)、次いで「取得した・取得する予定」(11.3%)となっています。

介護休業の取得についても同様で、「該当しない」を除いて、「制度はあるが取得したことはない」が最も高く(26.7%)、次いで「制度がない」(9.2%)となっており、「取得した・取得する予定」は1割未満となっています(3.3%)。

【ア 育児休業】

性別でみると、「該当しない」を除いて、男性は「制度はあるが取得したことはない」が最も高く(35.2%)、一方、女性は「取得した・取得する予定」(18.5%)が高くなっており、意識に違いが見られます。「取得した・取得する予定」は、男性2.8%、女性18.5%で、女性が男性を15.7ポイント上回っています。

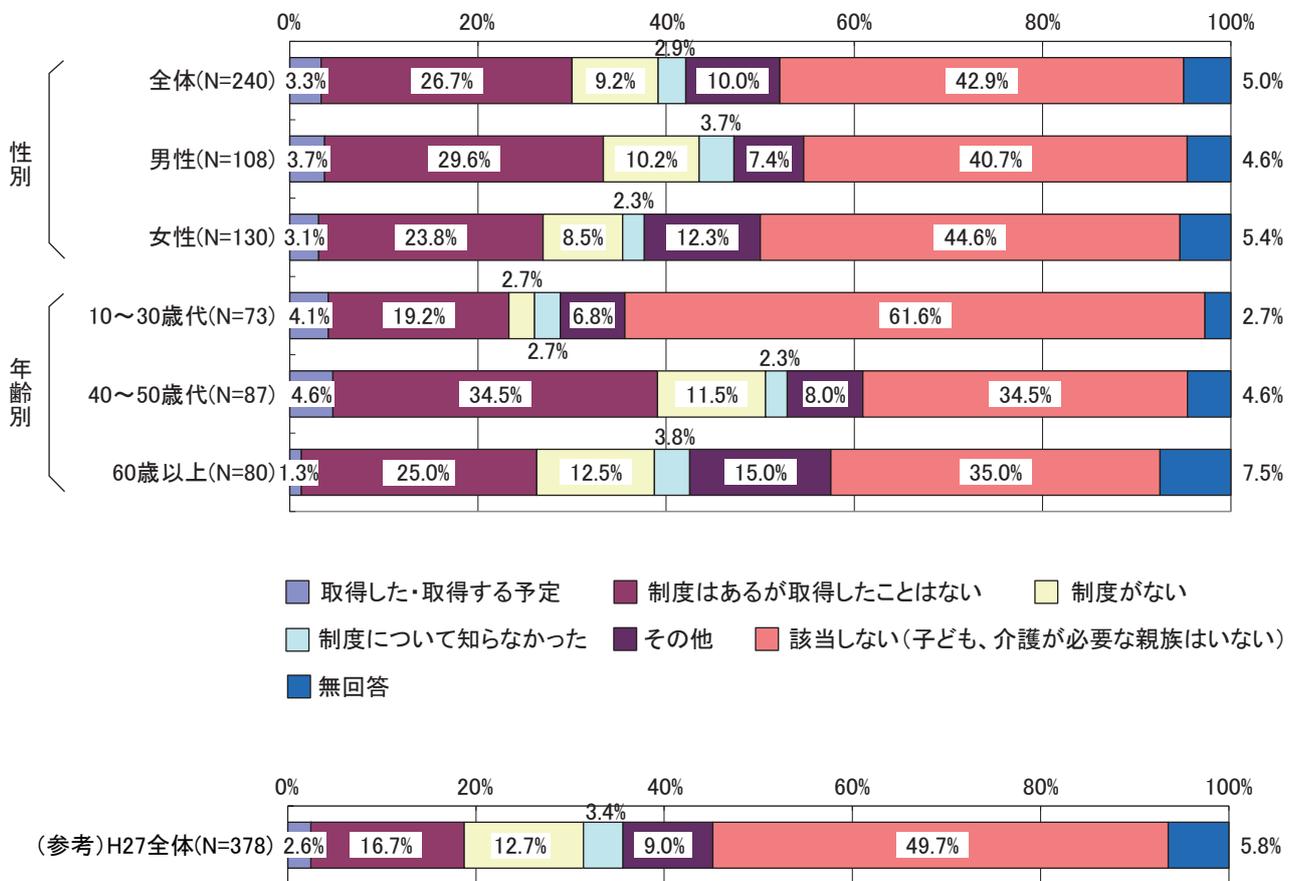


■ 取得した・取得する予定   
 ■ 制度はあるが取得したことはない   
 ■ 制度がない  
■ 制度について知らなかった   
 ■ その他   
 ■ 該当しない(子ども、介護が必要な親族はいない)  
■ 無回答



## 【イ 介護休業】

性別でみると、「該当しない」を除いて、男女ともに「制度はあるが取得したことはない」が最も高くなっており、男性が女性を5.8ポイント上回っています。「取得した・取得する予定」は、男性3.7%、女性3.1%と、男性が女性を0.6ポイント上回っています。



問 10 男性が育児休業・介護休業を取得することについて、あなたはどのように思いますか。

(○は各項目ごとに1つずつ)

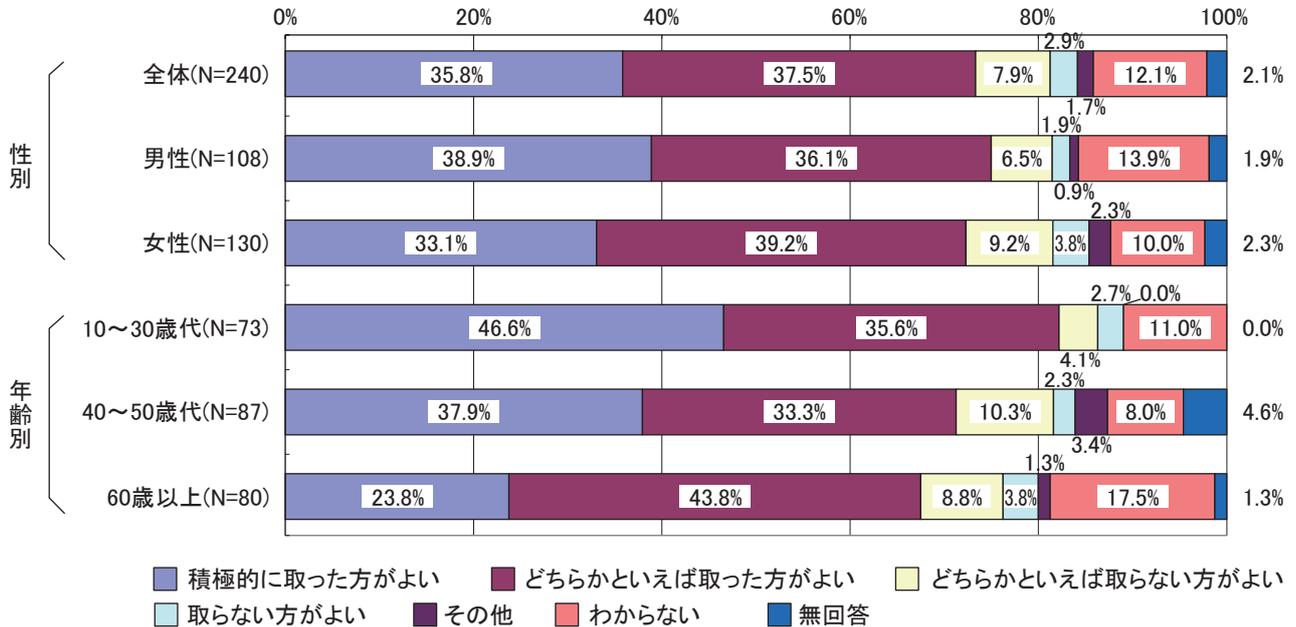
育児休業を取得することについては、全体では「どちらかといえば取った方がよい」が最も高く(37.5%)、「積極的に取った方がよい」と合わせると、『取った方がよい』は7割以上を占めています。

介護休業を取得することについても同様で、全体では「積極的に取った方がよい」が最も高く(40.4%)、「どちらかといえば取った方がよい」と合わせた『取った方がよい』が7割以上を占めています。

## 【ア 育児休業】

性別でみると、男性が「積極的に取った方がよい」が最も高く（38.9%）、女性は「どちらかといえば取った方がよい」（39.2%）が最も高くなっています。

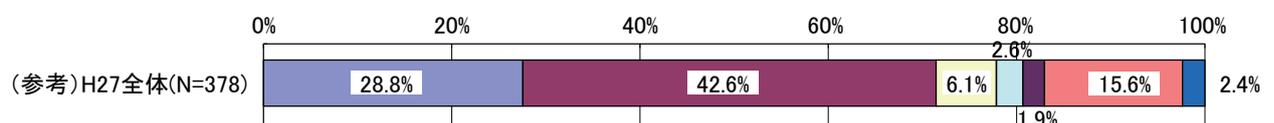
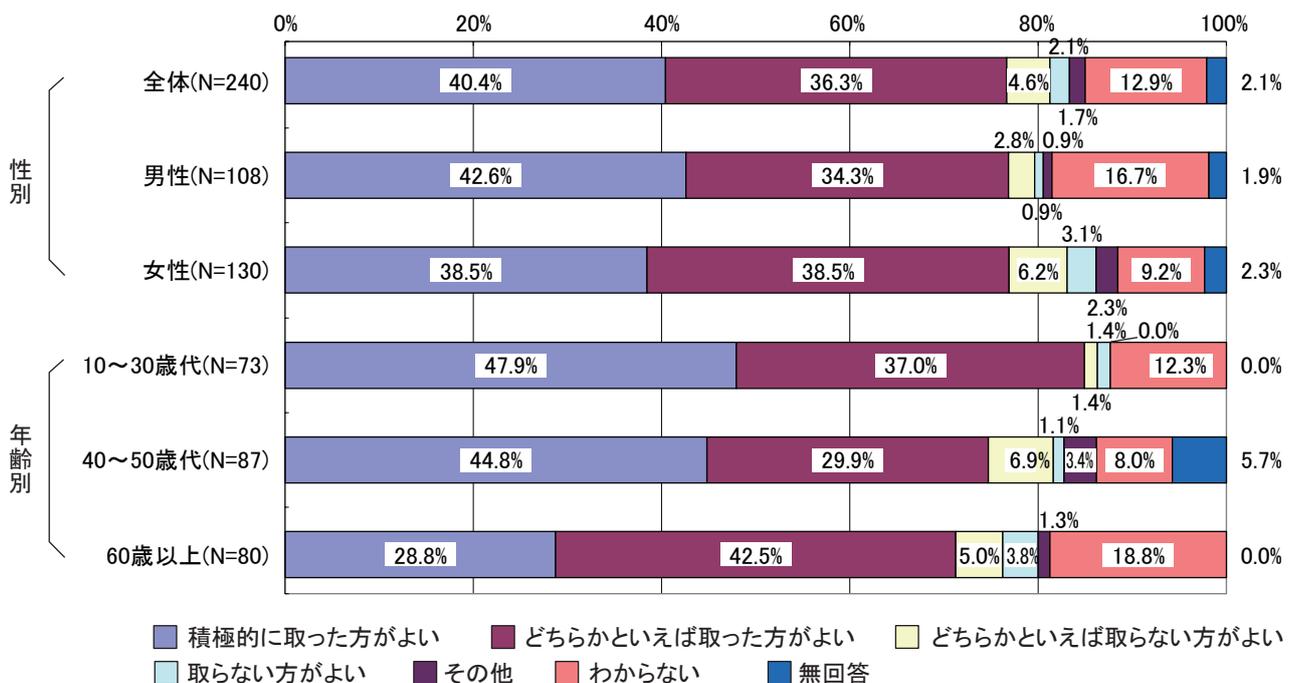
また、前回調査（H27）と比べると、『取った方がよい』は8.4ポイント増加しています。



## 【イ 介護休業】

性別でみると、男性が「積極的に取った方がよい」が最も高く（42.6%）、女性は「積極的に取った方がよい」と「どちらかといえば取った方がよい」が同率で（38.5%）が最も高くなっています。

また、前回調査（H27）と比べると、『取得した方がよい』は5.3ポイント増加しています。



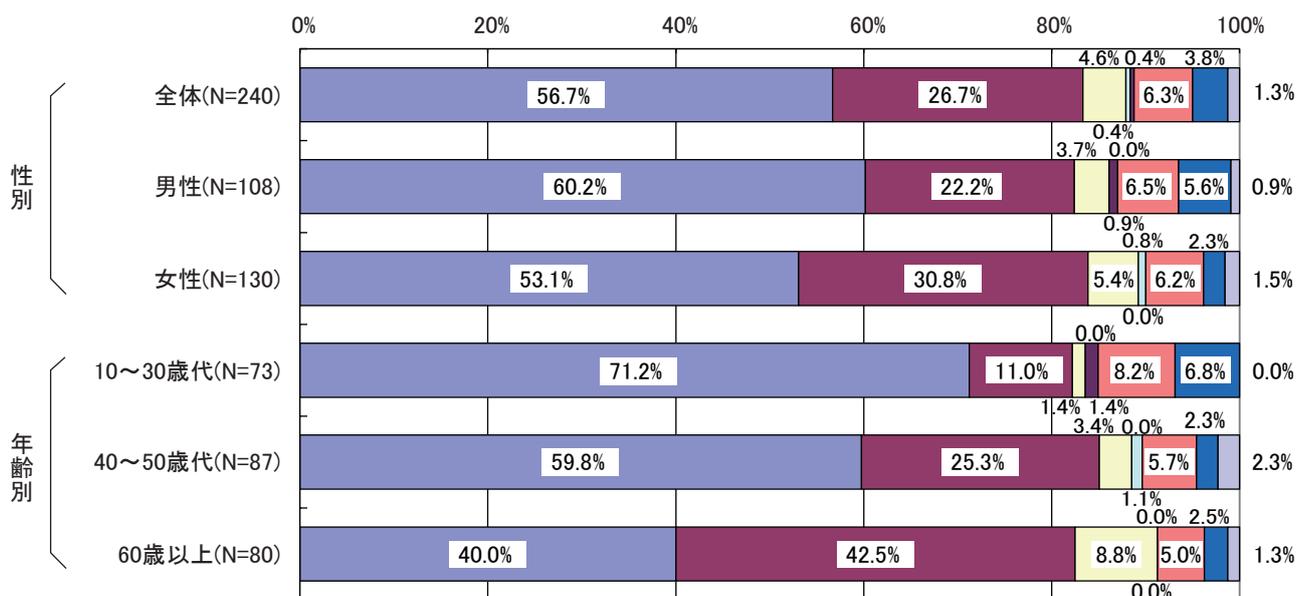
問 11 あなたは、一般的に女性が職業を持つことについて、どのようにお考えですか。

(○は1つ)

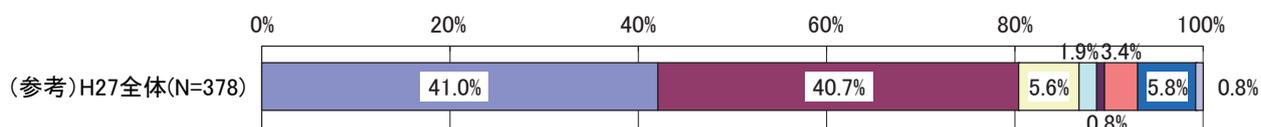
全体では、「子どもができてもずっと仕事を続けるほうがよい」が最も高く56.7%で、次いで「子どもができたなら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をした方がよい」が26.7%となっています。

また、性別で見ると、男女ともに、「子どもができてもずっと仕事を続けるほうがよい」が最も高く、男性が女性を7.1ポイント上回っています。

さらに、前回調査（H27）と比べると、「子どもができてもずっと仕事を続けるほうがよい」は15.7ポイント増加し、「子どもができたなら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をした方がよい」は14.0ポイント減少しています。



- 子どもができてもずっと仕事を続けるほうがよい
- 子どもができたなら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をした方がよい
- 子どもができるまでは仕事をするほうがよい
- 結婚するまでは仕事をするほうがよい
- 女性は仕事をしないほうがよい
- その他(具体的に)
- わからない
- 無回答



【その他】

- ・女性が仕事がしたいと考えるならしたらよい。
- ・個人の自由で選べば良いと思う。
- ・その人のとりまく環境が仕事できる環境にあるなら、仕事は持っていた方がよいと思う。
- ・人それぞれしたいようにできればよい。
- ・生涯成し遂げたい仕事のある人は続けるべきで、やりたいことのない人は家庭の経済力を考えて、仕事するかしないか決めるべきである。

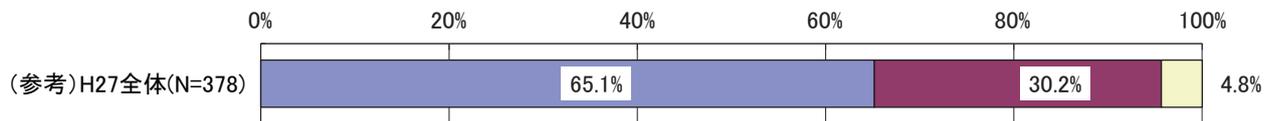
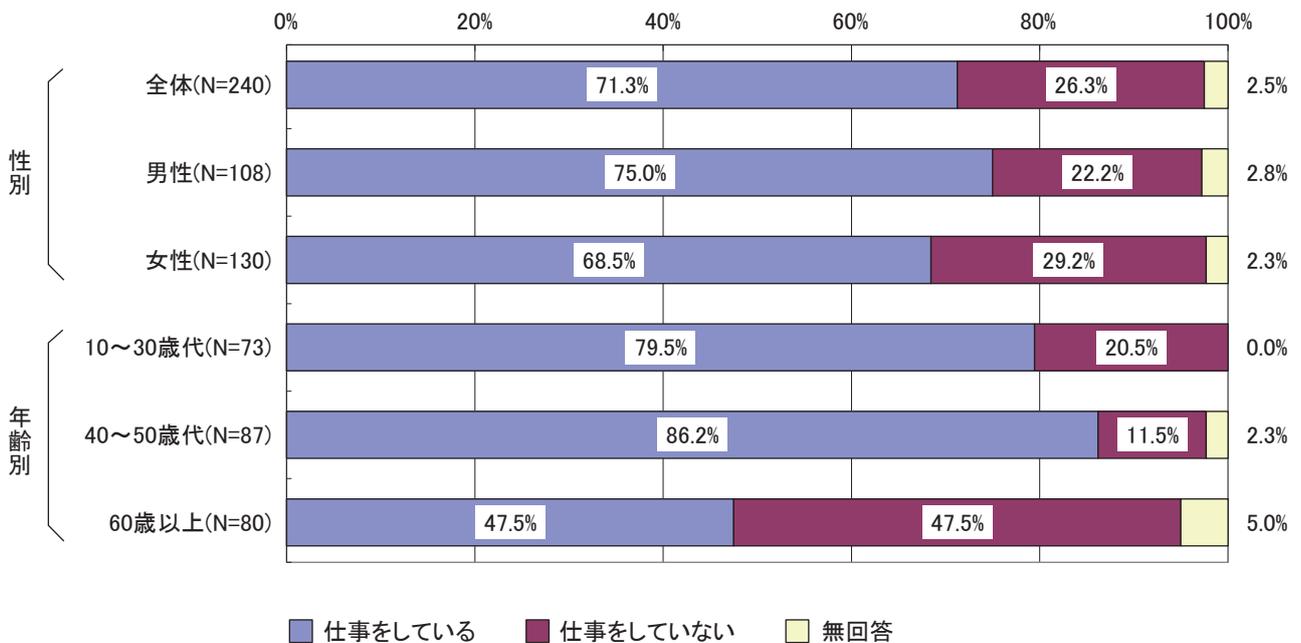
## 就労について

問 12 あなたは、現在仕事をしていますか。（パートや内職を含みます）

全体では、「仕事をしている」が71.3%で最も高くなっています。

また、性別で見ると、男女とも「仕事をしている」が大半を占めており（それぞれ75.0%、68.5%）、男性が女性を6.5ポイント上回っています。

また、前回の調査（H27）と比べると、「仕事をしている」は6.2ポイント増加しています。

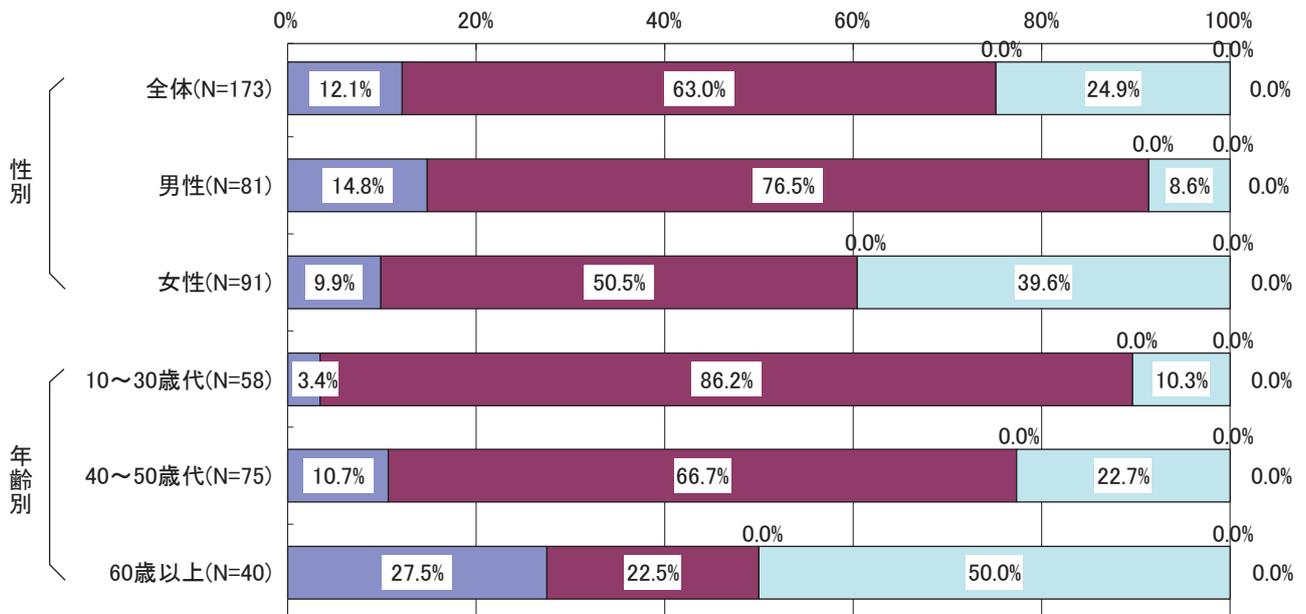


問 12 で「1 仕事をしている」と答えた方

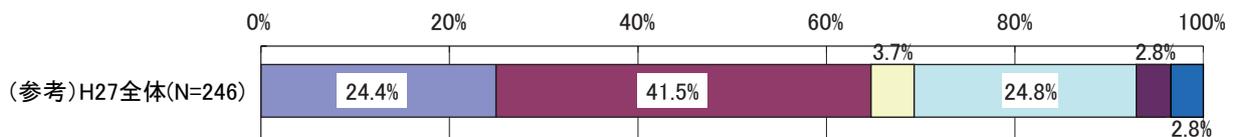
問 12 - 1 あなたの雇用形態は、次のどれにあたりますか。

全体では、「正社員・正職員」が最も高く（63.0%）、次いで、「パートタイム・アルバイト」（24.9%）、「自営業」（12.1%）となっています。

また、性別でみると、男女ともに「正社員・正職員」（76.5%、50.5%）で、男性が女性を26.0ポイント上回っています。



■ 自営業(商工・サービス業・農林漁業等)
 ■ 正社員・正職員
 ■ 派遣社員  
■ パートタイム・アルバイト(内職含む)
 ■ その他
 ■ 無回答

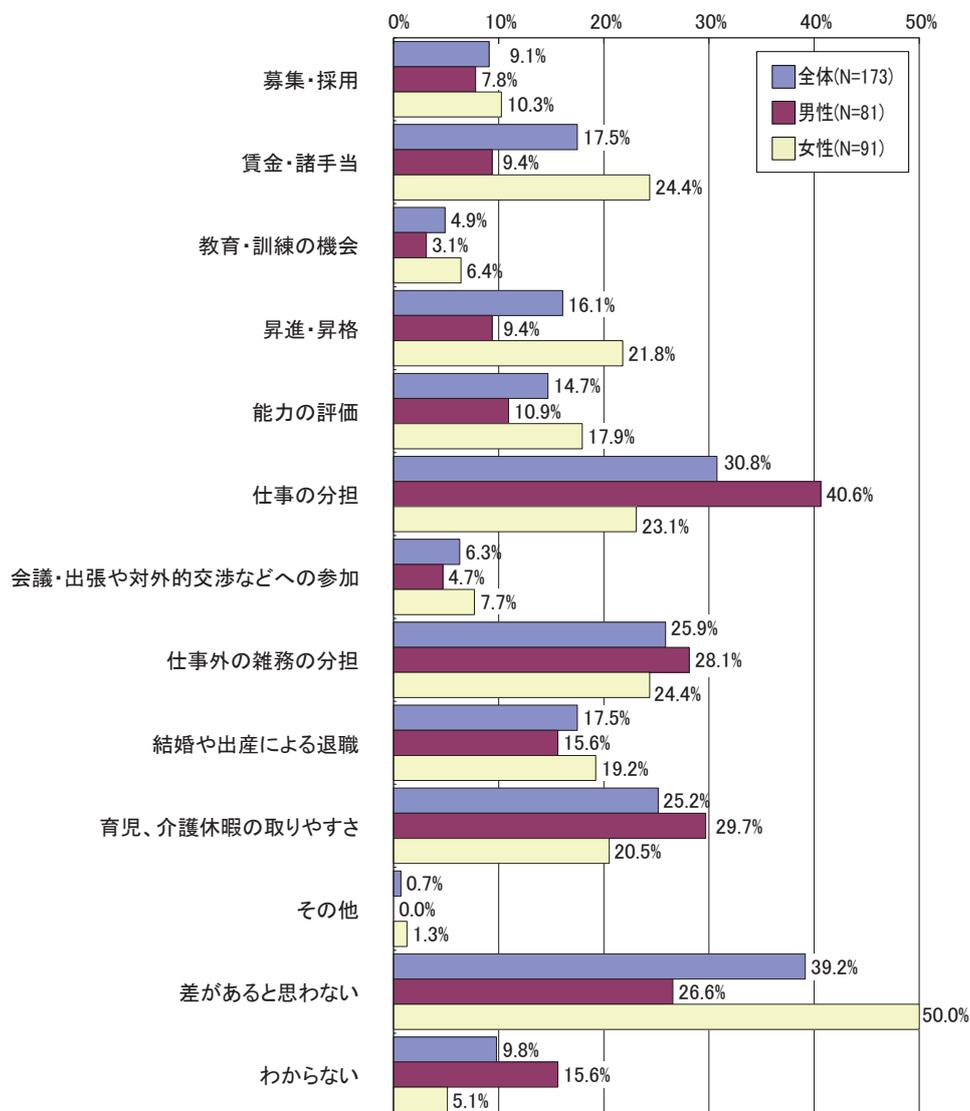


問12-1で「2 正社員・正職員」「3 派遣社員」「4 パートタイム・アルバイト（内職含む）」と答えた方

問12-2 あなたは現在の職場で、女性と男性の違いについて差があると思う点がありますか。（〇はいくつでも）

全体では、「差があると思わない」（39.2%）が最も高く、次いで「仕事の分担」（30.8%）、「仕事外の雑務の分担」（25.9%）となっています。

また、性別で見ると、男性は「仕事の分担」が最も高く（40.6%）、次いで、「育児、介護休暇の取りやすさ」（29.7%）と「仕事外の雑務の分担」（28.1%）となっています。一方、女性は、「差があると思わない」が最も高く（50.0%）、次いで、「賃金・諸手当」と「仕事外の雑務の分担」が同率で（24.4%）となっています。

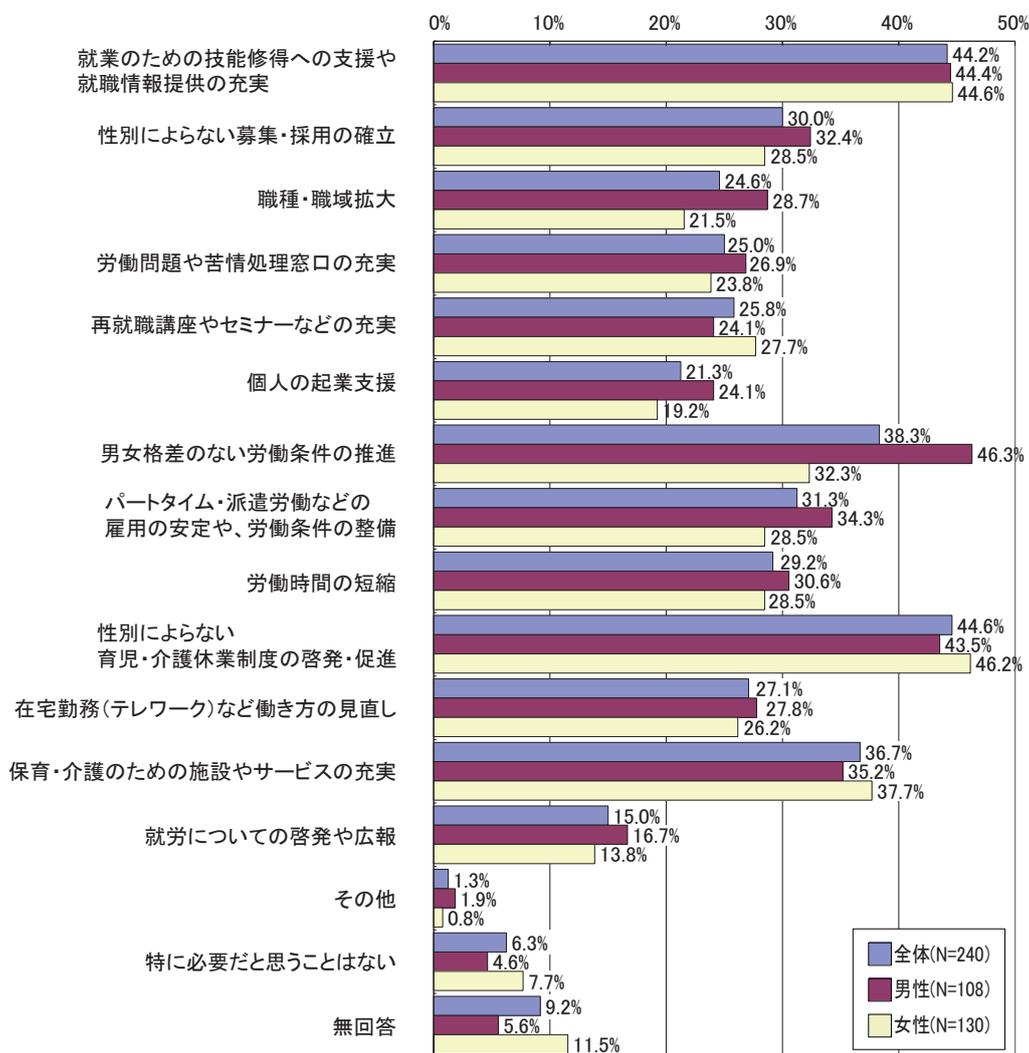


問 13 男女共同参画を推進するための、就労に対する企業や行政による支援としては、どのようなことが必要だと思いますか。男性に対する支援・女性に対する支援それぞれについて、○をつけてください。(○はいくつでも)

【男性に対する支援】

全体では、「性別によらない育児・介護休業制度の啓発・促進」が最も高く（44.6%）、次いで、「就業のための技能習得への支援や就職情報提供の充実」（44.2%）、「男女格差のない労働条件の推進」（38.3%）と続いています。

性別で見ると、男性は「男女格差のない労働条件の推進」が46.3%、女性は「性別によらない育児・介護休業制度の啓発・促進」が46.2%で高くなっています。



【その他】

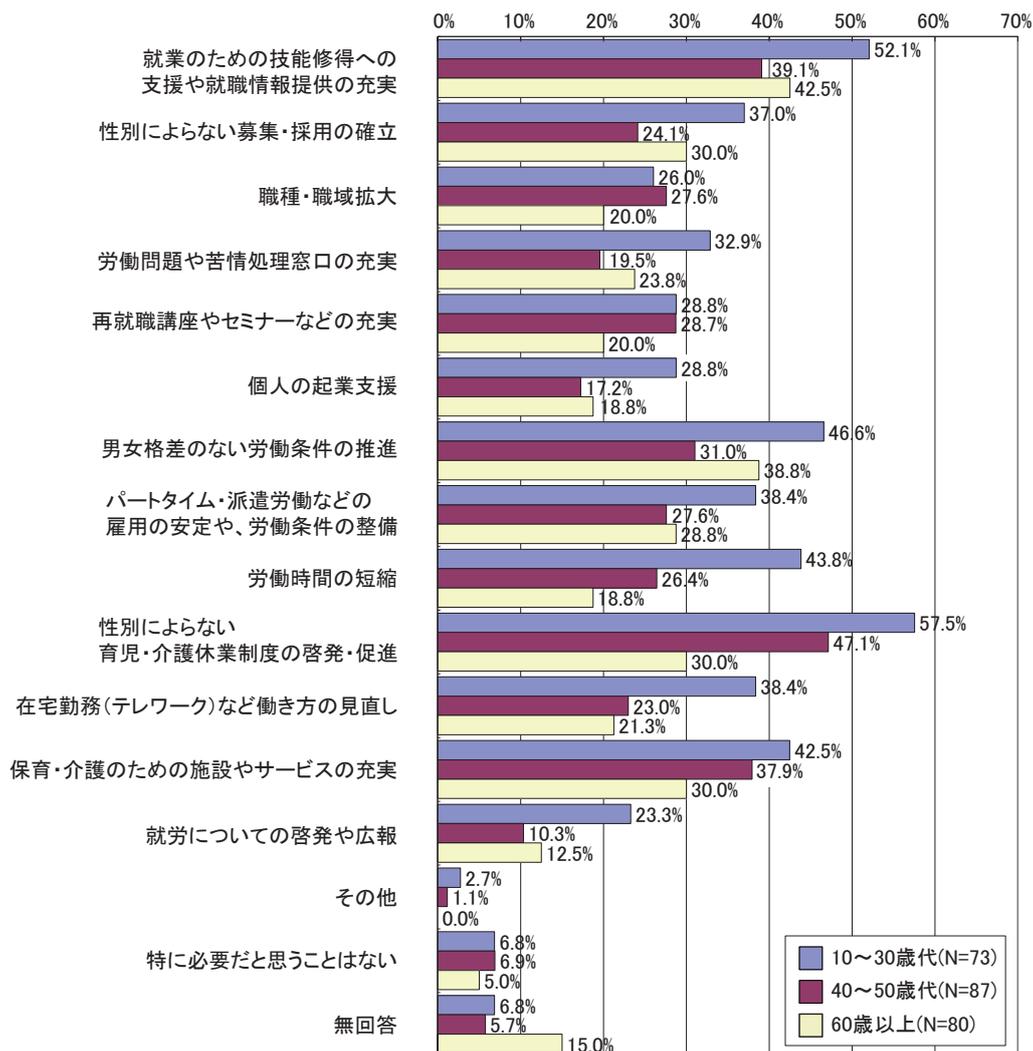
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、テレワーク・時差出勤等を推進する。

### 【男性に対する支援】 / 【年齢別】

年齢別でみると、10～30歳代は「性別によらない育児・介護休業制度の啓発・促進」が最も高く(57.5%)、次いで、「就業のための技能習得への支援や就職情報提供の充実」(52.1%)が高くなっています。

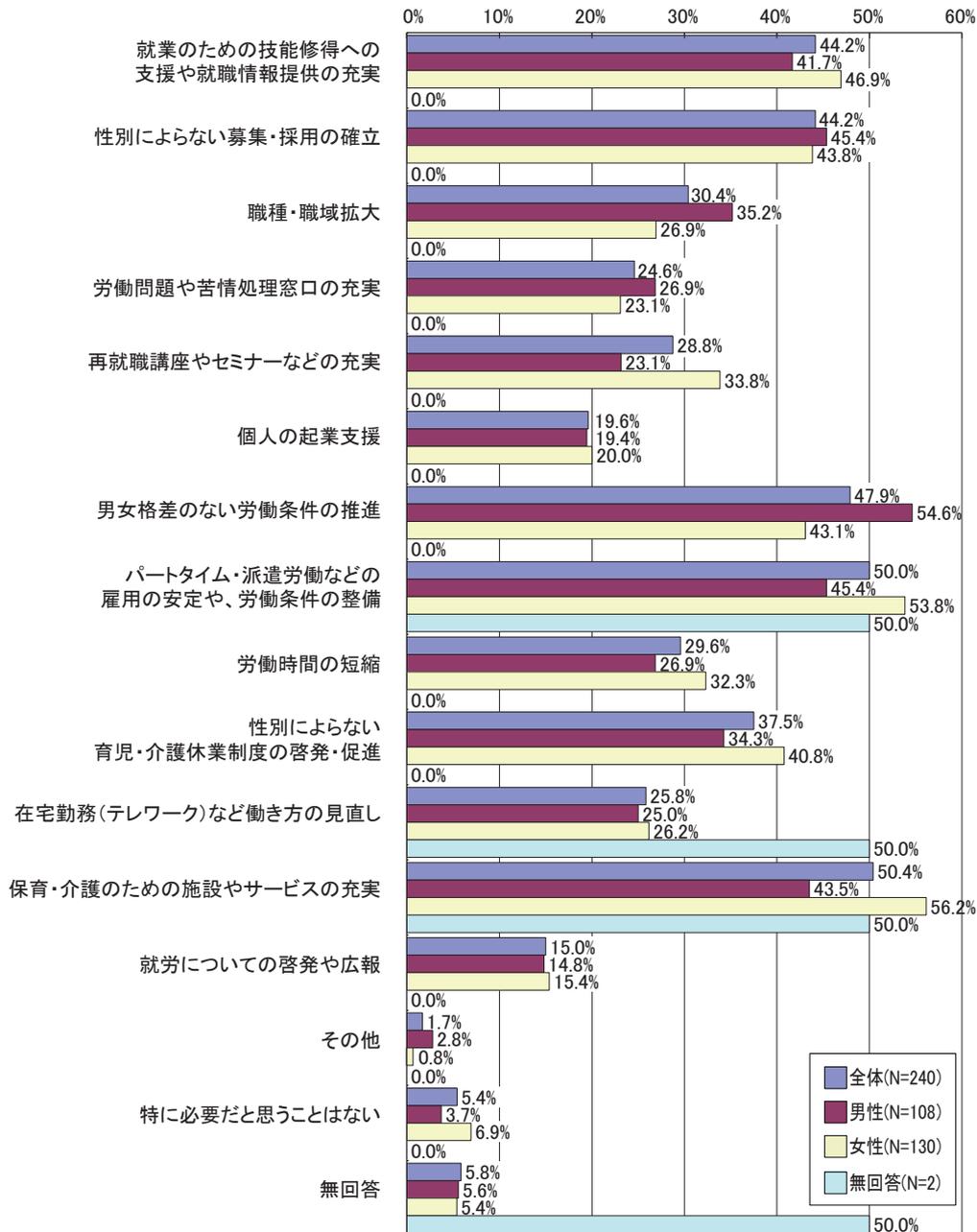
40～50歳代は「性別によらない育児・介護休業制度の啓発・促進」が最も高く(47.1%)、次いで、「就業のための技能習得への支援や就職情報提供の充」(39.1%)が高くなっています。

60歳以上は、「就業のための技能習得への支援や就職情報提供の充実」が最も高く(42.5%)、次いで、「男女格差のない労働条件の推進」(38.8%)の順となっています。



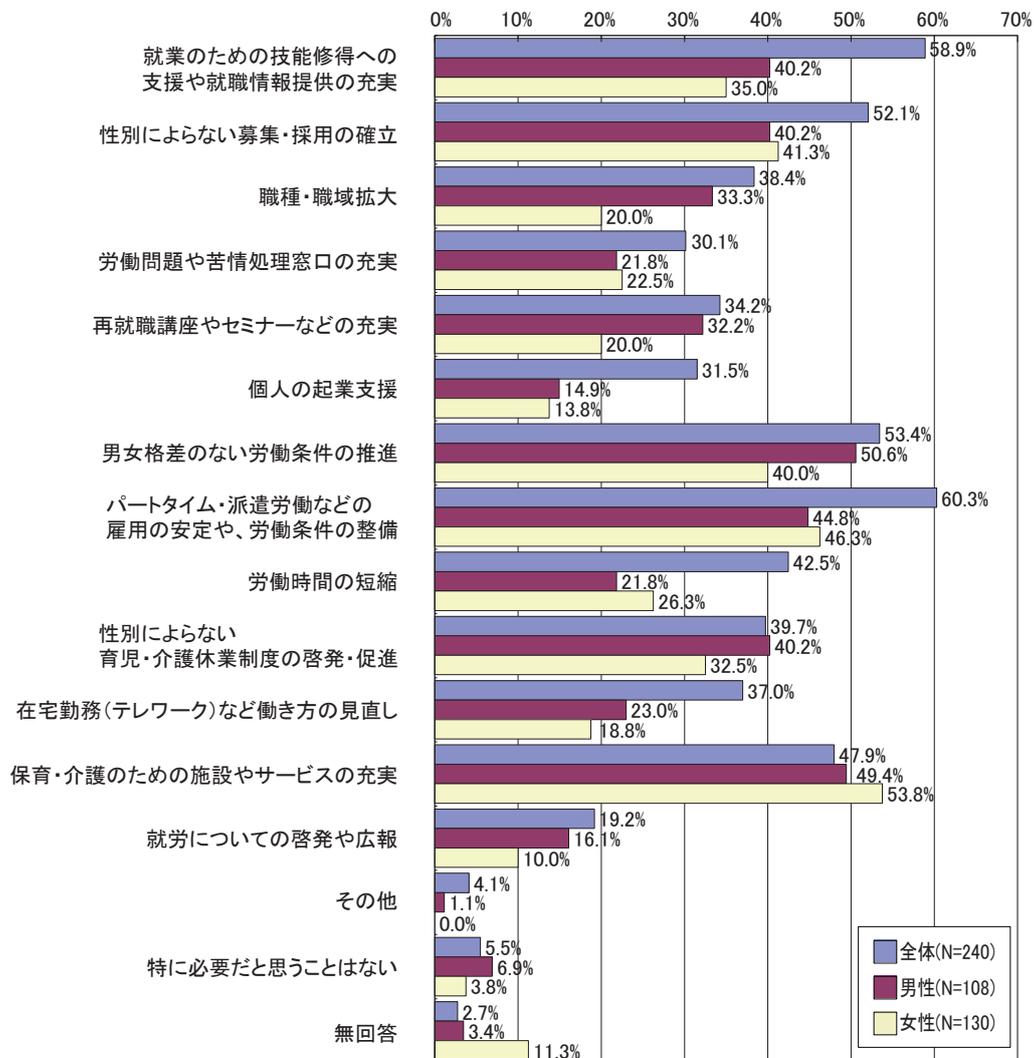
## 【女性に対する支援】

全体では、「保育・介護のための施設やサービスの充実」が最も高く（50.4%）、次いで、「パートタイム・派遣労働などの雇用の安定や、労働条件の整備」（50.0%）が高くなっています。性別で見ると、男性は「男女格差のない労働条件の推進」が54.6%、女性は、「保育・介護のための施設やサービスの充実」が56.2%で高くなっています。



## 【女性に対する支援】 / 【年齢別】

年齢別でみると、10～30歳代では「パートタイム・派遣労働などの雇用の安定や労働条件の整備」が60.3%で最も高く、40～50歳代では「男女格差のない労働条件の推進」が50.6%で最も高く、60歳以上は「保育・介護のための施設やサービスの充実」が53.8%で最も高くなっています。



## 地域・社会参加について

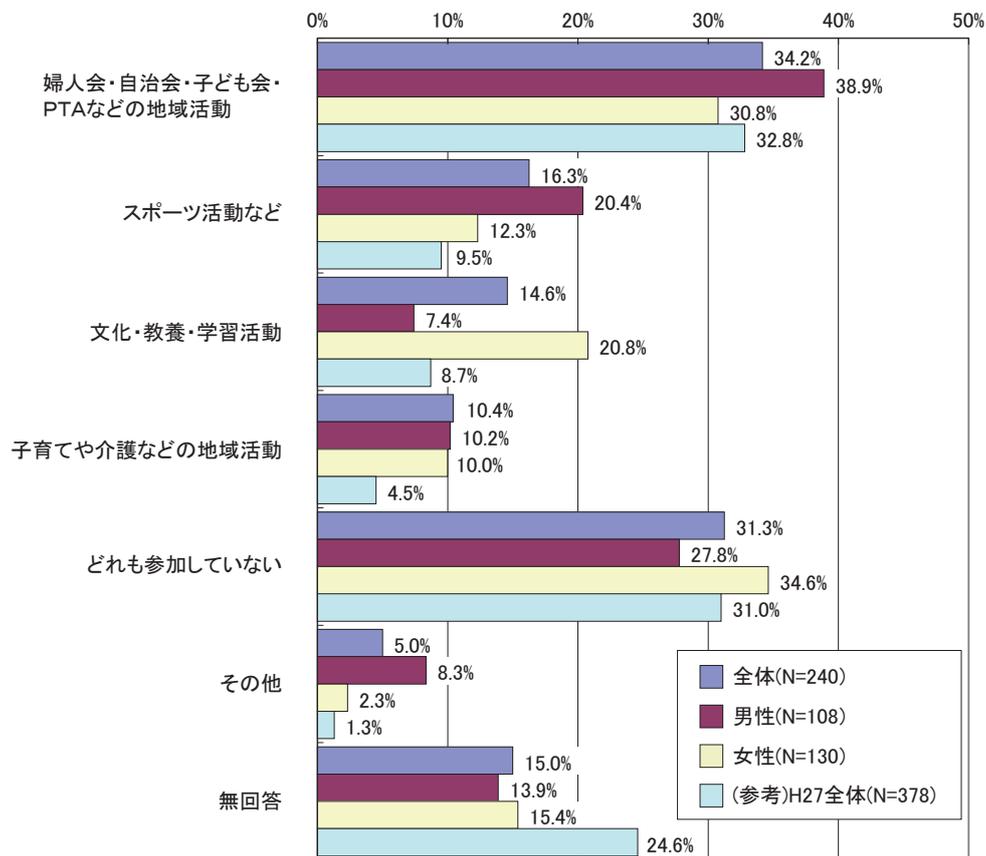
問 14 あなたが、「(1) 現在関わっている活動」「(2) これからやってみたい活動」をお答えください。  
(○は(1)、(2)の項目ごとにいくつでも)

### (1) 現在関わっている活動

全体では「婦人会・自治会・子ども会・PTAなどの地域活動」が最も高く(34.2%)、次いで、「どれも参加していない」(31.3%)、「スポーツ活動など」(16.3%)の順となっています。

性別で見ると、男性は「婦人会・自治会・子ども会・PTAなどの地域活動」が最も高く(38.9%)、一方、女性は「どれも参加していない」(34.6%)が最も高くなっています。

さらに、前回調査(H27)と比べると、全ての項目において増加しています。

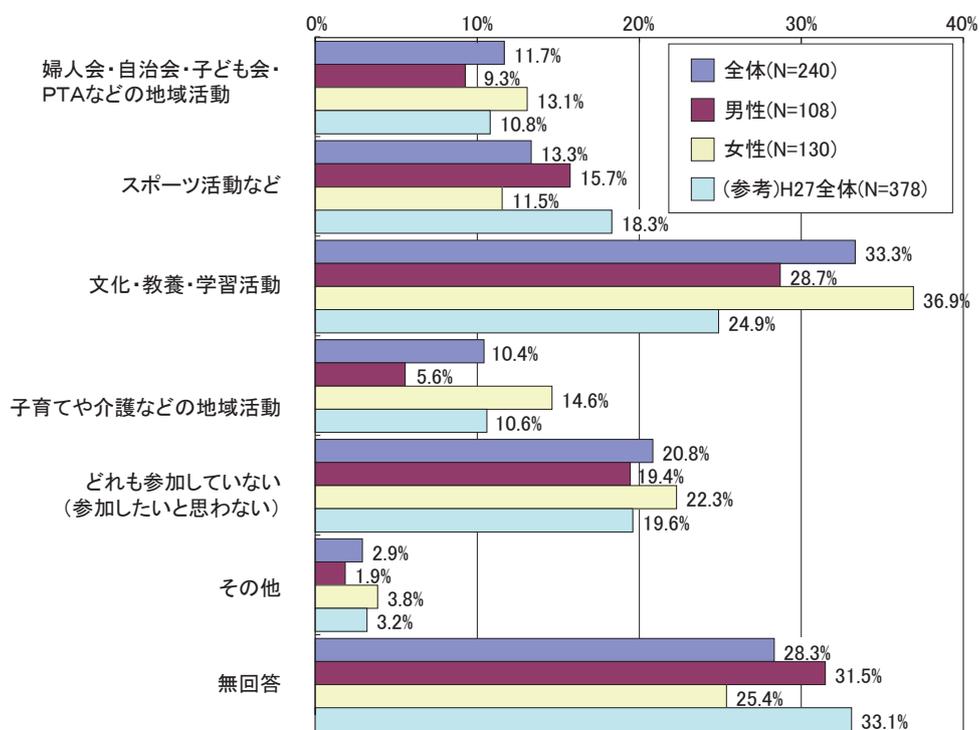


## (2) これからやってみたい活動

全体では、「文化・教養・学習活動」が最も高く（33.3%）、次いで、「どれも参加したいと思わない」（20.8%）となっています。

また、性別で見ると、男女とも、「文化・教養・学習活動」が最も高く（それぞれ28.7%、36.9%）なっています。

さらに、前回調査（H27）と比べると、「婦人会・自治会・子ども会・PTAなどの地域活動」、「文化・教養・学習活動」、「どれも参加していない（参加したいと思わない）」が増加しています。



問 15 地域活動において女性が代表者になることについてどのようにお考えですか。

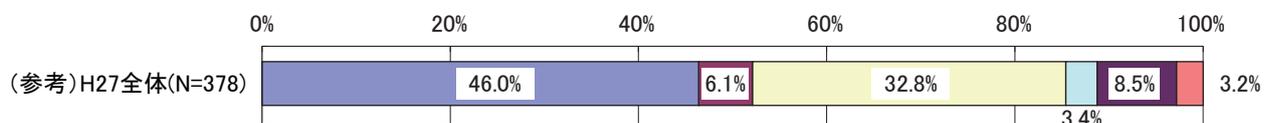
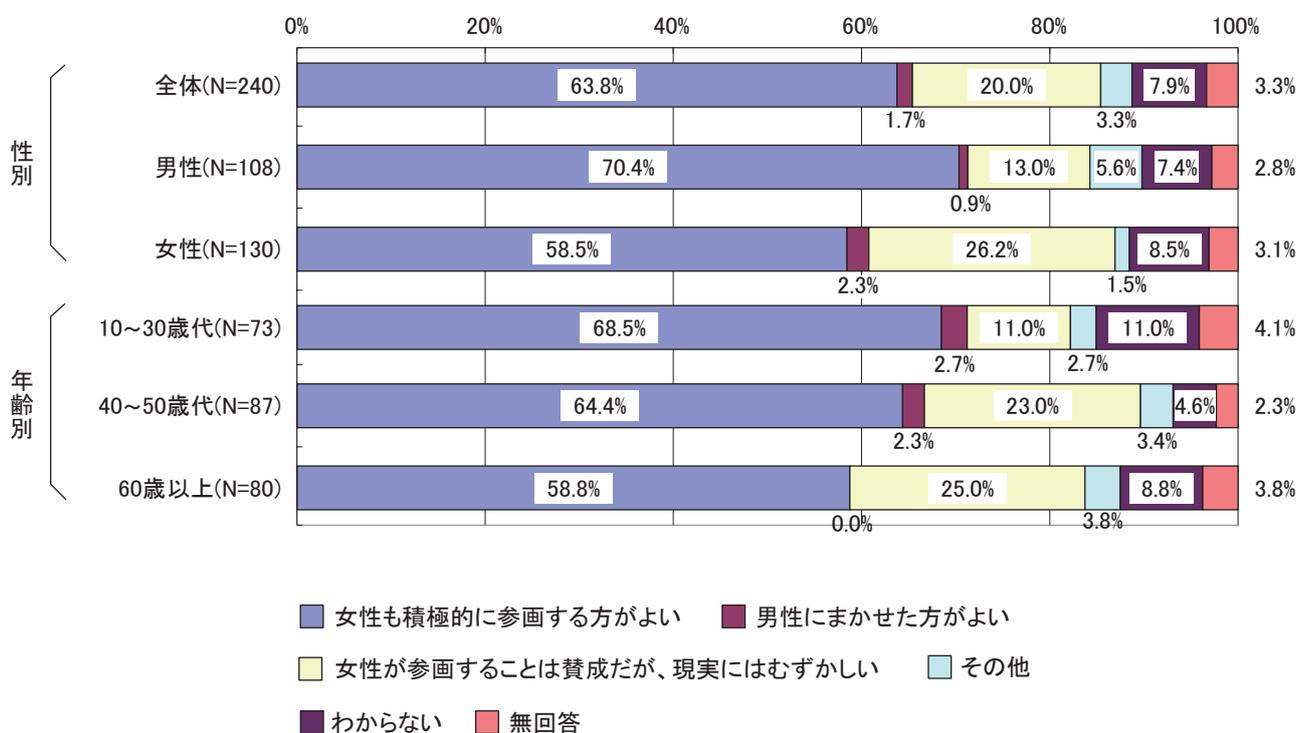
(〇は1つ)

全体では、「女性も積極的に参画する方がよい」が最も高く(63.8%)、次いで、「女性が参画することは賛成だが、現実にはむずかしい」(20.0%)となっています。

また、性別でみると、男女ともに「女性も積極的に参画する方がよい」が最も高く(70.4%、58.5%)、となっています。

年齢別でみると、どの年齢とも「女性も積極的に参画する方がよい」が最も高く、10～30歳代で最も高く(68.5%)なっています。

さらに、前回調査(H27)と比べると、とくに「女性も積極的に参画する方がよい」は17.8ポイント増加し、「女性が参画することは賛成だが、現実にはむずかしい」は12.8ポイント減少しています。



【その他】

- ・代表者になりたい女性がいればなってもらいたいと思う。なりたくないのに無理強いするのは良くないと思う。
- ・代表者にふさわしい人なら男女どちらでも良い。
- ・代表者になりたい女性が少ないと思う。
- ・何事にも平等な考えを持つ方なら男女問わず。
- ・議員の30%は必ず女性等の法制度が必要と思う。

## 妊娠・出産について

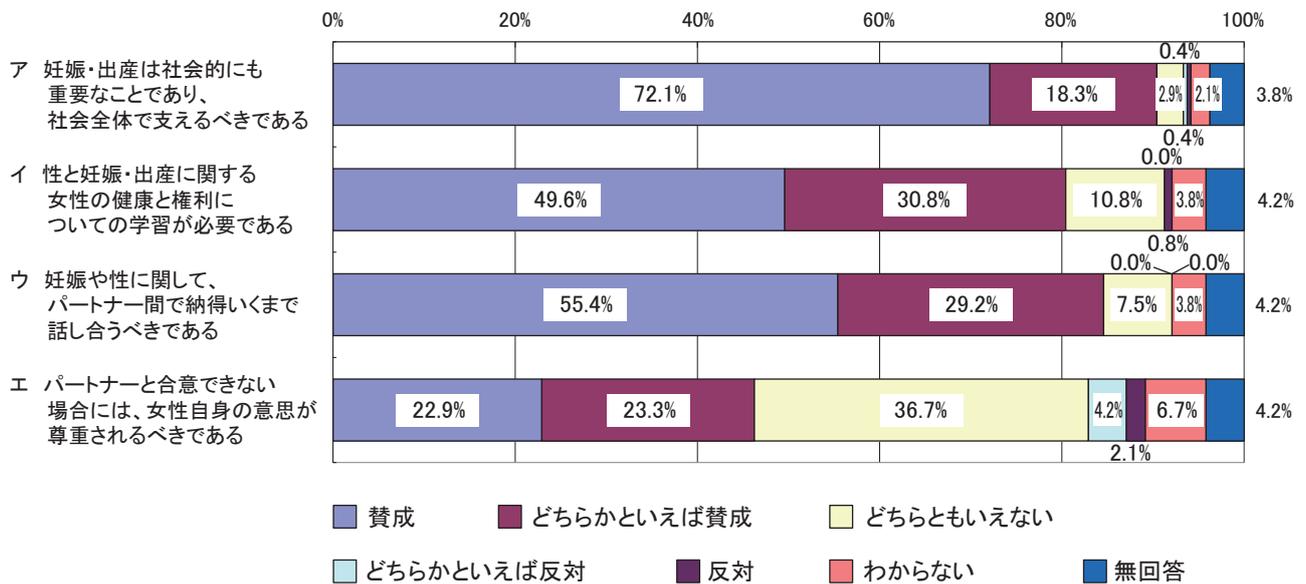
問 16 妊娠・出産を担う女性は、男性と異なった体や心の問題に直面することがあります。男女が生涯にわたり心身ともに健康であるために、あなたは次のア～エについてどう思いますか。

(○は各項目ごとに1つずつ)

「ア 妊娠・出産は社会的にも重要なことであり、社会全体で支えるべきである」について、「賛成」が最も高く(72.1%)、「どちらかといえば賛成」と合わせると、『賛成』は9割を占めています。

次いで、「イ 性と妊娠・出産に関する女性の健康と権利についての学習が必要である」と「ウ 妊娠や性に関して、パートナー間で納得いくまで話し合うべきである」については、『賛成』が8割を占めています。

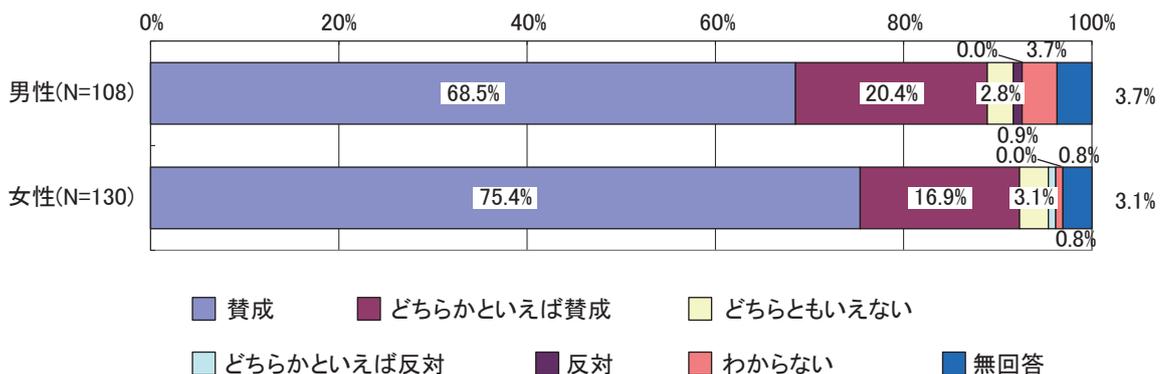
「エ パートナーと合意できない場合には、女性自身の意思が尊重されるべきである」は、『賛成』(46.2%)がア～ウに比べて低く、「どちらともいえない」(36.7%)が高くなっています。



### 【男女別】

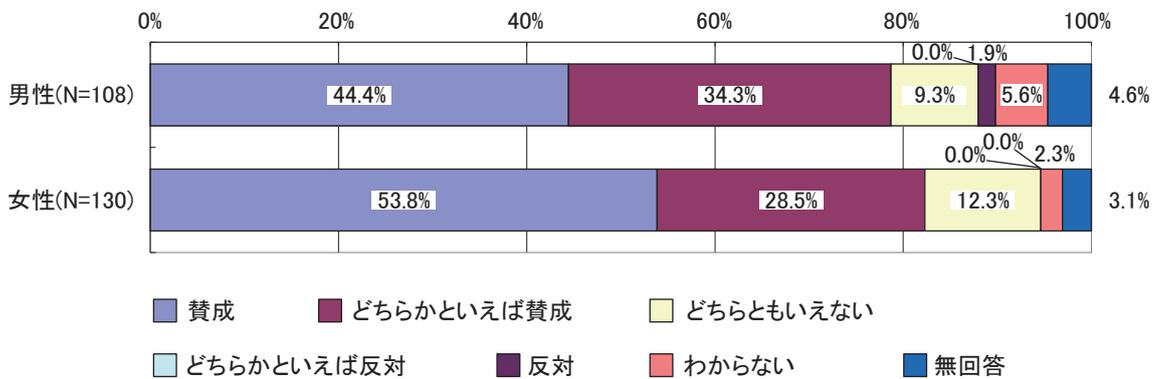
#### 【ア 妊娠・出産は社会的にも重要なことであり、社会全体で支えるべきである】

男女ともに「賛成」が最も高く(それぞれ68.5%、75.4%)、「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』が9割を占めています。



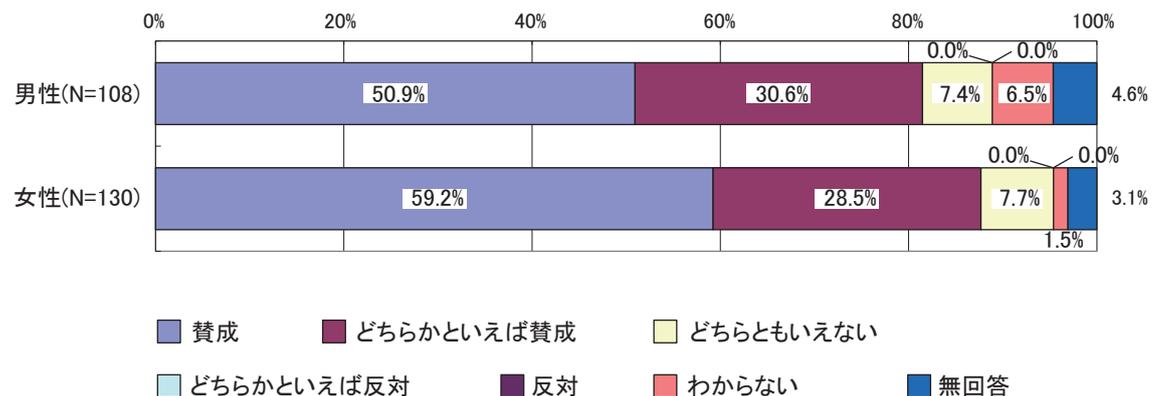
**【イ 性と妊娠・出産に関する女性の健康と権利についての学習が必要である】**

男女ともに「賛成」が最も高く（それぞれ 44.4%、53.8%）、「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』が8割を占めています。



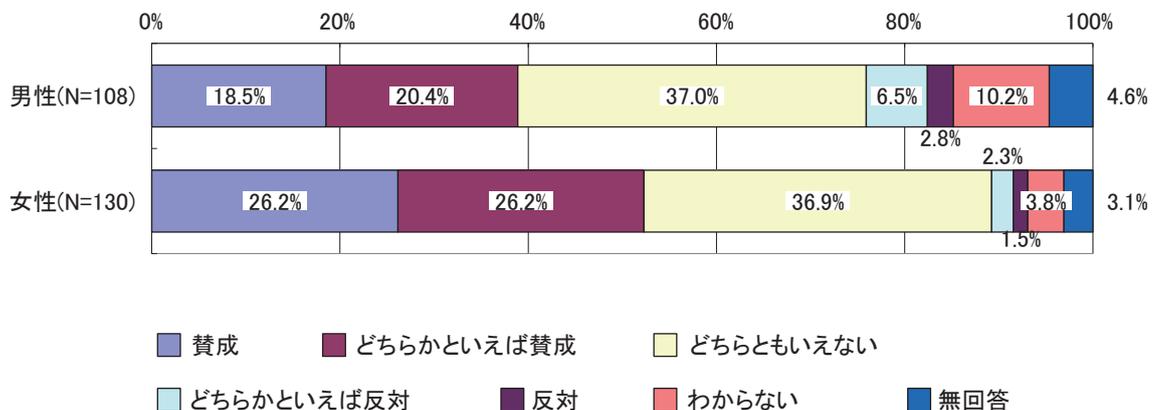
**【ウ 妊娠や性に関して、パートナー間で納得いくまで話し合うべきである】**

男女ともに「賛成」が最も高く（それぞれ 50.9%、59.2%）、「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』が8割を占めています。



**【エ パートナーと合意できない場合には、女性自身の意思が尊重されるべきである】**

男女ともに、「どちらともいえない」が最も高く（それぞれ 37.0%、36.9%）、「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』が（それぞれ 38.9%、52.4%）となっています。

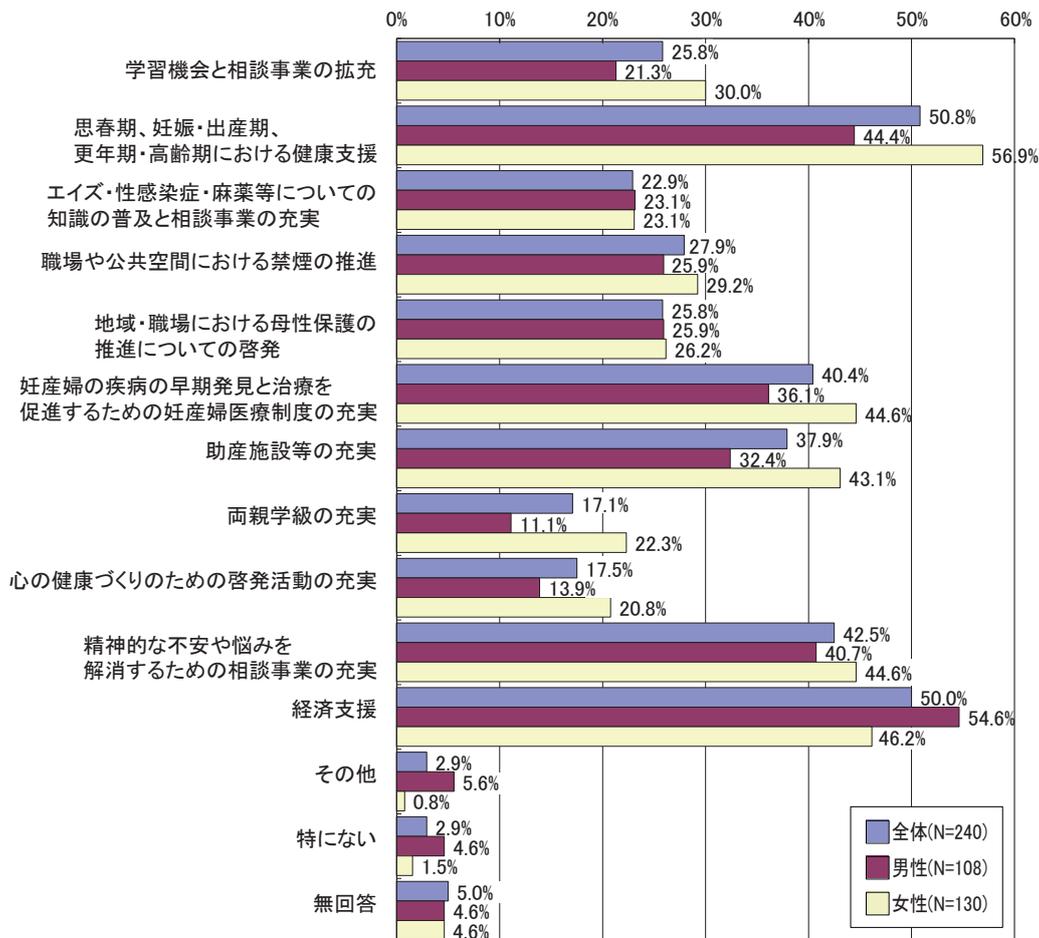


問 17 妊娠、出産のために、どのような支援を望みますか。

(○はいくつでも)

全体では、「思春期、妊娠・出産期、更年期・高齢期における健康支援」が最も高く（50.8%）、次いで、「経済支援」（50.0%）、「精神的な不安や悩みを解消するための相談事業の充実」（42.5%）、「妊産婦の疾病の早期発見と治療を促進するための妊産婦医療制度の充実」（40.4%）の順となっています。

性別で見ると、男性は「経済支援」が最も高く（54.6%）、女性は「思春期、妊娠・出産期、更年期・高齢期における健康支援」が最も高く（56.9%）となっています。



【その他】

- ・自分にとって、東かがわ市で出産するのがプラスだと思える積極的な啓発をしては。
- ・現在、産婦人科が遠く妊娠時に通うのがかなり大変であった。タクシー券やバスなどが使えるとありがたいと思った。
- ・望まない出産によって不幸になる子どもをつくらないう、子どもの幸せを1番に考えてほしい。
- ・出産しても子どもを遊ばせる所が少なすぎる。
- ・男性・女性の育休・産休に対する支援。（退職を伴わないようにする）

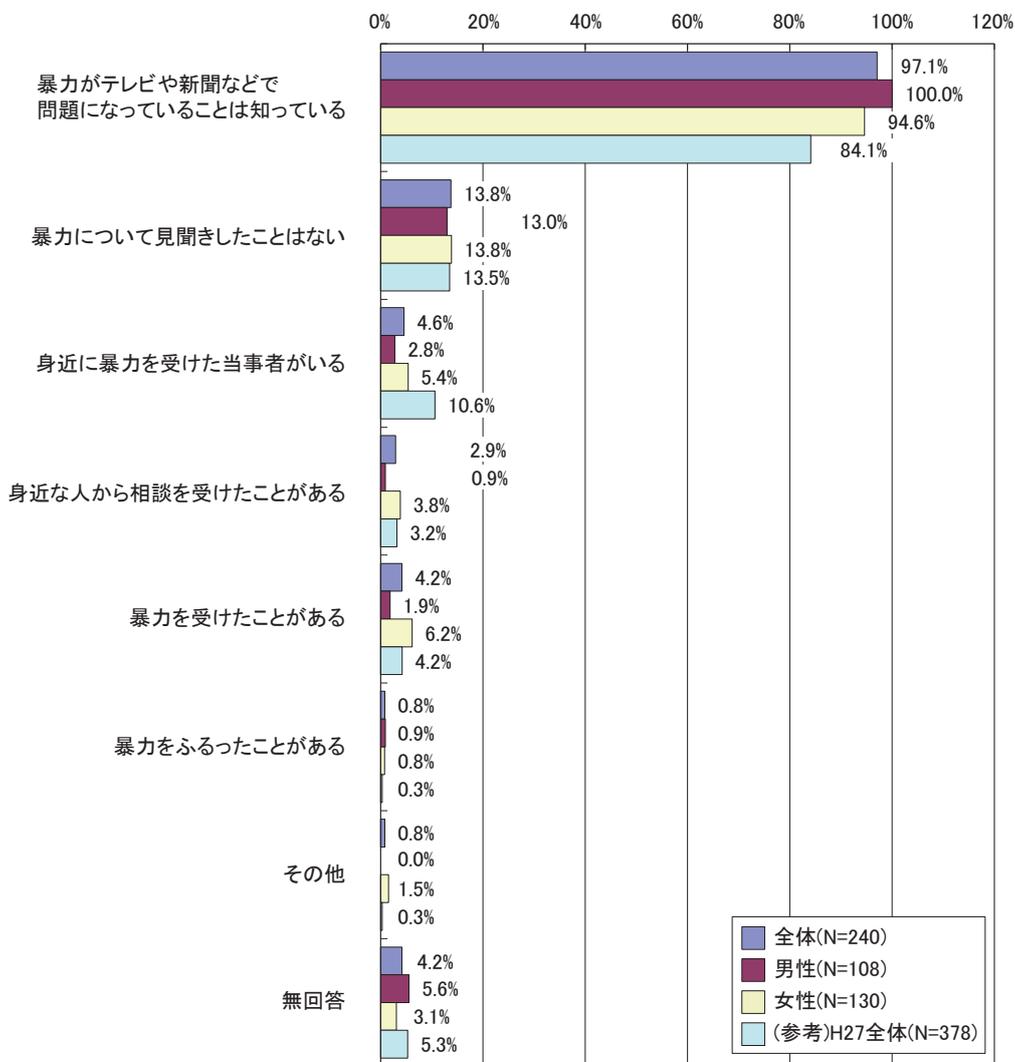
## 男女間の暴力について

問 18 夫婦・恋人同士などの親しい間で、身体的・心理的な暴力を受けること（ドメスティック・バイオレンス＝DV）が問題視されていますが、あなたはドメスティック・バイオレンスを経験したり、身近で見聞きしたことがありますか。（〇はいくつでも）

全体では、「暴力がテレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が最も高く（97.1%）、次いで、「暴力について見聞きしたことはない」（13.8%）となっています。

性別でみると、男女とも「暴力がテレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が最も高く（それぞれ 100.0%、94.6%）、次いで、「暴力について見聞きしたことはない」（それぞれ 13.0%、13.8%）となっています。

さらに、前回調査（H27）と比べると、「暴力がテレビや新聞などで問題になっていることは知っている」は 13.0 ポイント増加し、「身近に暴力を受けた当事者がいる」は、6.0 ポイント減少しています。



### 【その他】

- 全く暴力のない関係性はないと思う。けんかをすれば心理的暴力は伴う。

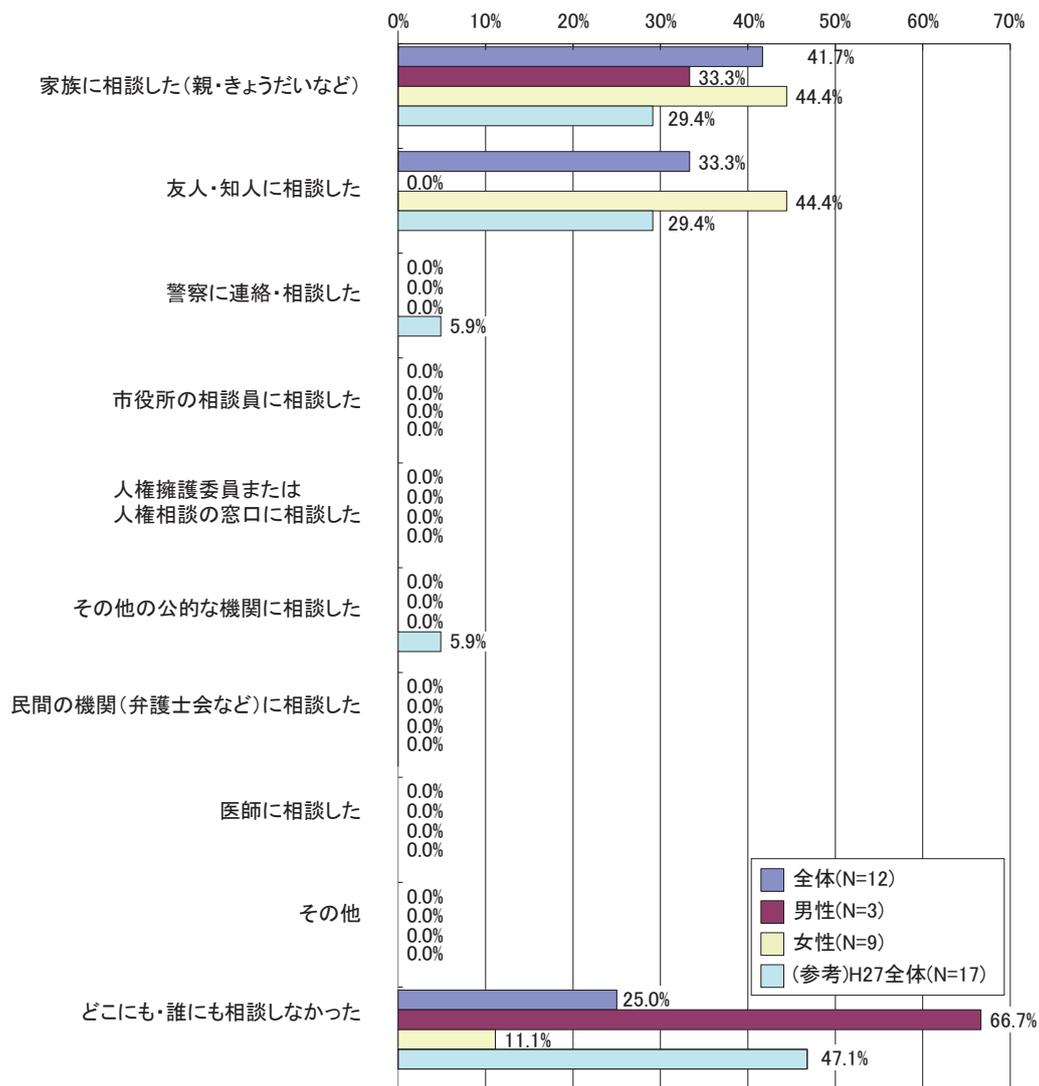
問 18 で「5 暴力を受けたことがある」「6 暴力をふるったことがある」と答えた方

問 18 - 1 あなたはその時、誰に相談しましたか。

(○はいくつでも)

全体では、「家族に相談した(親・きょうだいなど)」が最も高く(41.7%)、次いで、「友人・知人に相談した」(33.3%)となっています。

また、前回の調査(H27)と比べると、「家族に相談した(親・きょうだいなど)」、「友人・知人に相談した」は増加しています。

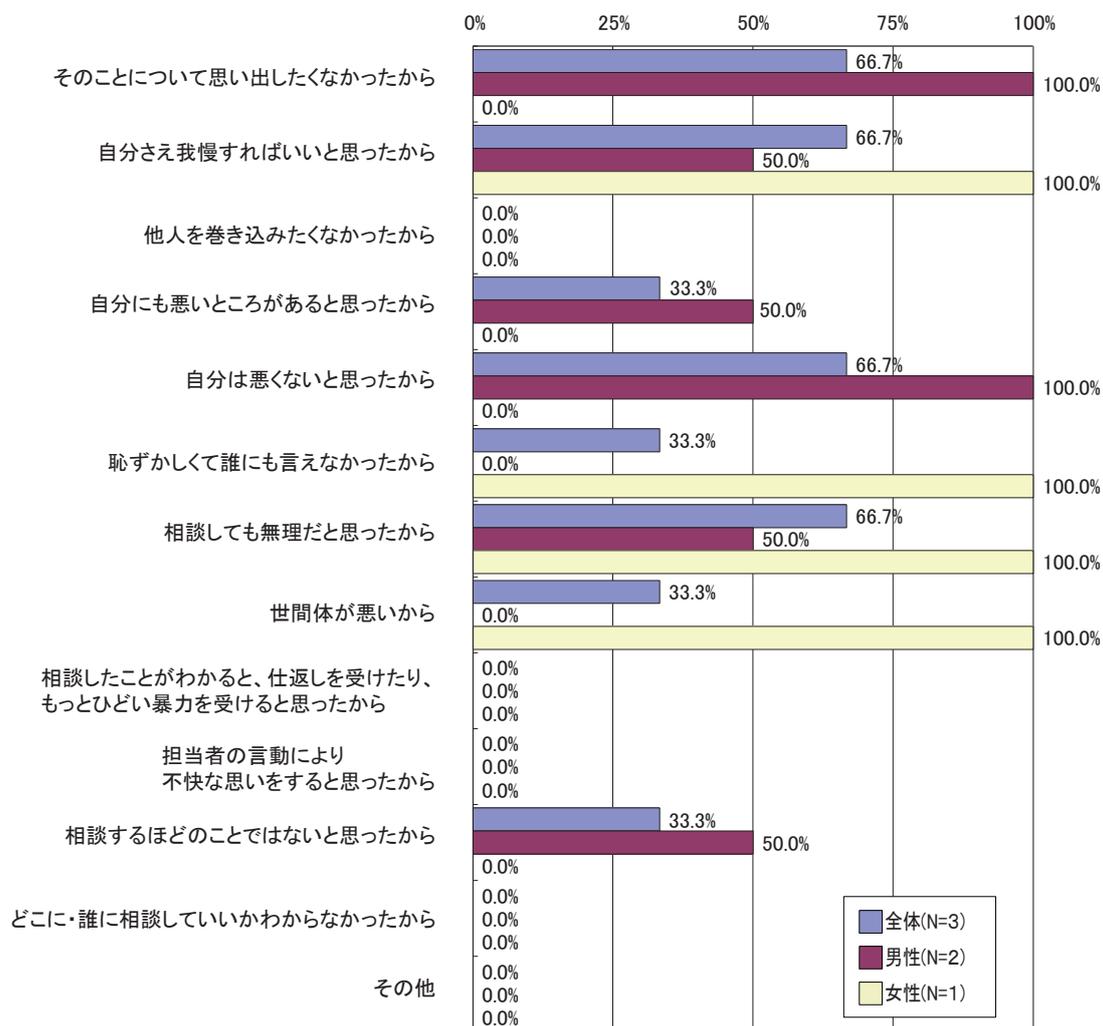


問 18 - 1 で「10 どこにも・誰にも相談しなかった」と答えた方

問 18 - 2 どこにも・誰にも相談しなかったのは、どのような理由からですか。

(〇はいくつでも)

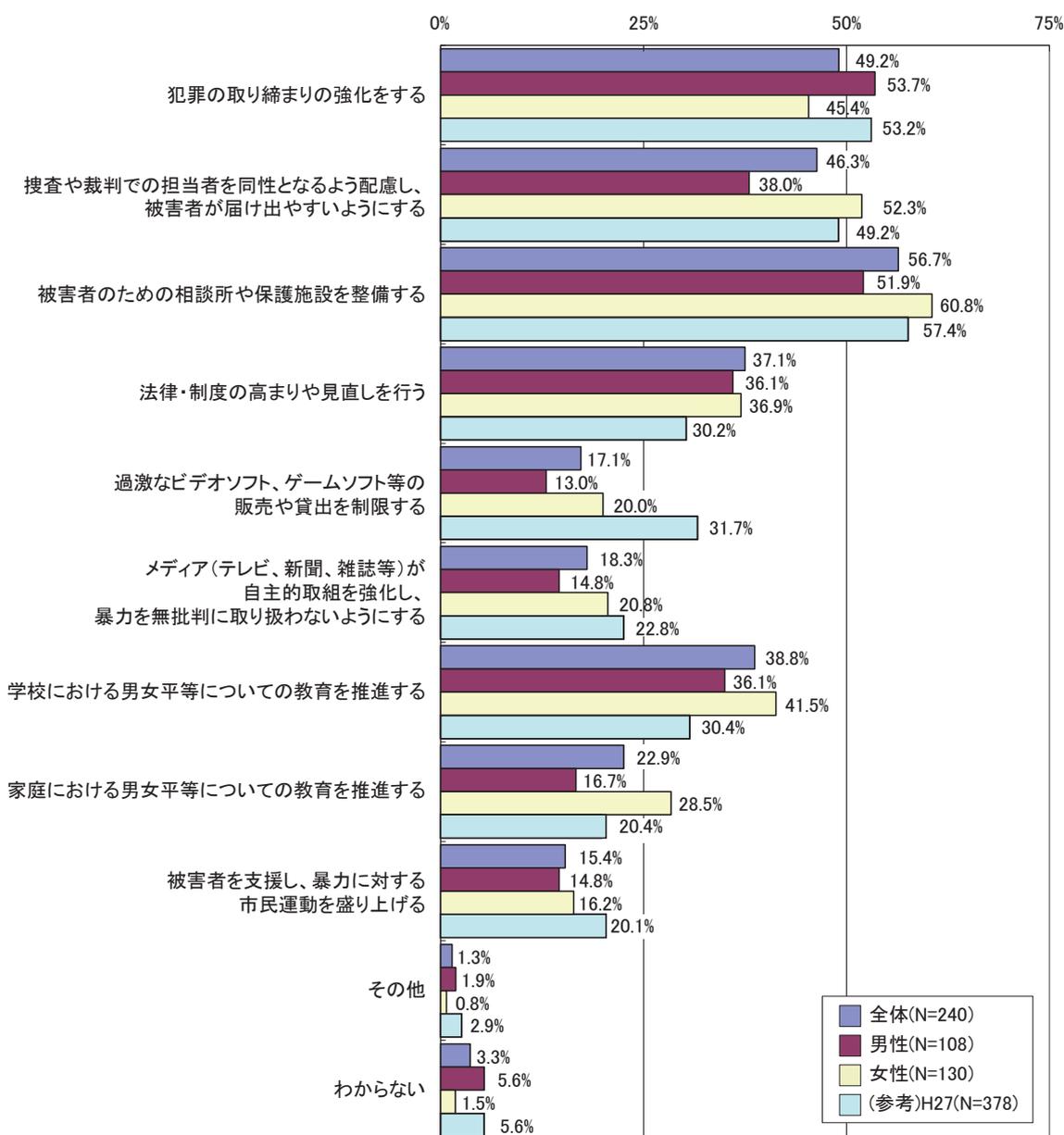
全体では、「そのことについて思い出したくなかったから」、「自分さえ我慢すればいいと思ったから」、「自分は悪くないと思ったから」、「相談しても無理だと思ったから」が最も高く（ともに 66.7%）、次いで、「自分にも悪いところがあると思ったから」、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」、「世間体が悪いから」、「相談するほどのことではないと思ったから」（ともに 33.3%）となっています。



問 19 性犯罪、売買春、ドメスティック・バイオレンス、セクシュアルハラスメントなど、暴力をなくすためには、どのようにしたらよいと思いますか。(〇はいくつでも)

全体では、「被害者のための相談所や保護施設を整備する」が最も高く（56.7%）、次いで、「犯罪の取り締まりの強化をする」（49.2%）、「捜査や裁判での担当者を同性となるよう配慮し、被害者が届けやすいようにする」（46.3%）の順となっています。

また、性別でみると、男性は「犯罪の取り締まりの強化をする」が最も高く（53.7%）、次いで、「被害者のための相談所や保護施設を整備する」（51.9%）となっています。一方、女性は「被害者のための相談所や保護施設を整備する」が最も高く（60.8%）、次いで、「捜査や裁判での担当者を同性となるよう配慮し、被害者が届けやすいようにする」（52.3%）となっています。



【その他】

- ・加害者を減らす方法を考える。加害者になる前に相談ができる場を作るなど。
- ・被害者だけでなく、加害者支援も必要。

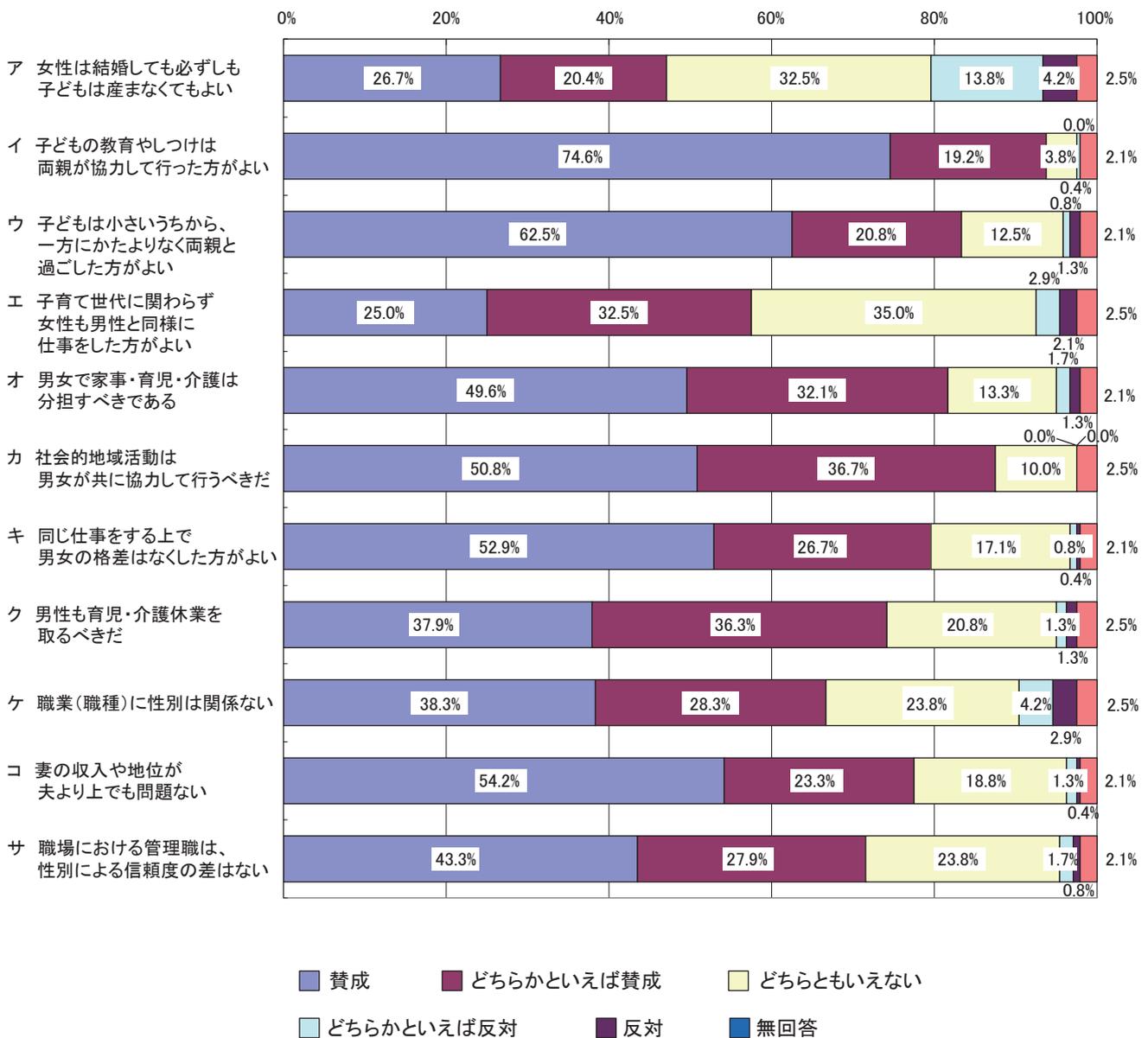
## 男女平等に関することについて

問 20 あなたは、次に掲げる項目についてどのように思われますか。

(○は各項目ごとに1つずつ)

全体では、「イ 子どもの教育やしつけは両親が協力して行った方がよい」で「賛成」が最も高く(74.6%)、「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』は9割となっています。次いで、「カ 社会的地域活動は男女が共に協力して行うべきだ」で『賛成』が87.5%、「ウ 子どもは小さいうちから、一方にかたよりなく両親と過ごした方がよい」(83.3%)の順となっています。

一方、「ア 女性は結婚しても必ずしも子どもは産まなくてもよい」は「どちらかといえば反対」が最も高く(13.8%)、「反対」を合わせた『反対』が最も高くなっています(18.0%)。

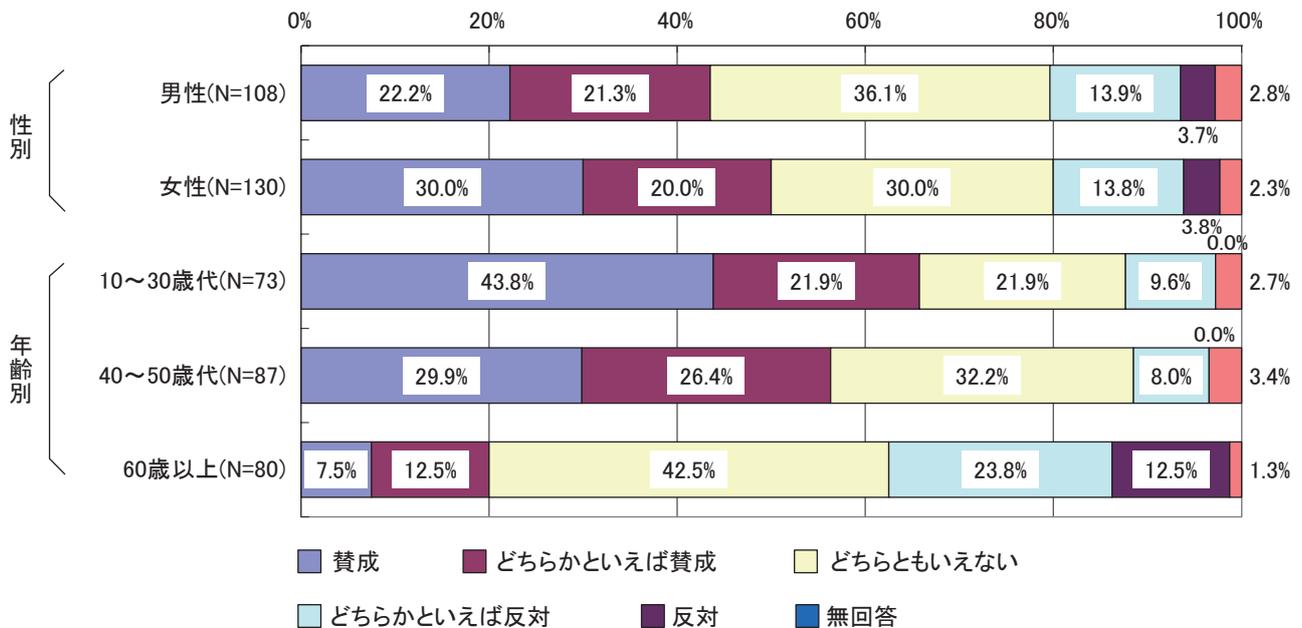


【男女別 / 年齢別】

【ア 女性は結婚しても必ずしも子どもは産まなくてもよい】

性別でみると、男女とも「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』が（それぞれ 43.5%、50%）と高くなっています。

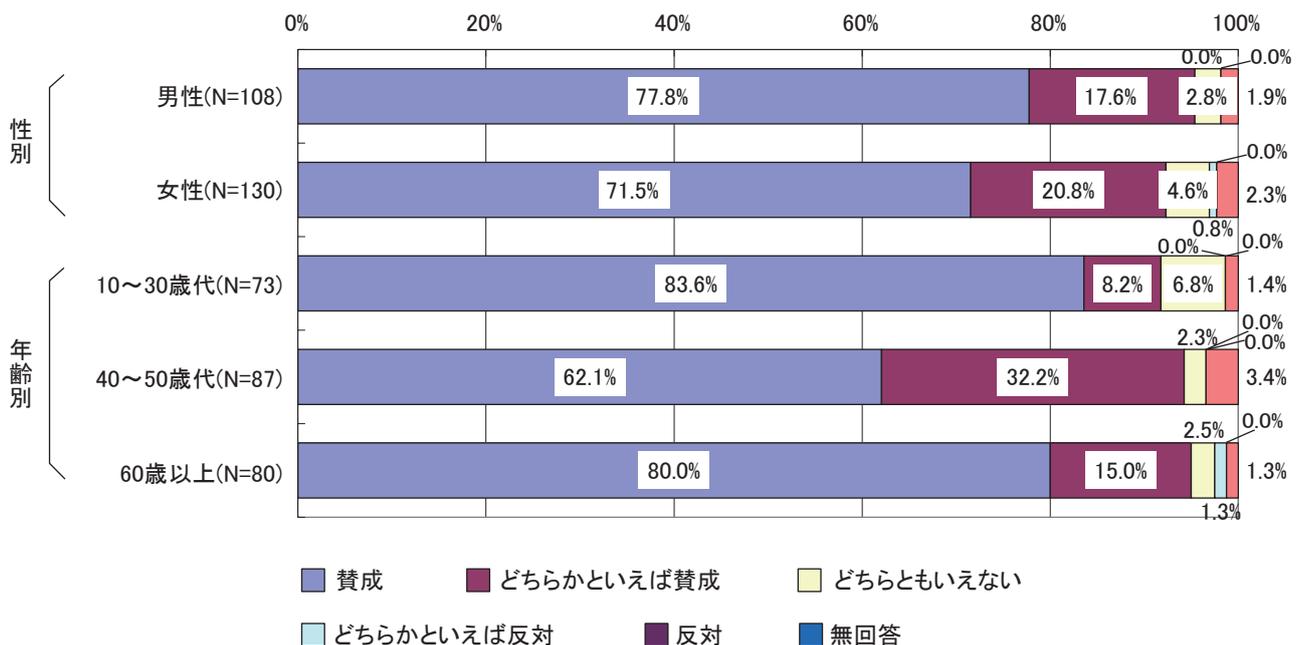
また、年齢別でみると、「賛成」は10～30歳代で最も高く（43.8%）、『賛成』は65.7%となっています。60歳以上は「どちらともいえない」が4割を占め、「どちらかといえば反対」と「反対」を合わせた『反対』が36.3%と高くなっています。



【イ 子どもの教育やしつけは両親が協力して行った方がよい】

性別でみると、男女とも「賛成」が大半を占めており、「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』は、男性が95.4%で女性を3.1ポイント上回っています。

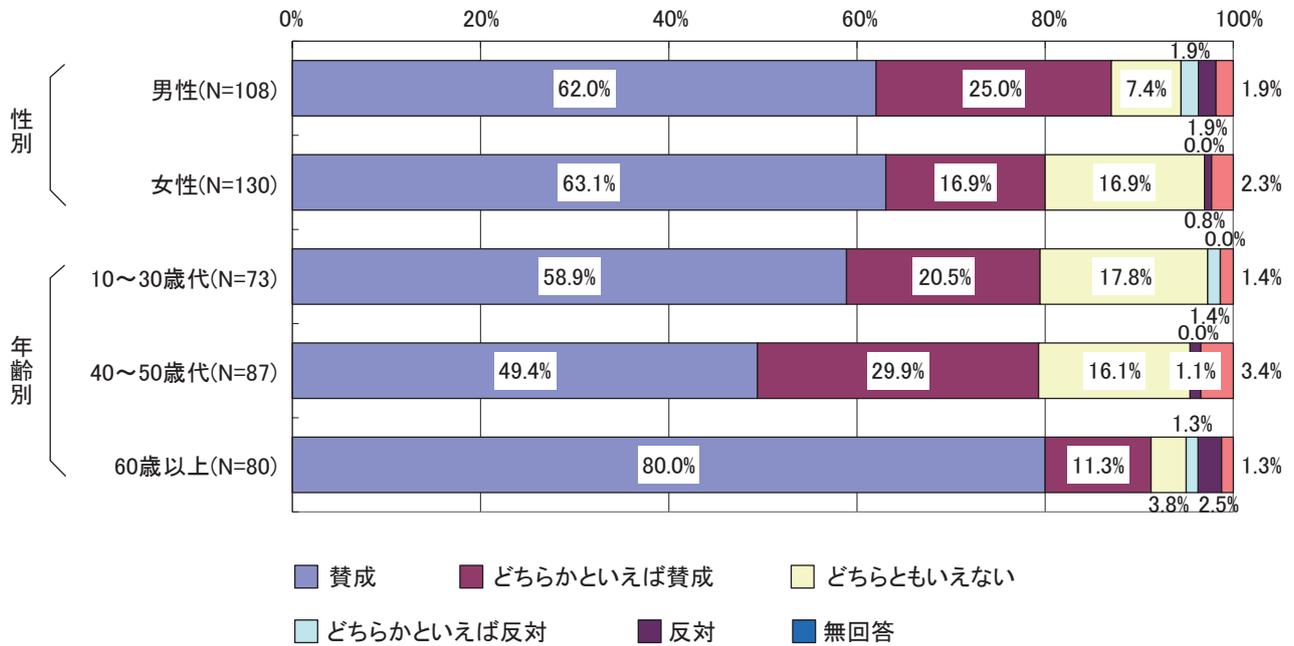
また、年齢別でみると、「賛成」は60歳以上で最も高く（80.0%）、いずれの年齢別においても『賛成』は9割を占めています。



【ウ 子どもは小さいうちから、一方にかたよりなく両親と過ごした方がよい】

性別でみると、男女とも「賛成」が大半を占めており、『賛成』は男性が87.0%と高く、女性を7.0ポイント上回っています。

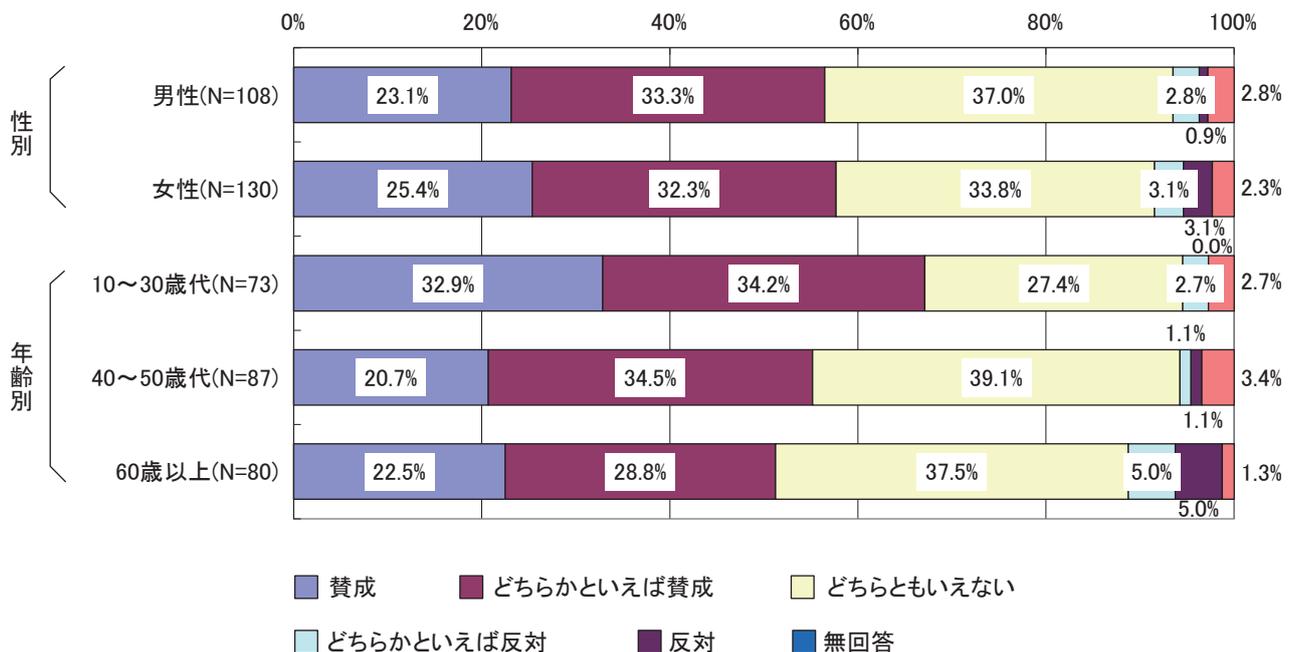
また、年齢別でみると、どの年齢も「賛成」が大半を占めており、60歳以上で『賛成』は91.3%と最も高くなっています。



【エ 子育て世代に関わらず女性も男性と同様に仕事をした方がよい】

性別でみると、男性は「どちらともいえない」が最も高いものの(37.0%)、『賛成』が5割を占めています。女性も、「どちらともいえない」が最も高いものの(33.8%)、『賛成』が5割を占めています。

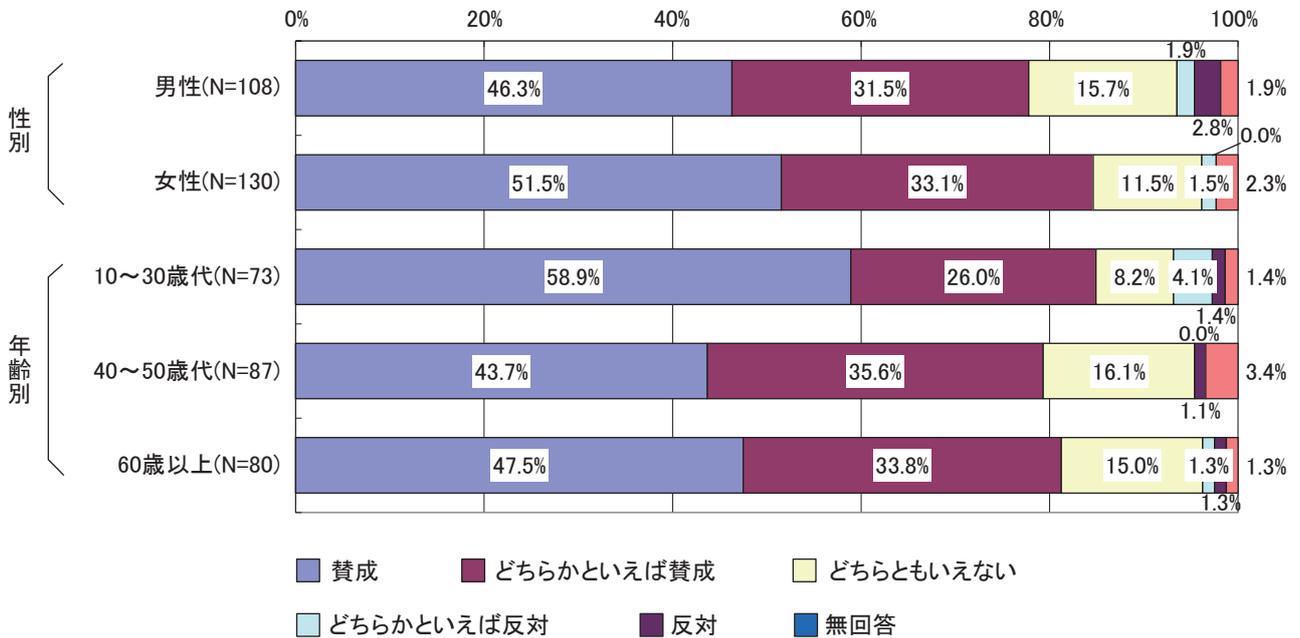
また、年齢別でみると、「賛成」は10~30歳代で最も高く(32.9%)、『賛成』は67.1%となっています。



### 【オ 男女で家事・育児・介護は分担すべきである】

性別でみると、男女とも「賛成」が最も高く、『賛成』は女性が84.6%と高く、男性を6.8ポイント上回っています。

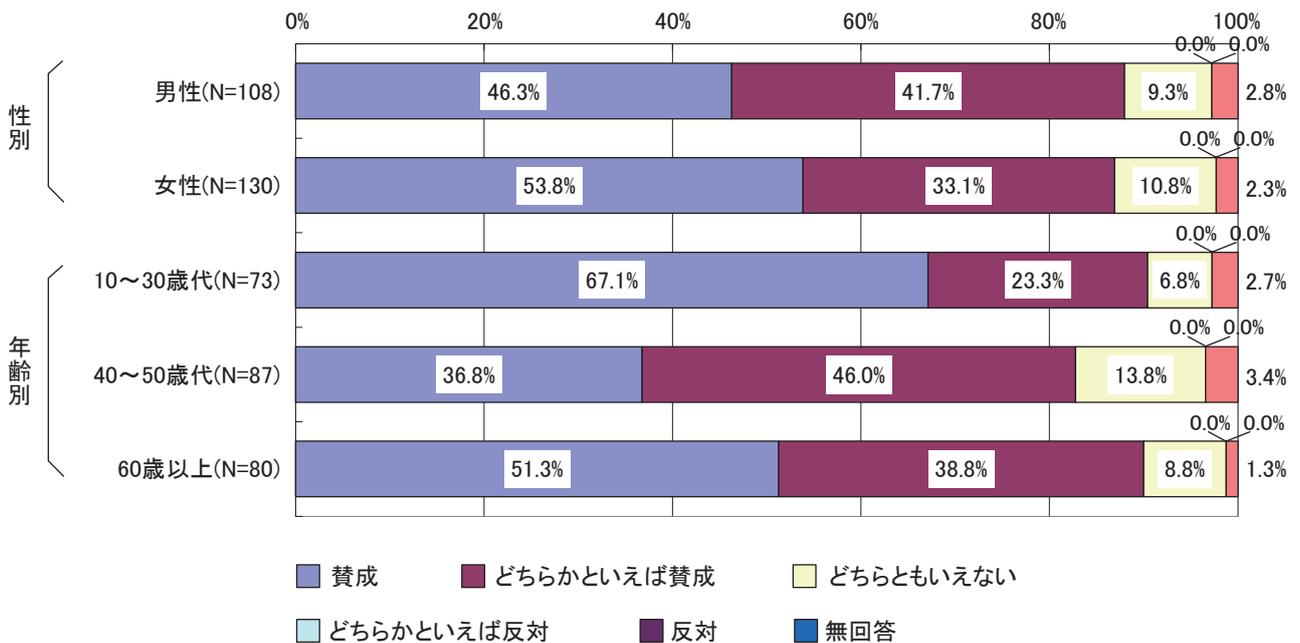
また、年齢別でみると、「賛成」は10～30歳代で最も高く（58.9%）、『賛成』は84.9%となっています。



### 【カ 社会的地域活動は男女が共に協力して行うべきだ】

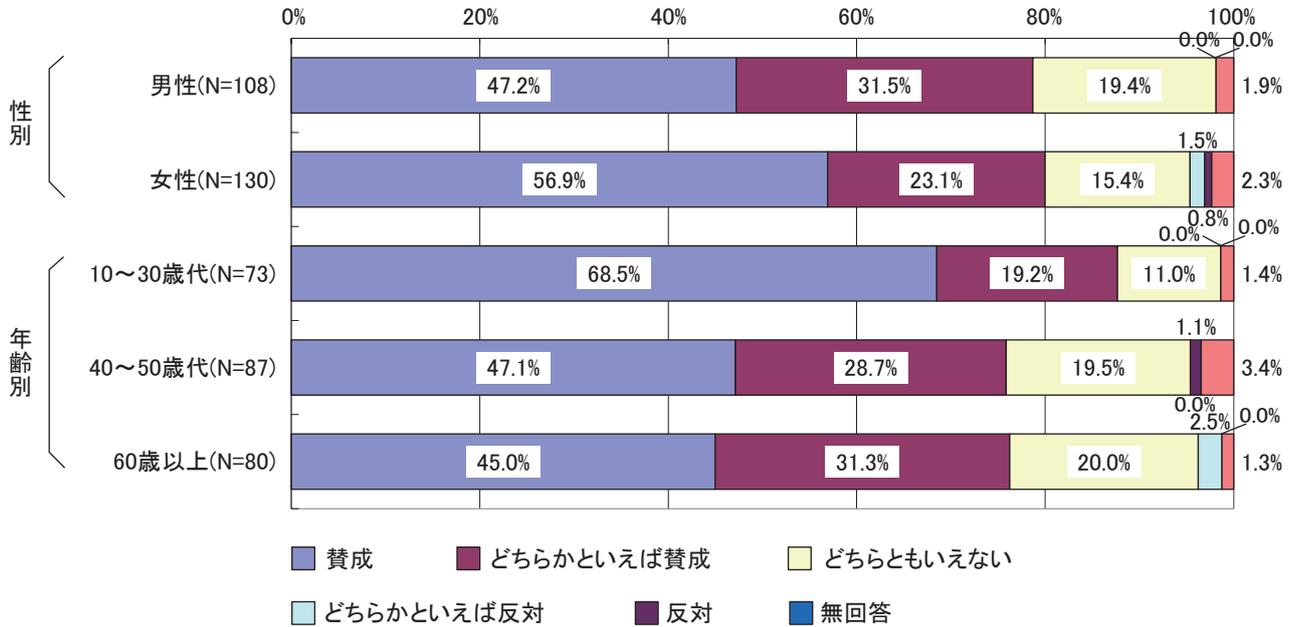
性別でみると、男女とも「賛成」が最も高く、『賛成』は男性が88.0%と高く、女性を1.1ポイント上回っています。

また、年齢別でみると、40～50歳代で「どちらかといえば賛成」が最も高いものの（46.0%）、どの年齢も『賛成』が8割～9割を占めており、『賛成』は10～30歳代で90.4%と最も高くなっています。



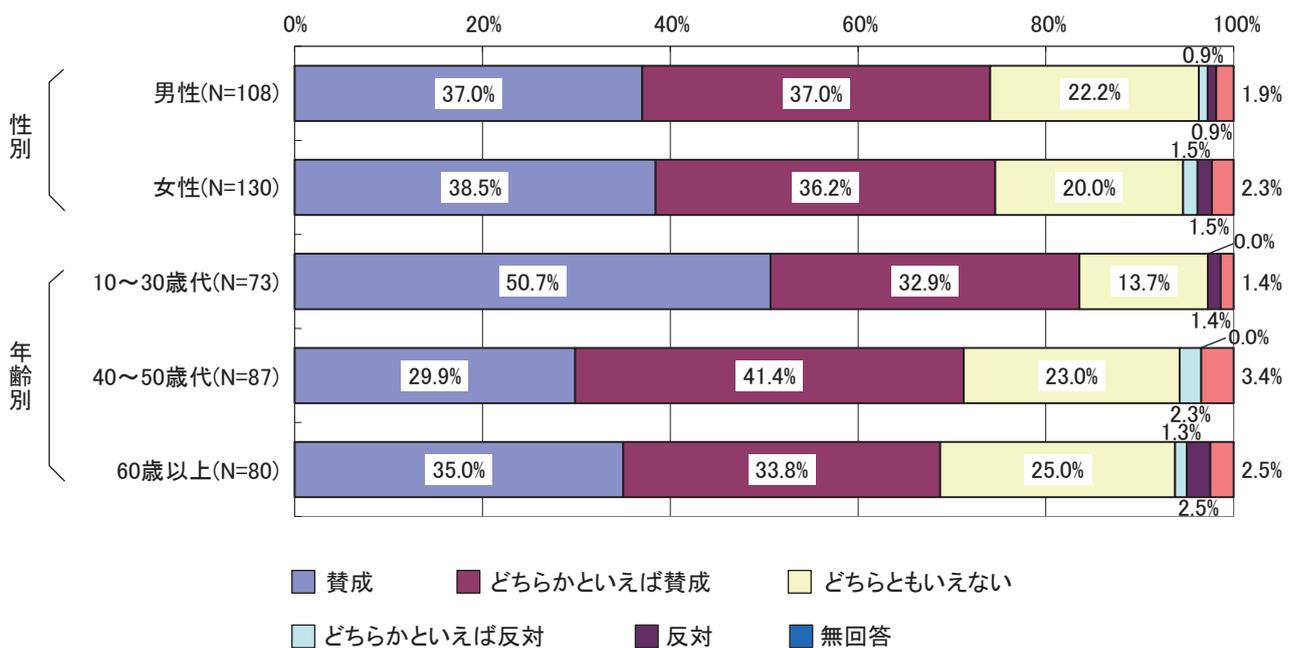
### 【キ 同じ仕事をする上で男女の格差はなくした方がよい】

性別でみると、男女とも「賛成」が最も高く、『賛成』は女性が80.0%と男性を1.3ポイント上回っています。  
 また、年齢別でみると、どの年齢も「賛成」が最も高く、『賛成』は10～30歳代で87.7%と最も高くなっています。



### 【ク 男性も育児・介護休業を取るべきだ】

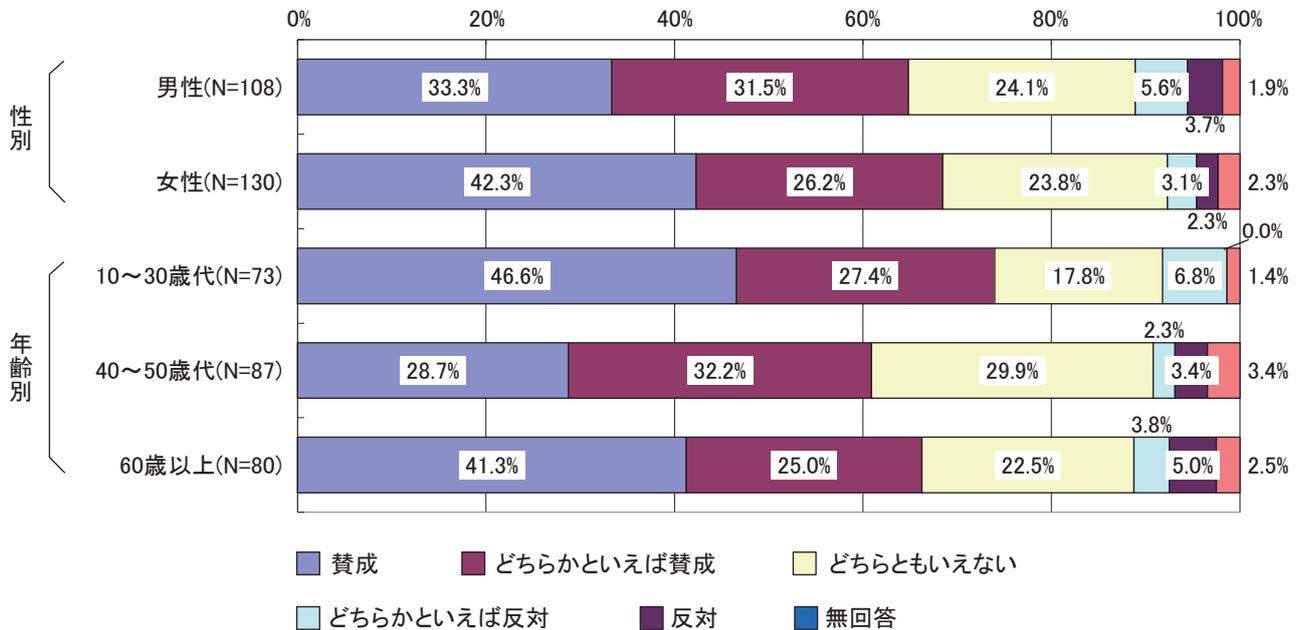
性別でみると、男女とも「賛成」が最も高く、『賛成』は女性が74.7%と男性を0.7ポイント上回っています。  
 また、年齢別でみると、40～50歳代で「どちらかといえば賛成」が最も高いものの(41.4%)、どの年齢も『賛成』が6割～8割を占めており、『賛成』は10～30歳代で83.6%と最も高くなっています。



### 【ケ 職業（職種）に性別は関係ない】

性別でみると、男女とも「賛成」が最も高く、『賛成』は女性が68.5%と高く、男性を3.7ポイント上回っています。

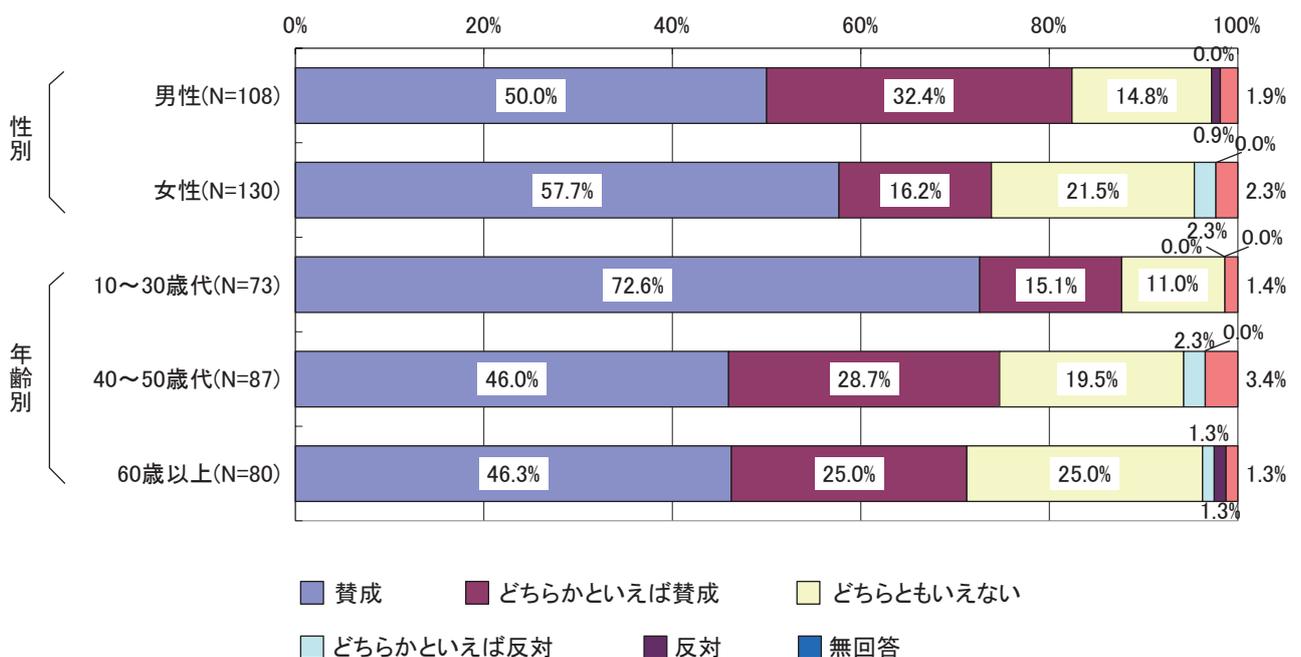
また、年齢別でみると、40～50歳代で「どちらかといえば賛成」が最も高いものの（32.2%）、どの年齢も『賛成』が6割～7割を占めており、『賛成』は10～30歳代で74.0%と最も高くなっています。



### 【コ 妻の収入や地位が夫より上でも問題ない】

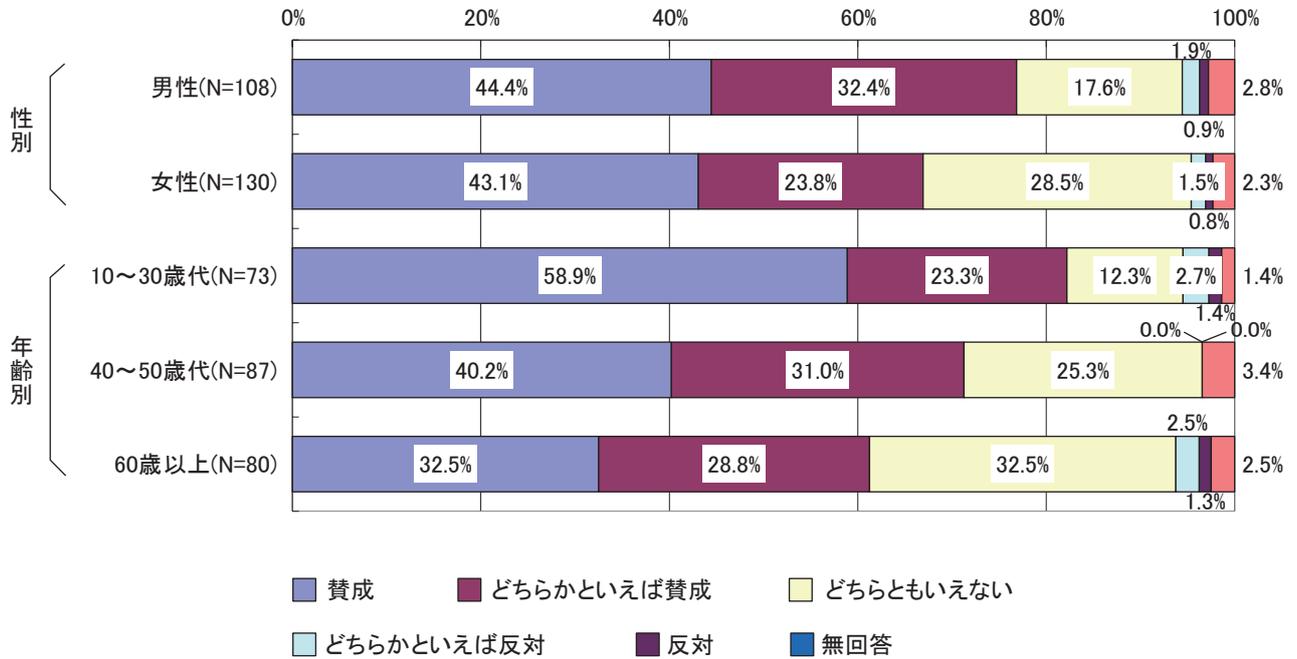
性別でみると、男女とも「賛成」が最も高く、『賛成』は男性が82.4%と女性を8.5ポイント上回っています。

また、年齢別でみると、どの年齢も「賛成」が最も高く、『賛成』は10～30歳代で87.7%と最も高くなっています。



【サ 職場における管理職は、性別による信頼度の差はない】

性別でみると、男女とも「賛成」が最も高く、『賛成』は男性が76.8%と女性を9.9ポイント上回っています。  
 また、年齢別でみると、どの年齢も「賛成」が最も高く、『賛成』は10～30歳代で82.2%と最も高くなっています。



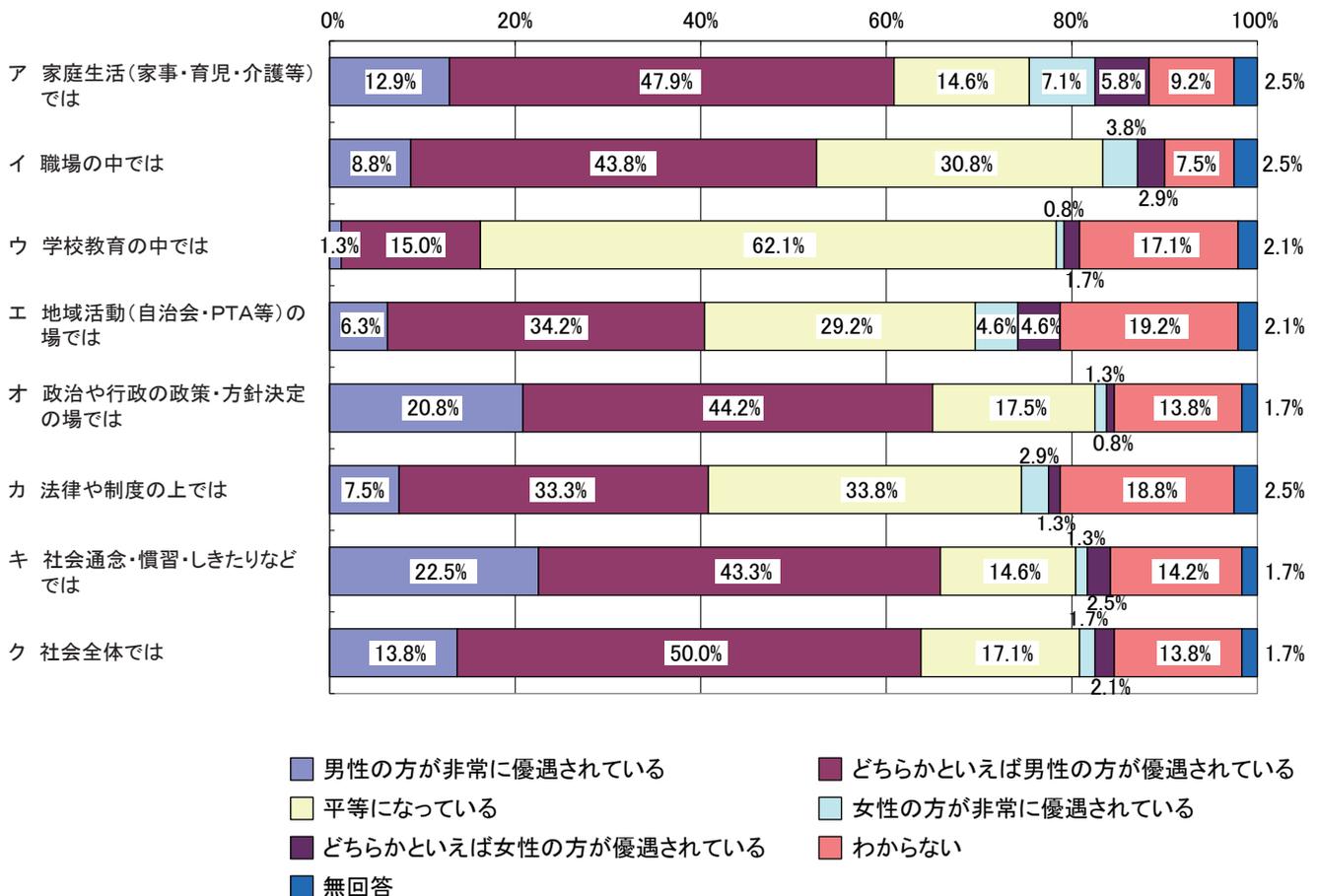
問 21 あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

(○は各項目ごとに1つずつ)

全体では、「学校教育の中では」、「地域活動の場では」、「法律や制度の上では」を除く項目で、『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合）が5割を超えて、男性優遇と感じている人が多くなっています。特に、「社会通念・慣習・しきたりなどでは」で最も高く（65.8%）、次いで、「政治や行政の政策・方針決定の場では」（65.0%）、「社会全体では」（63.8%）の順となっています。

一方、「平等になっている」は「学校教育の中では」で最も高く（62.1%）、次いで、「法律や制度の上では」（33.8%）、「職場の中では」（30.8%）の順となっています。

「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」はどの項目においても10.0%未満となっており、2つを合わせた『女性優遇』も、「家庭生活では」（12.9%）を除いて10.0%未満となっています。

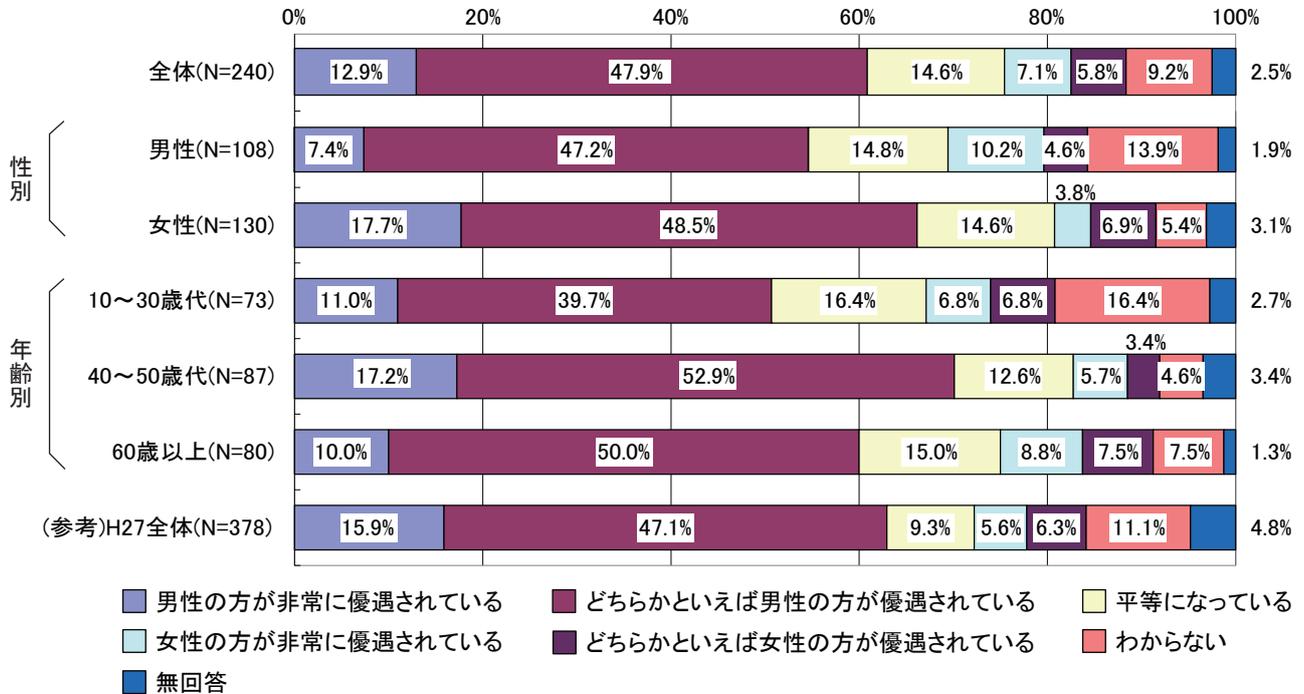


【男女別 / 前回調査比】

【ア 家庭生活（家事・育児・介護等）では】

男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が5割を占め最も高く、『男性優遇』は男性が54.6%、女性が66.2%で、女性が男性を11.6ポイント上回っています。一方、「平等になっている」は、男性14.8%、女性14.6%で、男性が0.2ポイント上回っています。

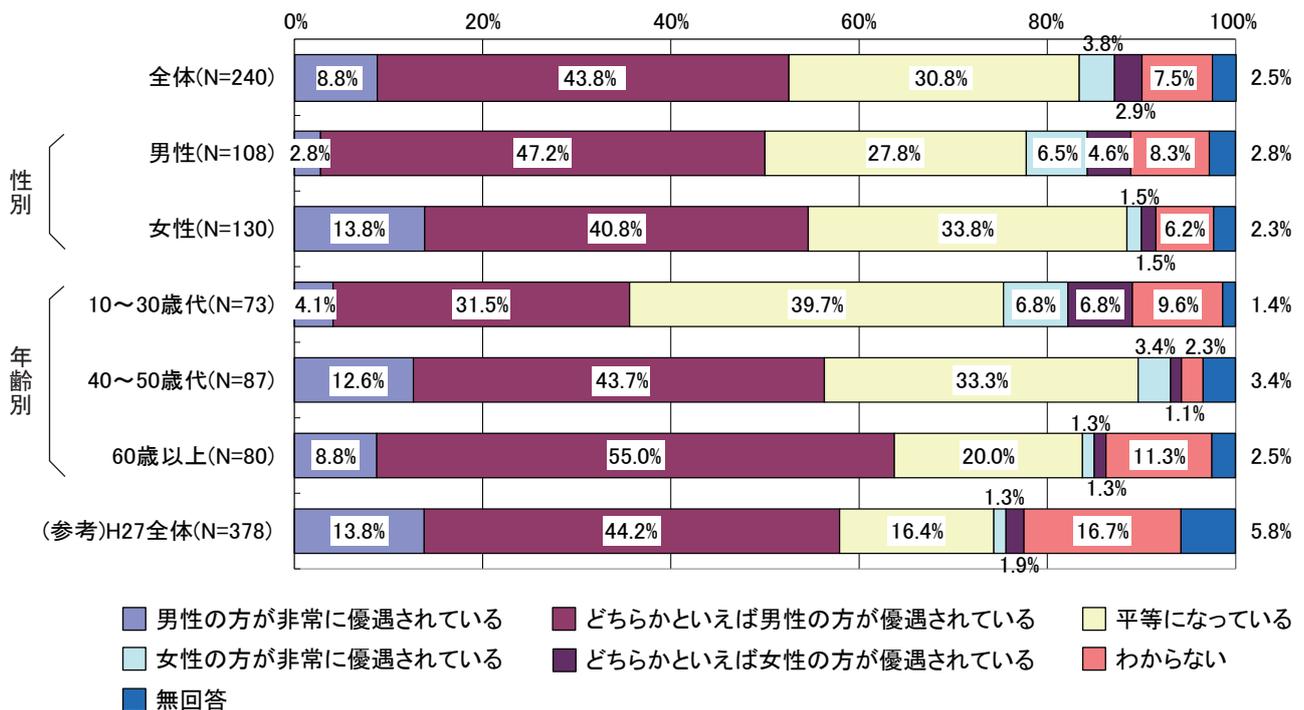
また、前回調査（H27）と比べると、『男性優遇』は2.2ポイント減少し、「平等になっている」は5.3ポイント増加しています。



【イ 職場の中では】

男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が4割を占め最も高く、『男性優遇』は男性50.0%、女性が54.6%と、女性が男性を4.6ポイント上回っています。一方、「平等になっている」は、男性27.8%、女性33.8%で、女性が6.0ポイント上回っています。

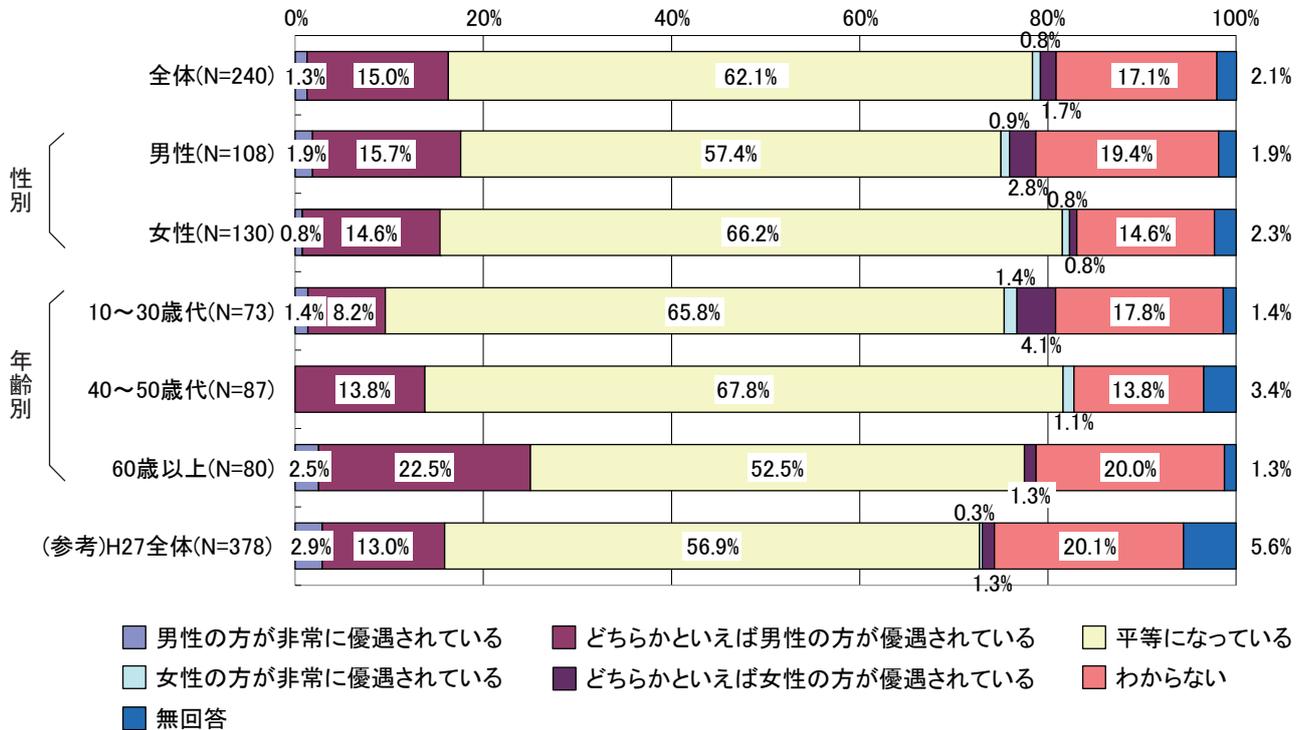
また、前回調査（H27）と比べると、「平等になっている」は14.4ポイント増加し、『男性優遇』は5.4ポイント減少しています。



### 【ウ 学校教育の中では】

男女ともに「平等になっている」が6割を占め最も高く、男性 57.4%、女性 66.2%と、女性が 8.8 ポイント上回っています。

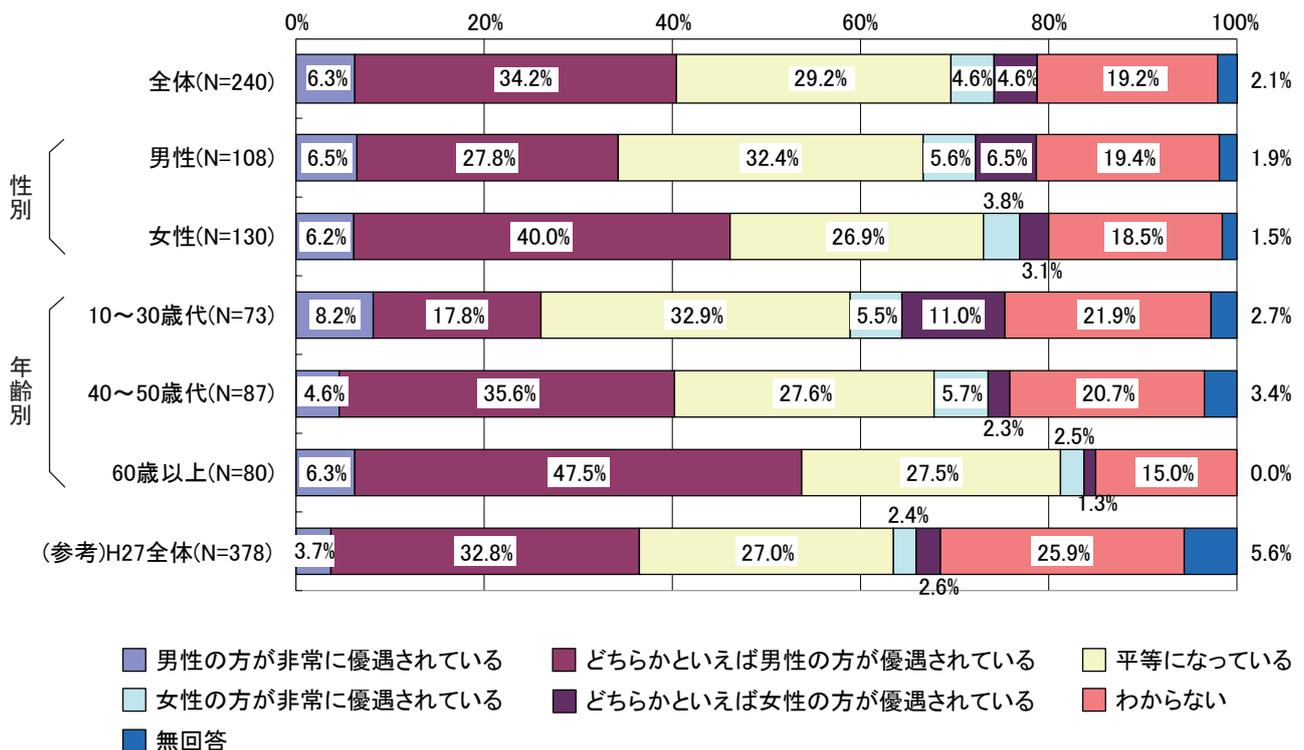
また、前回調査（H27）と比べると、「平等になっている」は 5.2 ポイント増加しています。



### 【エ 地域活動（自治会・PTA等）の場では】

『男性優遇』は男性 34.3%、女性が 46.2%で、女性が男性を 11.9 ポイント上回っています。一方、「平等になっている」は、男性 32.4%、女性 26.9%で、男性が 5.5 ポイント上回っています。

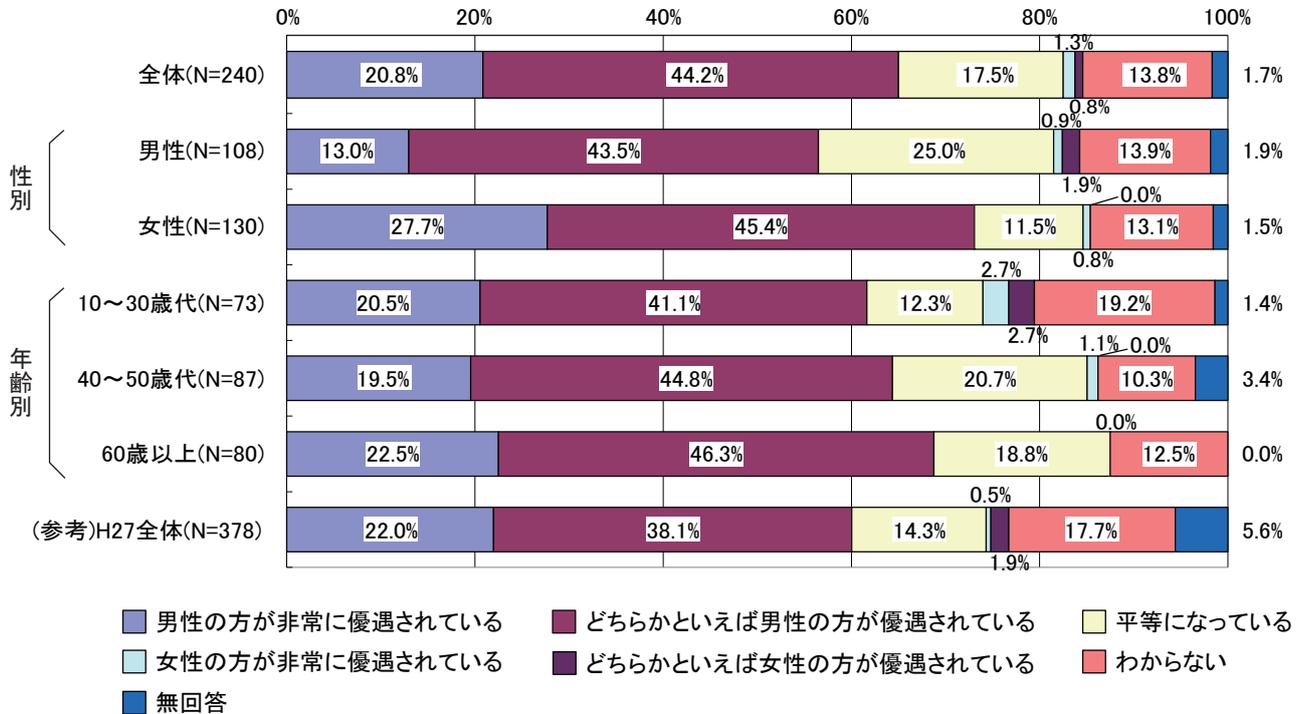
また、前回調査（H27）と比べると、「平等になっている」は 2.2 ポイント増加し、『男性優遇』は 4.0 ポイント増加しています。



### 【オ 政治や行政の政策・方針決定の場では】

男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が4割を占め最も高く、『男性優遇』は男性56.5%、女性73.1%で、女性が男性を16.6ポイント上回っています。一方、「平等になっている」は、男性25.0%、女性11.5%で、男性が13.5ポイント上回っています。

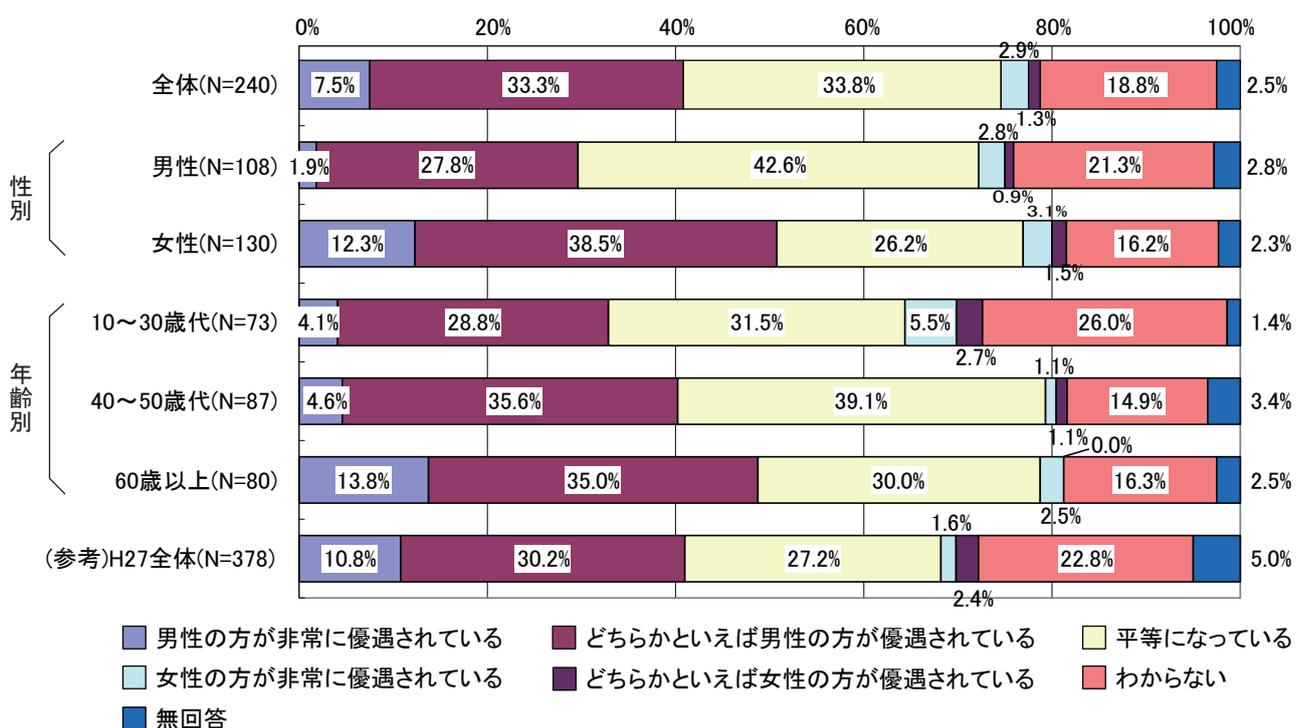
また、前回調査（H27）と比べると、「平等になっている」は3.2ポイント増加し、『男性優遇』も4.9ポイント増加しています。



### 【カ 法律や制度の上では】

性別で見ると、男性は「平等になっている」が最も高く（42.6%）、一方、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（38.5%）が最も高くなっています。

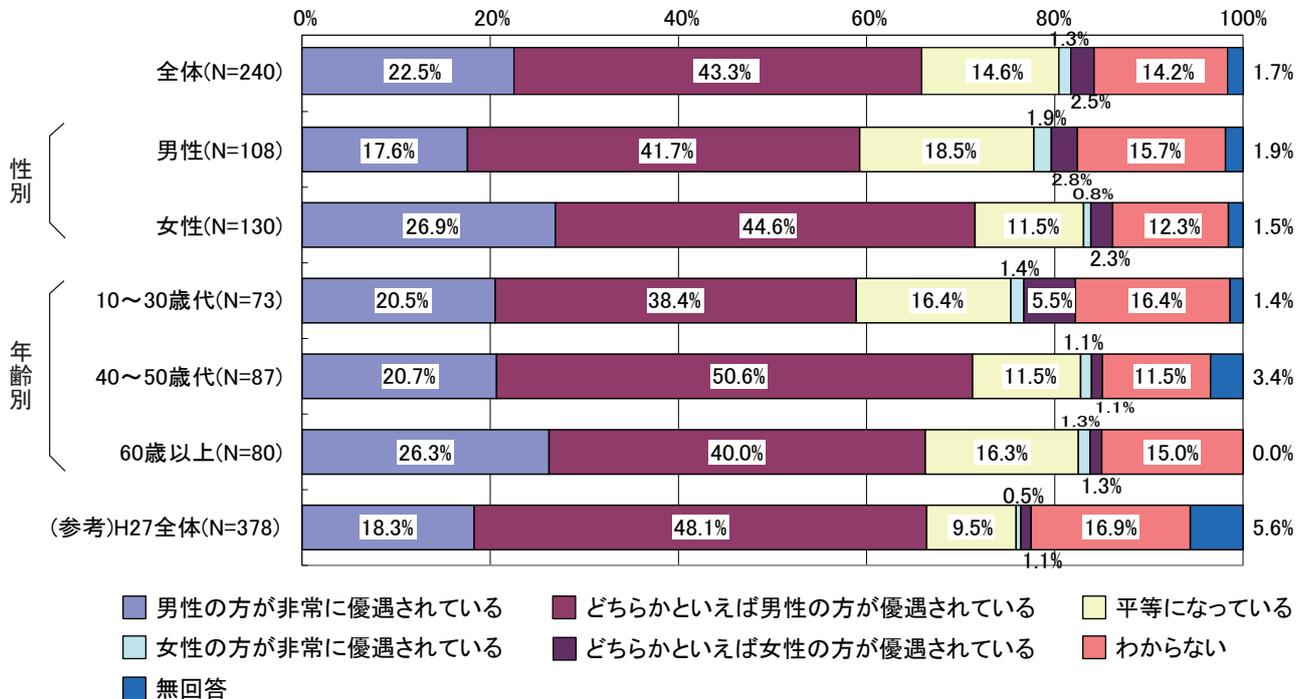
また、前回調査（H27）と比べると、「平等になっている」は.6ポイント増加し、『男性優遇』は0.2ポイント減少しています。



【キ 社会通念・慣習・しきたりなどでは】

男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が4割を占め最も高く、『男性優遇』は男性59.3%、女性が71.5%で、女性が男性を12.2ポイント上回っています。一方、「平等になっている」は、男性18.5%、女性11.5%で、男性が7.0ポイント上回っています。

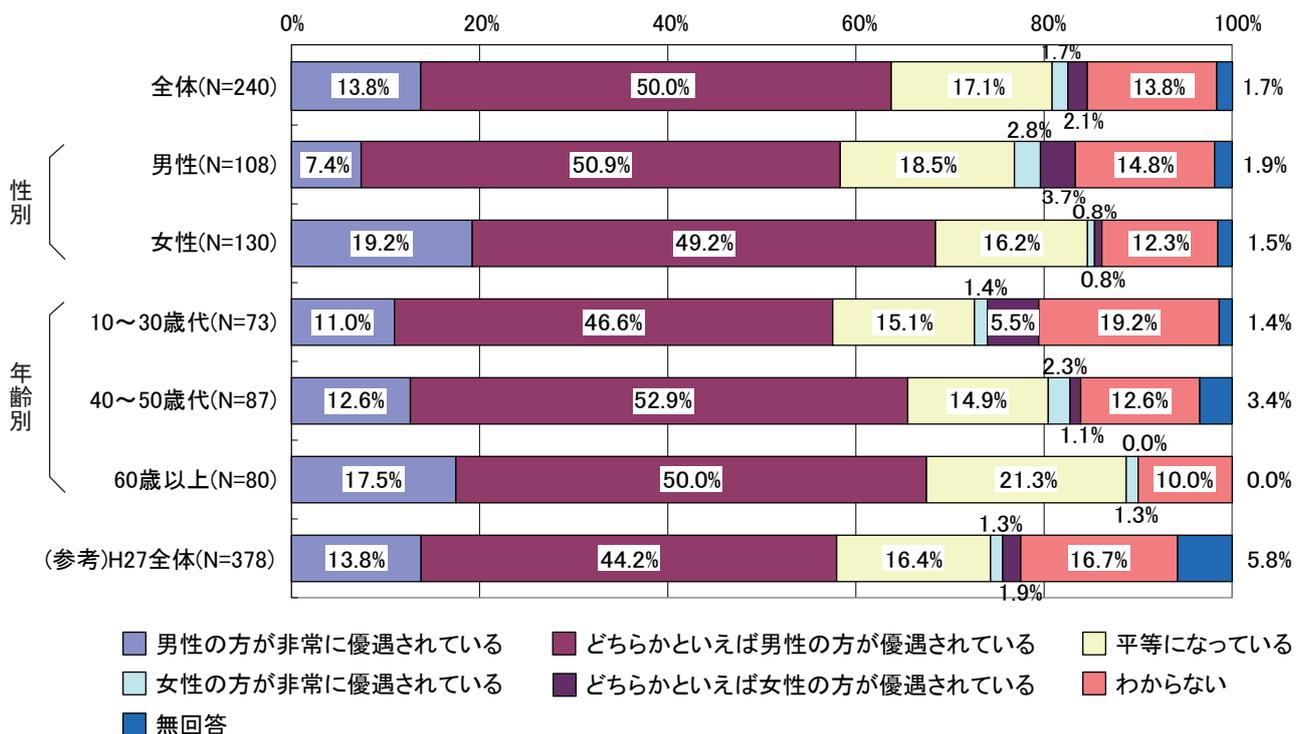
また、前回調査（H27）と比べると、「平等になっている」は5.1ポイント増加し、『男性優遇』は0.6ポイント減少しています。



【ク 社会全体では】

男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が5割を占め最も高く、『男性優遇』は男性58.3%、女性68.4%で、女性が男性を10.1ポイント上回っています。一方、「平等になっている」は、男性18.5%、女性16.2%で、男性が2.3ポイント上回っています。

また、前回調査（H27）と比べると、「平等になっている」は0.7ポイント増加し、『男性優遇』も5.8ポイント増加しています。



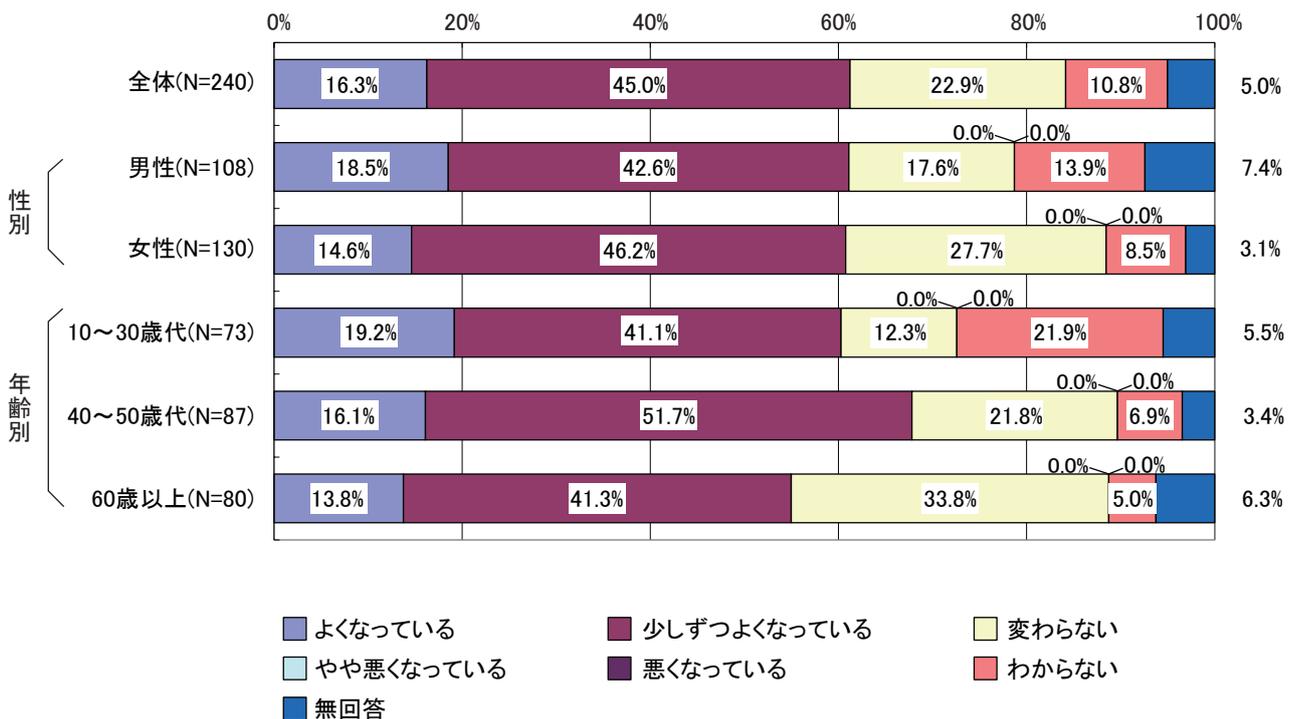
問 22 あなたは、この 10 年間に女性の社会的な立場はよくなったと思いますか。

(〇は 1 つ)

全体では、「少しずつよくなっている」が最も高く (45.0%)、「よくなっている」と合わせた『よくなっている』は 6 割を占めています。一方、「変わらない」は 22.9%となっています。

また、性別で見ると、『よくなっている』は男性 61.1%、女性 60.8%で、男性が女性を 0.3 ポイント上回っています。

さらに、年齢別で見ると、どの年齢も「少しずつよくなっている」が 4 割～5 割を占め、『よくなっている』は、40～50 歳代が 67.8%と最も高くなっています。



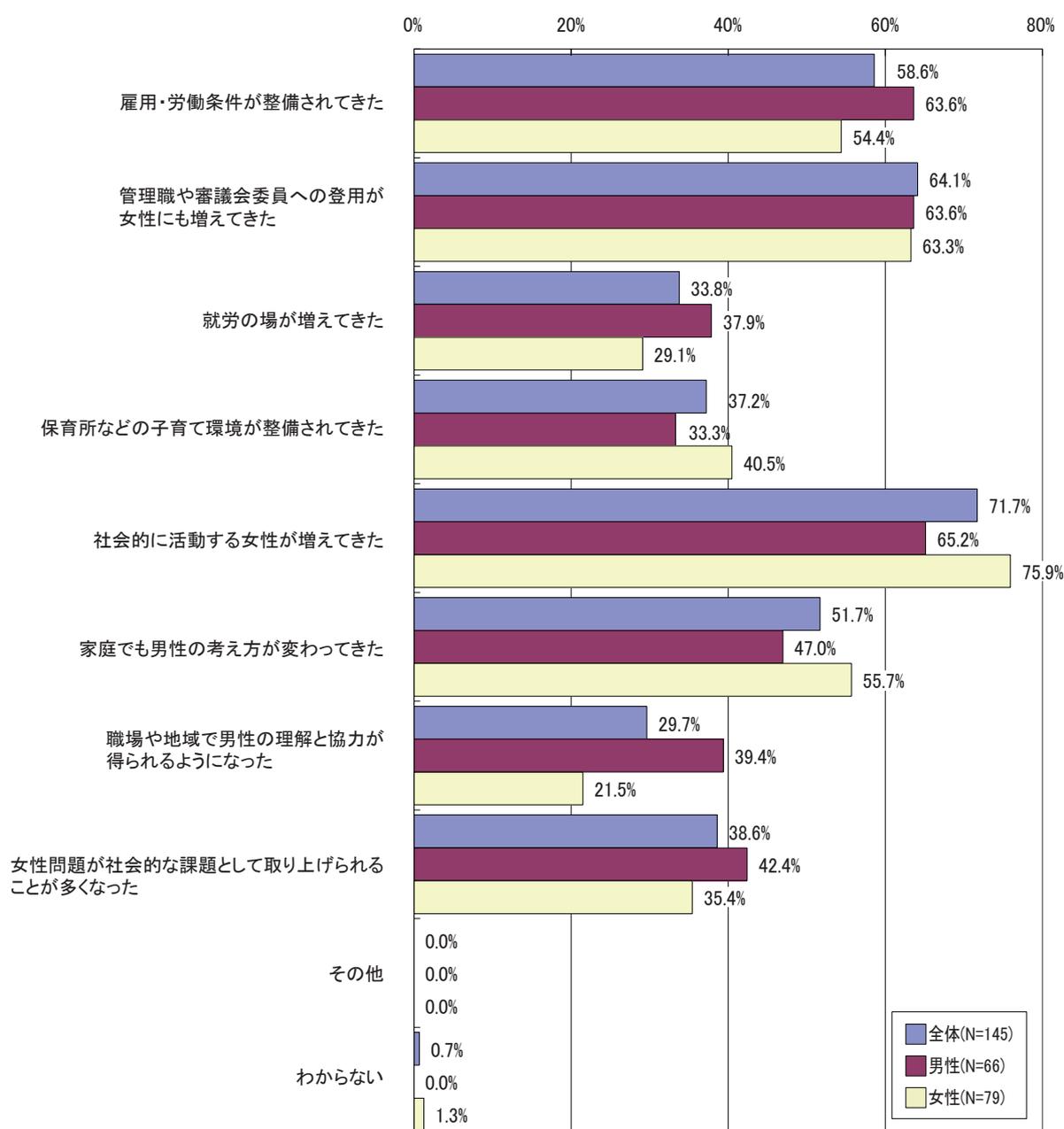
問 22 で「1 よくなっている」「2 少しずつよくなっている」と答えた方

問 22 - 1 どのような点がよくなったと思いますか。

(○はいくつでも)

全体では、「社会的に活動する女性が増えてきた」が最も高く（71.7%）、次いで、「管理職や審議会委員への登用が女性にも増えてきた」（64.1%）、「雇用・労働条件が整備されてきた」（58.6%）の順となっています。

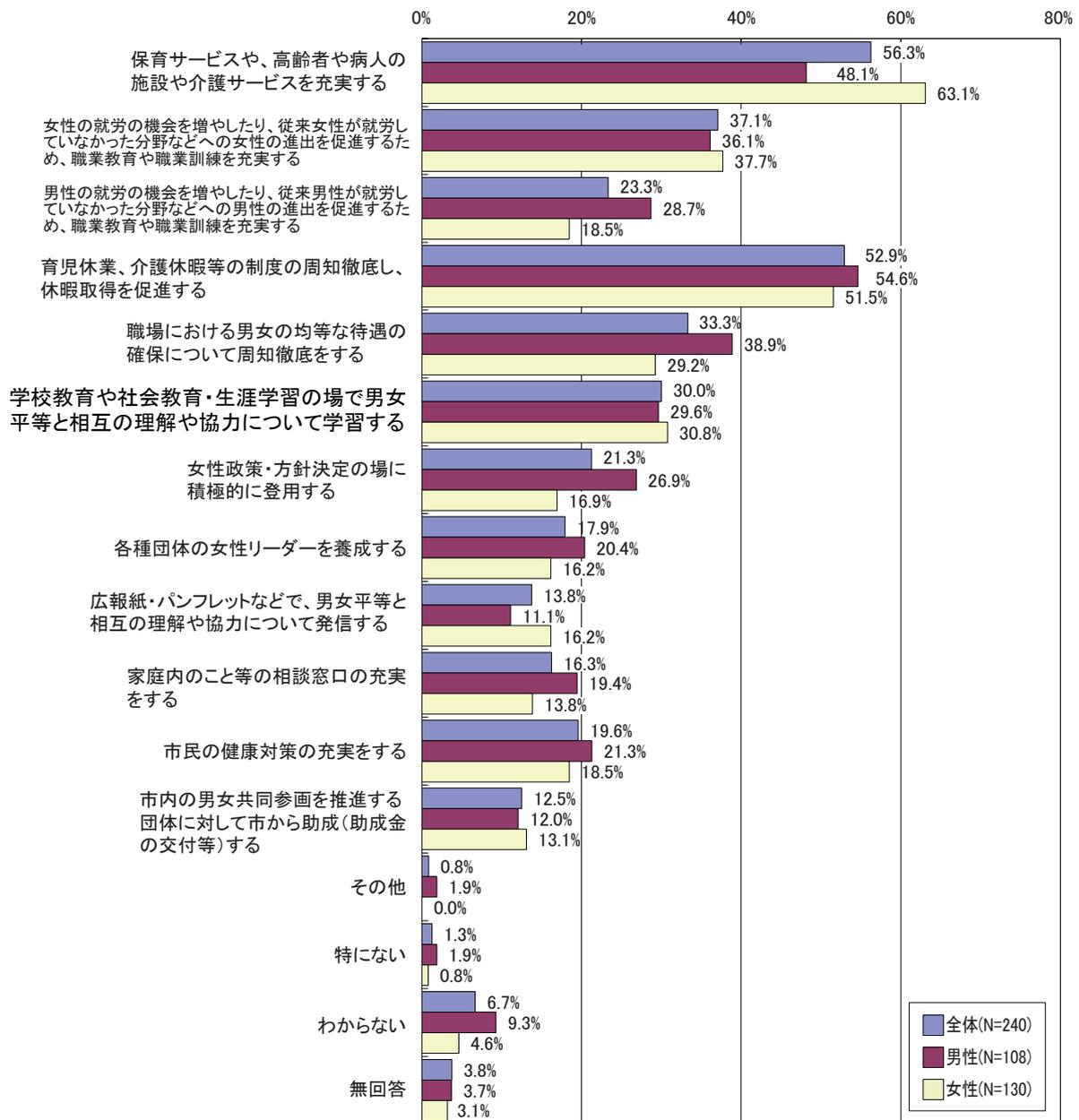
また、性別で見ると、男性は「社会的に活動する女性が増えてきた」が最も高く（65.2%）、次いで、「雇用・労働条件が整備されてきた」・「管理職や審議会委員への登用が女性にも増えてきた」（63.6%）となっており、一方女性は、「社会的に活動する女性が増えてきた」が最も高く（75.9%）、次いで、「管理職や審議会委員への登用が女性にも増えてきた」（63.3%）となっています。



問 23 「男女共同参画社会」を形成していくために、今後、東かがわ市はどのようなことをすべきだと思いますか。 (〇はいくつでも)

全体では、「保育サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が最も高く(56.3%)、次いで、「育児休業、介護休暇等の制度の周知を徹底し、休暇取得を促進する」(52.9%)、「女性の就労の機会を増やしたり、従来女性が就労していなかった分野などへの女性の進出を促進するため、職業教育や職業訓練を充実する」(37.1%)の順となっています。

また、性別でみると、男性は「育児休業、介護休暇等の制度の周知を徹底し、休暇取得を促進する」(54.6%)が最も高く、次いで、「保育サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」(48.1%)、女性は「保育サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」(63.1%)が最も高く、次いで、「育児休業、介護休暇等の制度の周知徹底し、休暇取得を促進する」(51.5%)となっています。



【その他】

- ・被雇用者にとって魅力ある企業を増やす。
- ・仕事する意味・仕事をする上での意欲向上ができる取り組みを。

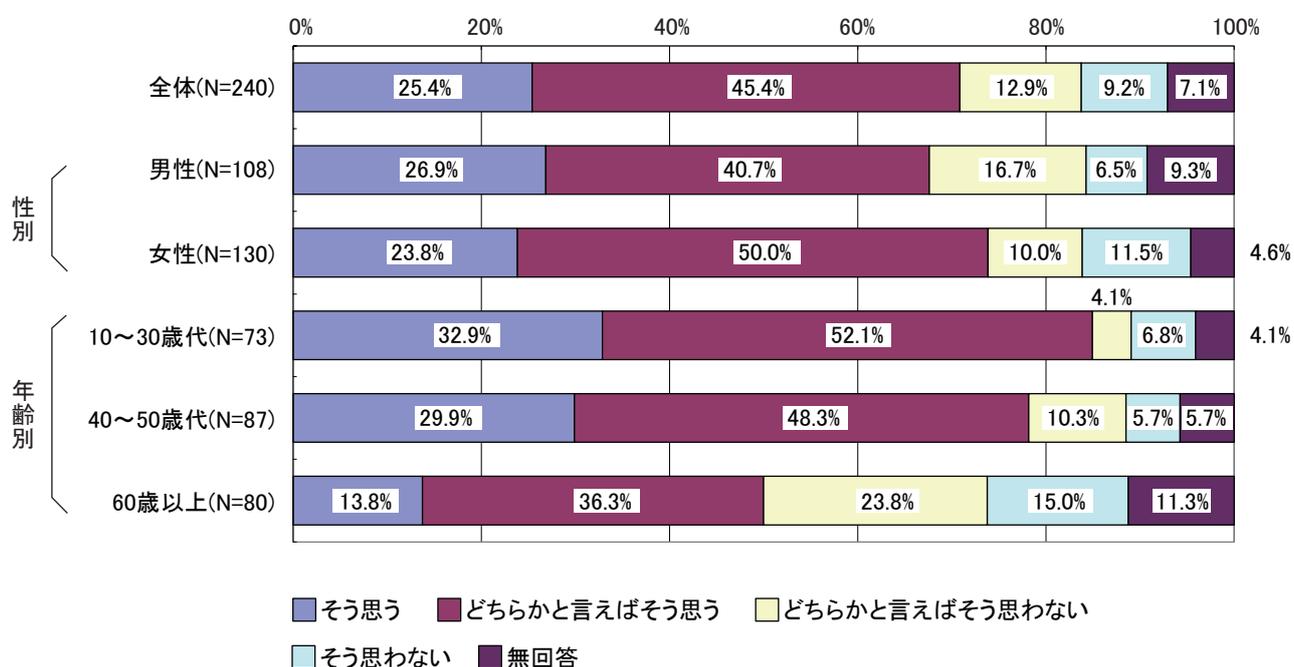
## LGBTなど性的少数者について

問 24 現在、LGBTなど性的少数者の方々にとって、偏見や差別などの人権侵害により、生活しづらい社会だと思いますか。 (〇は1つ)

全体では、「どちらかと言えばそう思う」が最も高く(45.4%)、『そう思う』は7割を占めています。一方、「どちらかと言えばそう思わない」は12.9%となっています。

また、性別でみると、『そう思う』は男性67.6%、女性73.8%で、女性が男性を6.2ポイント上回っています。

さらに、年齢別でみると、どの年齢も「どちらかと言えばそう思う」が3割～5割を占め、『そう思う』は、10～30歳代が85.0%と最も高くなっています。



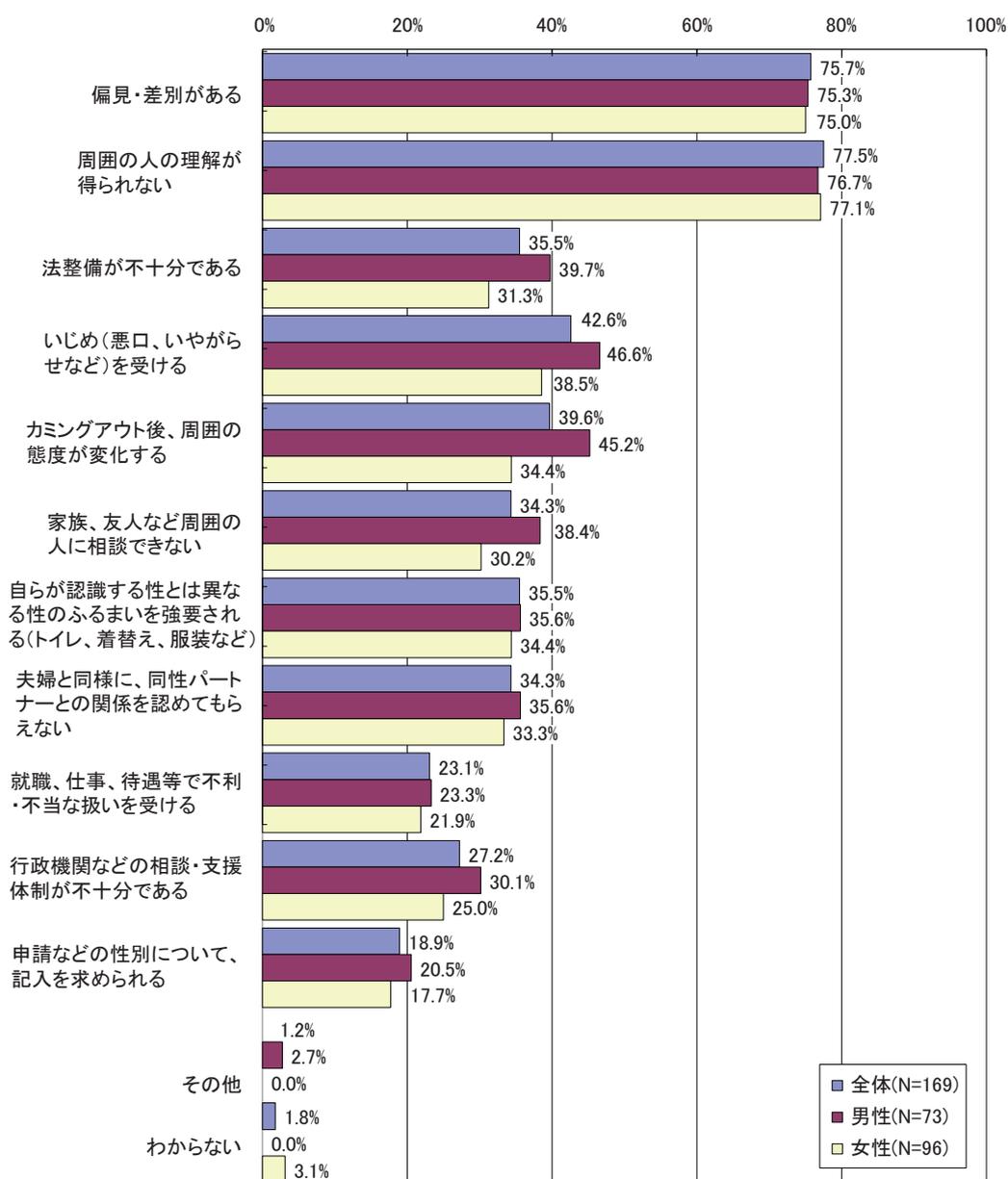
問 24 で「1 そう思う」「2 どちらかと言えばそう思う」と答えた方

問 24 - 1 なぜ生活しづらい社会だと思いますか

(〇はいくつでも)

全体では、「周囲の人の理解が得られない」が最も高く（77.5%）、次いで、「偏見・差別がある」（75.7%）、  
「いじめ（悪口、いやがらせなど）を受ける」（42.6%）の順となっています。

また、性別でも、男女ともに「周囲の人の理解が得られない」が最も高く（それぞれ76.7%、  
77.1）、次いで、男女ともに「偏見・差別がある」（それぞれ75.3%、75.0%）、「いじめ（悪口、いやが  
らせなど）を受ける」（それぞれ46.6%、38.5%）の順となっている。



【その他】

- ・ 他人を気にせずに、堂々と生きてほしい。

# III 資料

## ご意見・ご要望について

問 25 最後に、男女共同参画に関する市政へのご意見・ご要望などがございましたら、ご自由にお書きください。

### 1 男女平等について 9件

	意見	性別	年代
1	昔に比べて育休や介護休暇等充実されてきたが、社会通念・慣習しきたりなどで男性が優遇されている。法的整備が進んでも実際は男女平等とはいかない。男性・女性の特質を活かし、男女共同参画・家庭・社会をめざしたい。	女性	60代
2	男性には男性にしかできない事があり、女性の場合も同じ。男女を差別してはいけませんが、区別はすべき。お互いに来ること、やりたい事は違うと思う。そもそも男と女は違うのだから（体も心も）全て同等というのも違う気がします。	女性	50代
3	最も大切な事は、未来に向かって良い人間づくりをする事。そのためには男女が全く同じような立場や権利を有するなどと言う夢みたいな事は考えず、それぞれの立場を相互に理解しあい協力して幸せな家庭を一つでも多く作り上げる事が最も必要。そのためには男はもっと働き高収入を得る事が出来れば家庭の安定と子育てへの取り組み方に余裕も生まれるのではないだろうか（女性が家事育児をする事は働いていない事ではなく女性の大切な仕事である。女性の仕事が十分できる様にするために男性の収入の安定は絶対に必要。（男性の思いやりも）	男性	60代
4	男・女…性別によらず人として。	女性	70代
5	“ジェンダーの平等” への意見に関しては、これからの若い世代よりも、現在私たちより年配の方々が長い間持つ固定的な意識を変える方がより難しい課題になると思います。私が結婚という道を選ばないのは、結婚後子育てなどで働けなくなるなどの社会的な要因からではなく、自分の人生で考えた時のキャリアアップのためです。市が何かすべき、というよりは、一人ひとりが意識して変わっていくことを願っています。	女性	20代
6	男性には男性の役割があり、また、女性には女性しかできない役割があると思います。男女が協力しなければ社会も家庭もうまくいかないと思います。お互いを尊重するようにすれば子どもたちも親の姿を見て素直に育つと思います。家庭でも学校でも権利を主張すれば義務が生ずる事をもっと教えるべきだと思います。	女性	70代
7	価値観は人それぞれなので、強制するべきではない。	女性	50代
8	今まで関心がなく他人事のように思っていました。これからはみんな考えていかなければいけない事だと思いました。やはり差別はいけない事だと、この年になってつくづく思います。よい社会を作るために。	女性	60代
9	戦後から比較すると法的整備の進む中、女性の立場もかなり良くなってきており、今後も社会全体で推進することが必要。一方家庭内（夫婦間）では、逆に女性の立場が強くなる傾向にあると思われる。	男性	70代

## 2 職業、職場について 2件

	意見	性別	年代
1	田舎では夫婦共働きでないと保育所や生活費が十分でないと思う。市外に就職しないで近くに働く場があれば、子どもにも家庭・地域の人々にも交流できる時間が作れると思う。企業誘致をして欲しい。	男性	60代
2	全ての根源（仕事）がいる、企業誘致！	男性	60代

## 3 社会活動、地域活動について 1件

	意見	性別	年代
1	家庭が生活の基盤であると思っていますし、小さな社会です。各家庭が幸せに暮らせる事が基本であり、それが実現できれば自然と男性女性関係なく地域も職場も社会も国もうまく行きます。（男性らしさ、女性らしさ、大人らしさ、子どもらしさ、らしさを大切にされた教育や考え方）男女共同参画とは違う意見となっていましたらすみません。	女性	50代

## 4 男女共同参画の問題について 5件

	意見	性別	年代
1	少しずつは縮まりつつあると思いますが、まだまだ男女の格差はあると思います。	女性	50代
2	LGBTについては、まだまだ知識不足なので、理解を深める機会があればいいと思う。	女性	40代
3	知らないだけでLGBTの方がまわりにはいないので、よくわかりません。（ただ知らないだけかも知れませんが）	男性	60代
4	LGBTについて都心などでは理解が進んでいるが、東かがわ市は高齢化社会であり、LGBTという言葉になじみのない人が多いと思うので当事者の方々は大変だと思う。	女性	20代
5	東かがわ市は男女共同参画が進んでいないと思います。市の役職・団体の役職は、ほとんどが男性です。女性の議員数をもっと増やす事も必要です。仕事も女性は非正規雇用が男性と比べて多いです。出産しても女性が働けるように男性も育児休暇をとり、力で押さえつける教育（大声で怒る、体罰など）から暴力を受けていい人はだれもいないという教育が必要です。	女性	40代

## 5 子育ての環境について 2件

	意見	性別	年代
1	男女共同参画と聞くと難しくとらえがちだけど、一人ひとりが普通に差別されることなく生活していくことが一番重要だと思う。昔は育児休業などなく産休があればすぐ仕事しなければいけなくて保育所も一歳未満の子どもは預けることが出来ず、仕方なく離職しなければいけない時代だった。今は選択肢がたくさんあり、いい時代だと思う。	女性	50代
2	子どもを産む＝仕事を休まなければならず（産・育休）はおめでたいことですが、やはり会社に迷惑をかけるので休みづらい環境です。産・育休の人がいる会社へ支援があれば（もうあるかもしれませんが）こちらも休ませてもらいやすいと思います。	女性	30代

## 6 アンケートについて 4件

	意見	性別	年代
1	私の意見ですが、60歳を過ぎた者に出しても、よいアンケートの答えが出ないと思いますよ。もっと若い人をお願いしてほしかったです。	女性	60代
2	調査項目が多すぎて疲れる。項目数を減らすべき。地域活動の範囲が広すぎて回答しづらい。（婦人会、自治会、子ども会、PTAなど）	男性	40代
3	「こうあるべき」という様に限定されて、質問をされれば、それに対しては回答し難い。「こうあるべきか」に該当しない人は間違っているのか。そうではなく、それぞれの意思や考え方を尊重すべきだと考える。例：Q. 女性は働くべきか？ A. 働くべきでも働かないべきでもなく、同じ女性でも働きたい人、働きたくない人、いろんな人がいると思う。それを尊重すべき！という意味。	男性	20代
4	個人意識アンケートを実施した場合本人の認識と周囲のその人に対する大きな隔たりを感じる。最近の四国新聞の男女別育児時間等に関するアンケート結果などでは、私的見解・認識や、その方に対する周囲との認識のズレを知ってもらう方法もよりよい啓発のツールとなるのではないか。	男性	40代

## 7 行政の政策について 5件

	意見	性別	年代
1	市内でも男女共同参画に参加している方の事は聞きますが、私はそういう機会がなくよくわかりません。（理解出来ないことも多くあります）活動等がよくわかるように気軽に参加できる会合やパンフレットの普及等市民の関心を引く様な機会を増やして欲しい。	女性	70代
2	男性、女性、それぞれの立場を尊重しつつ、協力し合えるような社会づくりに心がけて頂き、よりよい東かがわ市にしてください。	女性	60代

	意見	性別	年代
3	実際のところ、助成金をいただいた都市は活動ができるが、打ち切られてからの活動が難しいのが現状です。助成金は年度内に使いきるのではなくすれば、長く活動できる団体もあると思います。助成金を一度いただいて長期にわたって活動できている団体に対して、3年または5年に一度少し補助がいただけると活動が広がるのではないかと思います。せっかくたちあげて助成金をいただいても、1から2年で解散する団体も見られます。	女性	50代
4	災害支援設備の充実及び整備を！！	男性	30代
5	男性と女性は別の動物じゃないかな？やっぱり男女の役割はあると思います。相互が理解し合える市政を期待します。がんばってください。	男性	50代

## 8 その他 3件

	意見	性別	年代
1	見て聞いても無関心でなく、勇気を出して話しかけることが大切。	女性	70代
2	偏見や差別などの人権侵害は全くないと思います。現に女性の知事、校長先生、市長さん、社長さんなど全国で大勢います。今は昔と違って女性も社会進出しています。	女性	70代
3	LGBT をとりたてて取り上げる必要はない。	男性	60代